

対象病虫害名・学名 つる割病 *Fusarium oxysporum*

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

担当者氏名 福元 智博, 本田 傑

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県南さつま市金峰町大野 2200 農業開発総合センター 場内露地畑

対象病虫害発生状況 1) 汚染苗試験 多発生 (接種), 5 月 2 日 (植付 13 日後) に初発確認。

2) 汚染土壌試験 中発生, 5 月 30 日 (植付 20 日後) に初発確認。

耕種概要

品種: シロユタカ (購入苗), 植付日: 1) 汚染苗試験 2024 年 4 月 19 日, 2) 汚染土壌試験 2024 年 5 月 10 日, 栽植
距離: 畝間 90cm×株間 20cm, 無マルチ, 施肥: 県慣行, 土性: 淡色アロフェン質黒ボク土, 土壌消毒: なし, 試験期間
中の他防除薬剤: なし

区制・面積 1 区 3.6 m² (4.0m×0.9m) 20 株, 4 反復

4.0m	4.0m	4.0m	4.0m
0.9m 試1 IV	試2 IV	無 IV	
0.9m	無 III	試1 III	
0.9m		対 IV	
0.9m 試2 III			
0.9m		対 III	
0.9m 対 II		試2 II	無 II
0.9m		試1 II	
0.9m	対 I	試1 I	
0.9m		無 I	試2 I

試1: スクレアフロアブル 1,000 倍希釈 30 分苗浸漬

試2: ミラビスフロアブル 600 倍希釈 30 分苗浸漬

対: ペンレート水和剤 500 倍希釈 30 分苗浸漬

無: 無処理 水に 30 分苗浸漬 (風乾なし)

I, II, III, IVは反復を示す

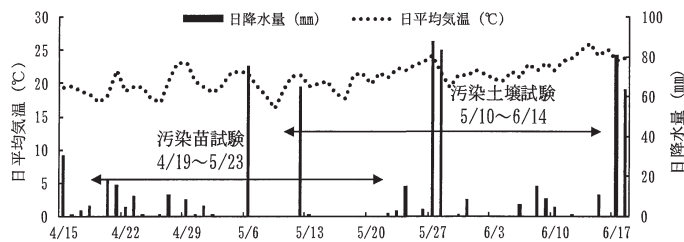
※汚染苗試験および汚染土壌試験ともに左図の配置で実施。

処理年月日, 量, 方法, 処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 1) 2024 年 4 月 19 日 (汚染苗試験), 2) 2024 年 5 月 10 日 (汚染土壌試験)

(処理方法) 所定濃度の各供試薬剤に苗の全身が浸かるよう 30 分間浸漬した。薬剤処理を行った苗は, 浸漬後に軽く風乾し, 植付を行った。

(処理前後の降雨影響) 処理は室内で実施したため降雨の影響はなく, 植付日も影響するような降雨はなかった。



(アメダス加世田観測所データ)

調査月日・方法

1) 汚染苗試験

(調査月日) 薬効調査: 2024 年 4 月 26 日 (植付 7 日後), 5 月 2 日 (植付 13 日後), 5 月 10 日 (植付 21 日後), 5 月 17 日 (植付 28 日後), 5 月 23 日 (植付 34 日後) (計 5 回)

薬害調査: 2024 年 4 月 26 日, 5 月 2 日, 5 月 10 日, 5 月 17 日, 5 月 23 日 (計 5 回)

2) 汚染土壌試験

(調査月日) 薬効調査: 2024 年 5 月 30 日 (植付 20 日後), 6 月 7 日 (植付 28 日後), 6 月 14 日 (植付 35 日後)

薬害調査: 2024 年 5 月 30 日, 6 月 7 日, 6 月 14 日

(調査方法) 各区試験期間を通じて同一株に対し, 下記の基準により調査し, 発病株率, 累積発病株率, 発病度, 累積発病度, 防除価を算出した。

発病指数 0: 発病なし, 2: つる割れ症状, 3: 枯死

発病株率 = $100 \times \{ (\text{発病株数}) / (\text{調査株}) \}$ 累積発病株率 = $100 \times \{ (\text{総発病株数}) / (\text{総調査株}) \}$ 発病度 = $\{ \Sigma (\text{各発病指数} \times \text{発病程度別株数}) / (\text{調査株数} \times 3) \} \times 100$ 累積発病度 = $\{ \Sigma (\text{各発病指数} \times \text{発病程度別総株数}) / (\text{総調査株数} \times 3) \} \times 100$

対 象 病 害 虫 名・学 名 つる割病 *Fusarium oxysporum* 試験場名 鹿児島県農業開発総合センター
調査月日・方法(続き)

(調査方法：続き) 防除価＝100×{1－(処理区での累積発病株率／無処理区での累積発病株率)}]

葉害調査：葉、茎について調査時に肉眼観察し、症状の程度を以下の内容で判定した。

－：葉害症状を認めない ＋：軽微な葉害症状を認める ++：中程度の葉害症状を認める
+++：重度の葉害症状を認める。

その他

1) 汚染苗試験

購入苗の基部を約1cm切り戻し、つる割病菌(*Fusarium oxysporum*)保存株(No.1株)1×10⁴spore/ml濃度の胞子懸濁液に苗全体を1時間浸漬後、ビニルを被せて保湿させた条件下で15時間菌糸伸長を促し、汚染苗を作成した。

2) 汚染土壌試験

フスマもみがら培地で14日間つる割病菌(*Fusarium oxysporum*)保存株(No.1株)を培養し、5月2日(植付8日前)に約300g/袋×120袋を試験面積約180㎡に均一に散布・混和し、汚染土壌を作成した。

3) 汚染土壌試験における降雨

試験開始2日後(5月12日)に65mm/日の降雨があり、畝が流されたことで無処理の一部が欠株となった。これに伴い、総発病株数を用いて累積発病株率を算出した。

3. 試 験 成 績

表1 葉効調査結果(汚染苗試験：調査日5月23日、植付34日後)

区	処理	反復	調査株数	発病程度別株数			発病度	発病株率(%)	防除価(注1)
				0	2	3			
177) スクレアフロアブル マンデーストロン 40.0%	植付前	I	20	14	4	2	23.3	30.0	
	1000倍希釈	II	20	15	2	3	21.7	25.0	
	30分間	III	20	12	5	3	31.7	40.0	
	苗浸漬	IV	20	15	4	1	18.3	25.0	
lot. BAB143		合計/累積	80	56	15	9	23.8	30.0	56.4
224) ミラピスフロアブル ビシフルメトフェン 18.3%	植付前	I	20	17	3	0	10.0	15.0	
	600倍希釈	II	20	19	0	1	5.0	5.0	
	30分間	III	20	16	4	0	13.3	20.0	
	苗浸漬	IV	20	15	2	3	21.7	25.0	
lot. A3A19		合計/累積	80	67	9	4	12.5	16.3	76.3
対) ベンレート水和剤 ベノミル 50.0%	植付前	I	20	16	2	2	16.7	20.0	
	500倍希釈	II	20	17	1	2	13.3	15.0	
	30分間	III	20	13	5	2	26.7	35.0	
	苗浸漬	IV	20	13	7	0	23.3	35.0	
		合計/累積	80	59	15	6	20.0	26.3	61.8
無処理	植付前	I	20	5	3	12	70.0	75.0	
	30分間	II	20	8	4	8	53.3	60.0	
	水に苗浸漬	III	20	5	6	9	65.0	75.0	
		IV	20	7	6	7	55.0	65.0	
		合計/累積	80	25	19	36	60.8	68.8	—

注1) 防除価＝100×{1－(処理区での累積発病株率／無処理区での累積発病株率)}]

対象病害虫名・学名 つる割病 *Fusarium oxysporum* 試験場名 鹿児島県農業開発総合センター
表2 薬効調査結果(汚染土壌試験:調査日6月14日,植付35日後)

区	処理	反復	調査株数	発病程度別株数			発病度	発病株率(%)	防除価(注1)
				0	2	3			
177) スクレアフロアブル マンデーストロン 40.0%	植付前	I	20	17	1	2	13.3	15.0	
	1000倍希釈	II	20	20	0	0	0.0	0.0	
	30分間	III	19	17	0	2	10.5	10.5	
	苗浸漬	IV	20	14	1	5	28.3	30.0	
lot. BAB143		合計/累積	79	68	2	9	13.1	13.9	66.6
224) ミラビスフロアブル ビジフルメトフェン 18.3%	植付前	I	20	18	2	0	6.7	10.0	
	600倍希釈	II	20	17	3	0	10.0	15.0	
	30分間	III	20	19	1	0	3.3	5.0	
	苗浸漬	IV	20	18	1	1	8.3	10.0	
lot. A3A19		合計/累積	80	72	7	1	7.1	10.0	76.6
対) ベンレート水和剤 ベノミル 50.0%	植付前	I	20	17	2	1	11.7	15.0	
	500倍希釈	II	20	17	3	0	10.0	15.0	
	30分間	III	20	19	1	0	3.3	5.0	
	苗浸漬	IV	20	19	0	1	5.0	5.0	
		合計/累積	80	72	6	2	7.5	10.0	76.0
無処理	植付前	I	20	13	6	1	25.0	35.0	
	30分間	II	20	12	4	4	33.3	40.0	
	水に苗浸漬	III	20	14	2	4	26.7	30.0	
		IV	17	6	3	8	58.8	64.7	
		合計/累積	77	45	15	17	35.1	41.6	—

注1) 防除価=100×{1-(処理区での累積発病株率/無処理区での累積発病株率)}

表3 薬害調査結果

区	処理	反復	汚染苗試験					汚染土壌試験		
			茎・葉					茎・葉		
			4月26日 処理 7日後	5月2日 処理 13日後	5月10日 処理 21日後	5月17日 処理 28日後	5月23日 処理 34日後	5月30日 処理 20日後	6月7日 処理 28日後	6月14日 処理 35日後
177) スクレアフロアブル マンデーストロン 40.0%	植付前	I	—	—	—	—	—	—	—	—
	1000倍希釈	II	—	—	—	—	—	—	—	—
	30分間	III	—	—	—	—	—	—	—	—
	苗浸漬	IV	—	—	—	—	—	—	—	—
224) ミラビスフロアブル ビジフルメトフェン 18.3%	植付前	I	—	—	—	—	—	—	—	—
	600倍希釈	II	—	—	—	—	—	—	—	—
	30分間	III	—	—	—	—	—	—	—	—
	苗浸漬	IV	—	—	—	—	—	—	—	—
対) ベンレート水和剤 ベノミル 50.0%	植付前	I	—	—	—	—	—	—	—	—
	500倍希釈	II	—	—	—	—	—	—	—	—
	30分間	III	—	—	—	—	—	—	—	—
	苗浸漬	IV	—	—	—	—	—	—	—	—
無処理	植付前	I	—	—	—	—	—	—	—	—
	30分間	II	—	—	—	—	—	—	—	—
	水に苗浸漬	III	—	—	—	—	—	—	—	—
		IV	—	—	—	—	—	—	—	—

4. 考察

本試験では、サツマイモ苗消毒における薬剤の薬効を評価するために、汚染苗および汚染土壌の2種類の試験を実施した。汚染苗試験は植付13日後(5月2日)、汚染土壌試験は植付20日後(5月30日)に初発生を認めた。その後、両試験とも病勢は順調に進み、汚染苗試験は最終調査日(5月23日)に無処理の累積発病株率68.8%の多発生、汚染土壌試験は最終調査日(6月14日)に無処理の累積発病株率41.6%の中発生となった。

そのような条件下で、対照剤のベンレート水和剤500倍希釈30分苗浸漬区は、最終調査において汚染苗試験で防除価61.8、汚染土壌試験で防除価76.0の防除効果が認められ、本試験において効果の判定は可能であると判断した。効果の判定は両試験の累積発病株率から算出した防除価を用いて総合的に評価した。

177) スクレアフロアブル 1,000 倍希釈 30 分苗浸漬 CBB-

本剤の 1,000 倍希釈 30 分間苗浸漬は、対照のベンレート水和剤 500 倍希釈 30 分間苗浸漬と比較してやや劣る効果であった。無処理と比較して効果は認められ、実用性はあると考えられる。

なお、本処理による葉害は認められなかった。

224) ミラピスフロアブル 600 倍希釈 30 分苗浸漬 AAA-

本剤の 600 倍希釈 30 分間苗浸漬は、対照のベンレート水和剤 500 倍希釈 30 分間苗浸漬と比較して優る効果であった。無処理と比較して効果は高く、実用性は高いと考えられる。

なお、本処理による葉害は認められなかった。

試験場名 宮崎県総合農業試験場

担当者氏名 加治佐 光洋

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討
2. 試験方法 試験地場所 宮崎県宮崎市佐土原町 宮崎県総合農業試験場
対象病害虫発生状況 少発生（接種）

耕種概要
品種:高系 14 号 定植:2024 年 6 月 7 日 露地栽培
栽植距離:畝幅 110 cm×株間 28 cm 施肥:県慣行に準じた
土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成

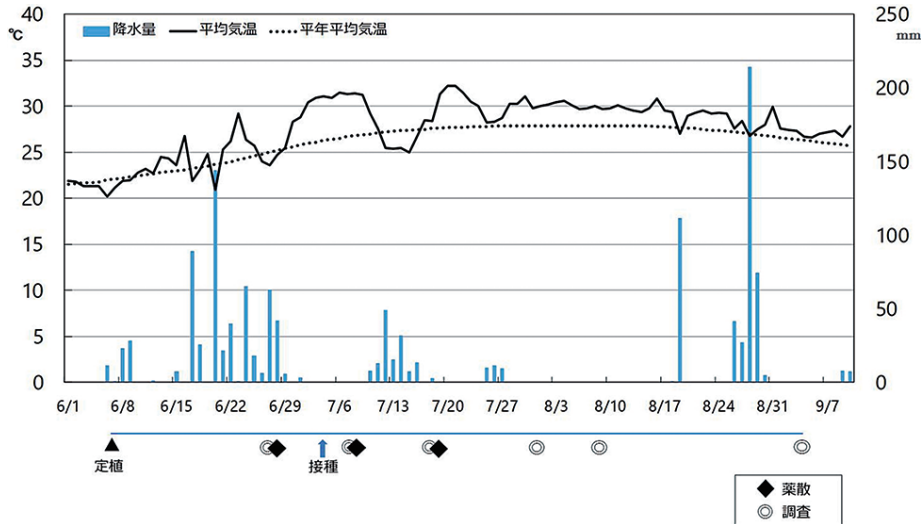
3-Ⅰ	6-Ⅲ	9-Ⅱ	11-Ⅰ	2-Ⅲ	5-Ⅰ	10-Ⅰ	1-Ⅰ	4-Ⅱ	7-Ⅱ	8-Ⅲ
2-Ⅰ	5-Ⅱ	8-Ⅰ	1-Ⅱ	4-Ⅲ	7-Ⅰ	9-Ⅲ	11-Ⅲ	3-Ⅱ	6-Ⅱ	10-Ⅲ
1-Ⅲ	4-Ⅰ	7-Ⅲ	10-Ⅱ	3-Ⅲ	6-Ⅰ	8-Ⅱ	2-Ⅱ	5-Ⅲ	9-Ⅰ	11-Ⅱ

1 CAF-2001SC、2 MSF-2302 顆粒水和剤、3 スクレアフロアブル、4 フジドーLフロアブル、5 フセキフロアブル、
6 ベジターボ DF、7 メジャーフロアブル、8 モンガリット 1 キロ粒剤（定植 3 週間後処理）、9 モンガリット 1 キロ粒剤（定植 6 週間後
処理）、10 アミスター20フロアブル（対照）、11 無処理
1区 25.2 m²（4.2m×6 m） 1区 39 株 各 3 連制

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

（処理年月日）1～7 生育期散布剤：6 月 28 日、7 月 8 日、19 日 計 3 回、8 モンガリット 1 キロ粒剤（定植 3 週間後処理）：6 月
28 日 計 1 回、9 モンガリット 1 キロ粒剤（定植 6 週間後処理）：7 月 19 日 計 1 回
（処理方法）1～7 の生育期散布剤：所定の濃度に希釈した薬液を動力噴霧器を用いて 10aあたり 200L 散布した。8、9 のモンガリ
ット 1 キロ粒剤は各 10aあたり 1kg を散布。
（処理前後の降雨）処理前後の降雨はなかった。

試験期間中の気象条件



観測地点：宮崎県宮崎のアメダスデータ

調査月日・方法

（調査月日）2024 年 6 月 27 日、7 月 8、19、26 日、8 月 1 日、8 日、9 月 5 日 計 7 回調査。
（調査方法）各区試験期間を通じて同一の 39 株について、下記の発病指数別に調査し、発病株率と発病度を算出した。
【発病指数】 0: 病徴なし 1: 株基部の黒変(約 15cm 以内) 2: 株基部の黒変(約 15cm 以上) 3: 株基部の黒変が拡大または枯死
発病度 = { $\sum$ (程度別発病株数 × 発病指数) × 100 } ÷ (総調査株数 × 3)
薬害は、茎葉を対象に、調査時に以下の基準で肉眼により観察した。
【調査基準】 ー: 薬害を認めない +: 軽微な薬害を認める ++: 中度の薬害を認める +++: 重度の薬害を認める
その他

7 月 4 日に、基腐病を接種発病させたカンショ苗を各試験区の緩衝帯に移植し、感染源とした。

(2024) 年 度 委 託		作物名 (かんしょ)	
対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名		基腐病 <i>Diaporthe destruens</i>	試験場名 宮崎県総合農業試験場

3. 試 験 成 績

表 1 基腐病の発病状況

供試薬剤	希釈 倍数	連制	～7月19日 (定植43日後)							7月26日 (定植50日後)							8月1日 (定植56日後)							防 除 価
			調査 株数	程度別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	調査 株数	程度別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	調査 株数	程度別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	
				0	1	2	3				0	1	2	3				0	1	2	3			
5) CAF-2001SC 新規化合物 75g/L LOT. ENBK-176488-070	1000倍	I	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0		
III		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	38	0	0	1	2.6	2.6	39	38	0	0	1	2.6	2.6		
平均								0.0	0.0						0.9	0.9						0.9	0.9	65.4
18) MSF-2302顆粒水和剤 アブゾロン 20% LOT. 24F-6890	1000倍	I	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	38	1	0	0	2.6	0.9	39	36	2	1	0	7.7	3.4		
III		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	38	1	0	0	2.6	0.9	39	38	1	0	0	2.6	0.9		
平均								0.0	0.0						1.7	0.6						3.4	1.4	46.2
177) スクレアフロアブル マンデストロビン40.0% LOT. BAB143	3000倍	I	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	38	0	1	0	2.6	1.7	
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0		
III		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	38	0	1	0	2.6	1.7	39	38	0	1	0	2.6	1.7		
平均								0.0	0.0						0.9	0.6						1.7	1.1	57.7
212) フジドールフロアブル 塩基性硫酸銅23.0% LOT. 035-320011	500倍	I	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	37	1	1	0	5.1	2.6	39	37	1	0	1	5.1	3.4	
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	38	0	1	0	2.6	1.7		
III		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0		
平均								0.0	0.0						1.7	0.9						2.6	1.7	34.6
214) フセキフロアブル ビリダクロホル 35.0% LOT. AD17-5F2401	3000倍	I	39	37	2	0	0	5.1	1.7	39	37	1	1	0	5.1	2.6	39	37	0	2	0	5.1	3.4	
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0		
III		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	38	1	0	0	2.6	0.9	39	38	0	1	0	2.6	1.7		
平均								1.7	0.6						2.6	1.1						2.6	1.7	34.6
220) ベジターボDF ポリオキシシロキサン亜鉛塩10% LOT. 220210T	2000倍	I	39	38	0	1	0	2.6	1.7	39	37	0	2	0	5.1	3.4	39	37	0	2	0	5.1	3.4	
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0		
III		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0		
平均								0.9	0.6						1.7	1.1						1.7	1.1	57.7
227) メジャーフロアブル ビコキシストロビン 22.5% LOT. C3Y05	2000倍	I	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	
II		39	38	1	0	0	2.6	0.9	39	38	1	0	0	2.6	0.9	39	38	1	0	0	2.6	0.9		
III		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	38	1	0	0	2.6	0.9	39	38	1	0	0	2.6	0.9		
平均								0.9	0.3						1.7	0.6						1.7	0.6	76.9
230) モンガリット1キロ粒剤 シメタール 4.5% LOT. 31G60002	1kg/10a (定植3週間 後)	I	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	38	1	0	0	2.6	0.9	
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0		
III		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0		
平均								0.0	0.0						0.0	0.0						0.9	0.3	88.5
230) モンガリット1キロ粒剤 シメタール 4.5% LOT. 31G60002	1kg/10a (定植6週間 後)	I	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	38	1	0	0	2.6	0.9	39	38	0	0	1	2.6	2.6	
II		39	38	1	0	0	2.6	0.9	39	36	1	1	1	7.7	5.1	39	36	1	0	2	7.7	6.0		
III		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	38	1	0	0	2.6	0.9		
平均								0.9	0.3						3.4	2.0						4.3	3.1	-
対照) アミスター20フロアブル アゾキシストロビン20.0% 無処理	2000倍	I	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	38	1	0	0	2.6	0.9	39	38	1	0	0	2.6	0.9		
III		39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0		
平均								0.0	0.0						0.9	0.3						0.9	0.3	88.5
無処理		I	39	38	1	0	0	2.6	0.9	39	38	0	1	0	2.6	1.7	39	37	1	0	1	5.1	3.4	
		II	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	39	39	0	0	0	0.0	0.0	
		III	39	38	1	0	0	2.6	0.9	39	37	1	0	1	5.1	3.4	39	36	2	0	1	7.7	4.3	
		平均						1.7	0.6						2.6	1.7						4.3	2.6	

供試薬剤	希釈 倍数	連制	8月8日(定植63日後)							9月5日(定植90日後)							平均(8/1.8、9/5)						
			調査 株数	程度別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	防 除 価	調査 株数	程度別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	防 除 価	発病 株率 (%)	発病度	防 除 価	各調査日 薬害	
				0	1	2	3					0	1	2	3								0
5) CAF-2001SC 新規化合物 75g/L LOT. ENBK-176488-070	1000倍	I	39	39	0	0	0	0.0	0.0		39	39	0	0	0	0.0	0.0						—
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0		39	39	0	0	0	0.0	0.0							
III		39	38	0	0	1	2.6	2.6		39	38	0	0	1	2.6	2.6							
平均							0.9	0.9	67.9							0.9	0.9	87.8	0.9	0.9	79.1		
18) MSF-2302顆粒水和剤 アゾキストロビン 20% LOT. 24F-6890	1000倍	I	39	38	0	1	2	7.7	6.8		39	38	0	1	2	7.7	6.8					—	
II		39	36	0	1	2	7.7	6.8		39	36	0	1	2	7.7	6.8							
III		39	38	0	0	1	2.6	2.6		39	37	0	0	2	5.1	5.1							
平均							4.3	3.7	—							5.1	4.8	35.1	4.3	3.3	23.3		
177) スクレアフロアブル アゾキストロビン 40.0% LOT. BAB143	3000倍	I	39	38	0	0	1	2.6	2.6		39	38	0	0	1	2.6	2.6					—	
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0		39	39	0	0	0	0.0	0.0							
III		39	38	0	1	0	2.6	1.7		39	38	0	0	1	2.6	2.6							
平均							1.7	1.4	50.0							1.7	1.7	77.0	1.7	1.4	67.4		
212) フジドールフロアブル 塩基性硫酸銅 23.0% LOT. 035-320011	500倍	I	39	37	0	0	2	5.1	5.1		39	37	0	0	2	5.1	5.1					—	
II		39	38	0	1	0	2.6	1.7		39	37	1	1	0	5.1	2.6							
III		39	39	0	0	0	0.0	0.0		39	39	0	0	0	0.0	0.0							
平均							2.6	2.3	17.9							3.4	2.6	64.9	2.8	2.2	48.8		
214) フセキフロアブル ビリダクロメチル 35.0% LOT. AD17-5F2401	3000倍	I	39	37	0	2	0	5.1	3.4		39	37	0	0	2	5.1	5.1					—	
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0		39	39	0	0	0	0.0	0.0							
III		39	38	0	1	0	2.6	1.7		39	38	0	0	1	2.6	2.6							
平均							2.6	1.7	39.3							2.6	2.6	64.9	2.6	2.0	53.5		
220) ベジターボDF ポリオキシシロキサン亜鉛塩 10% LOT. 220210T	2000倍	I	39	37	0	2	0	5.1	3.4		39	37	0	1	1	5.1	4.3					—	
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0		39	39	0	0	0	0.0	0.0							
III		39	39	0	0	0	0.0	0.0		39	39	0	0	0	0.0	0.0							
平均							1.7	1.1	60.7							1.7	1.4	81.1	1.7	1.2	72.1		
227) メジャーフロアブル ビコキシロビン 22.5% LOT. C3Y05	2000倍	I	39	39	0	0	0	0.0	0.0		39	39	0	0	0	0.0	0.0					—	
II		39	38	0	0	1	2.6	2.6		39	38	0	0	1	2.6	2.6							
III		39	38	0	1	0	2.6	1.7		39	38	0	0	1	2.6	2.6							
平均							1.7	1.4	50.0							1.7	1.7	77.0	1.7	1.2	72.1		
230) モンガリット1キロ粒剤 シメタナール 4.5% LOT. 31G60002	1kg/10a (定植3週間 後)	I	39	38	0	1	0	2.6	1.7		39	36	0	2	1	7.7	6.0					—	
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0		39	39	0	0	0	0.0	0.0							
III		39	38	1	0	0	2.6	0.9		39	37	0	0	2	5.1	5.1							
平均							1.7	0.9	67.9							4.3	3.7	50.0	2.3	1.6	62.8		
230) モンガリット1キロ粒剤 シメタナール 4.5% LOT. 31G60002	1kg/10a (定植6週間 後)	I	39	38	0	0	1	2.6	2.6		39	38	0	0	1	2.6	2.6					—	
II		39	36	1	0	2	7.7	6.0		39	35	0	1	3	10.3	9.4							
III		39	38	0	0	1	2.6	2.6		39	37	0	1	1	5.1	4.3							
平均							4.3	3.7	—							6.0	5.4	27.0	4.8	4.1	4.7		
対照) アミスター20フロアブル アゾキストロビン 20.0%	2000倍	I	39	39	0	0	0	0.0	0.0		39	38	0	1	0	2.6	1.7					—	
II		39	38	1	0	0	2.6	0.9		39	38	0	0	1	2.6	2.6							
III		39	39	0	0	0	0.0	0.0		39	39	0	0	0	0.0	0.0							
平均							0.9	0.3	89.3							1.7	1.4	81.1	1.1	0.7	83.7		
無処理		I	39	37	1	0	1	5.1	3.4		39	37	0	1	1	5.1	4.3						
II		39	39	0	0	0	0.0	0.0		39	38	1	0	0	2.6	0.9							
III		39	36	1	1	1	7.7	5.1		39	32	0	1	6	17.9	17.1							
平均							4.3	2.8								8.5	7.4		5.7	4.3			

4. 考 察

苗は全て茎頂培養苗由来の健全なものを使用した。7月19日に初発を確認、その後病勢は徐々に増加し、定植後90日(9月5日)の無処理区において発病株率8.5%、発病度7.4の少発生条件下での試験となった。効果判定については、定植後55日(8月1日)、62日(8月8日)、90日後(9月5日)の調査結果の平均を用い、一般病害の基準で行った。

5) CAF-2001SC(BAA-)

本剤の1000倍散布は、対照のアミスター20フロアブル2000倍散布と比較して防除効果は同等。また、無処理区と比較して防除効果は高い。実用性は高いと考えられる。なお、調査期間を通して薬害は認められなかった。

18) MSF-2302 顆粒水和剤(DDD-)

本剤の1000倍散布は、対照のアミスター20フロアブル2000倍散布と比較して防除効果は劣る。また、無処理区と比較して防除効果は低い。実用性はないと考えられる。なお、調査期間を通して薬害は認められなかった。

177) スクレアフロアブル (CBB-)

本剤の 3000 倍散布は、対照のアミスター20 フロアブル 2000 倍散布と比較して防除効果はやや劣る。また、無処理区と比較して防除効果はある。実用性はあると考えられる。また、調査期間を通して薬害は認められなかった。

212) フジドーL フロアブル (DCC-)

本剤の 500 倍散布は、対照のアミスター20 フロアブル 2000 倍散布と比較して防除効果は劣る。また、無処理区と比較して効果は認められるがその程度は低い。効果はやや低い実用性はあると考えられる。なお、調査期間を通して薬害は認められなかった。

214) フェキフロアブル (DCC-)

本剤の 3000 倍散布は、対照のアミスター20 フロアブル 2000 倍散布と比較して防除効果は劣る。また、無処理区と比較して効果は認められるがその程度は低い。効果はやや低い実用性はあると考えられる。なお、調査期間を通して薬害は認められなかった。

220) ベジターボ DF (CBB-)

本剤の 2000 倍散布は、対照のアミスター20 フロアブル 2000 倍散布と比較して防除効果はやや劣る。また、無処理区と比較して防除効果はある。実用性はあると考えられる。なお、調査期間を通して薬害は認められなかった。

227) メジャーフロアブル (CBB-)

本剤の 2000 倍散布は、対照のアミスター20 フロアブル 2000 倍散布と比較して防除効果はやや劣る。また、無処理区と比較して防除効果はある。実用性はあると考えられる。なお、調査期間を通して薬害は認められなかった。

230) モンガリット 1 キロ粒剤 定植 3 週間後処理 (DCC-)

本剤の 1kg/10a 散布は、対照のアミスター20 フロアブル 2000 倍散布と比較して防除効果はやや劣る。また、無処理区と比較して防除効果はある。実用性はあると考えられる。なお、調査期間を通して薬害は認められなかった。

230) モンガリット 1 キロ粒剤 定植 6 週間後処理 (DDD-)

本剤の 1000 倍散布は、対照のアミスター20 フロアブル 2000 倍散布と比較して防除効果は劣る。また、無処理区と比較して防除効果は低い。実用性はないと考えられる。なお、調査期間を通して薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 宮崎県総合農業試験場

担当者氏名 加治佐 光洋

1. 試 験 目 的 防除効果及び被害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 宮崎県宮崎市佐土原町 宮崎県総合農業試験場

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 少発生

耕種概要

品種:高系 14 号 定植:2024 年 5 月 23 日 露地栽培

栽植距離:畝幅 110 cm×株間 28 cm 施肥:県慣行に準じた

土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成

3-Ⅲ	2-Ⅱ	1-Ⅰ
2-Ⅲ	1-Ⅱ	3-Ⅰ
1-Ⅲ	3-Ⅱ	2-Ⅰ

- 1 スクレアフロアブル
- 2 ベンレート水和剤
- 3 無処理

1区 23.3 m² (3.7m×6.3m) 1 区 40 株 各 3 連制

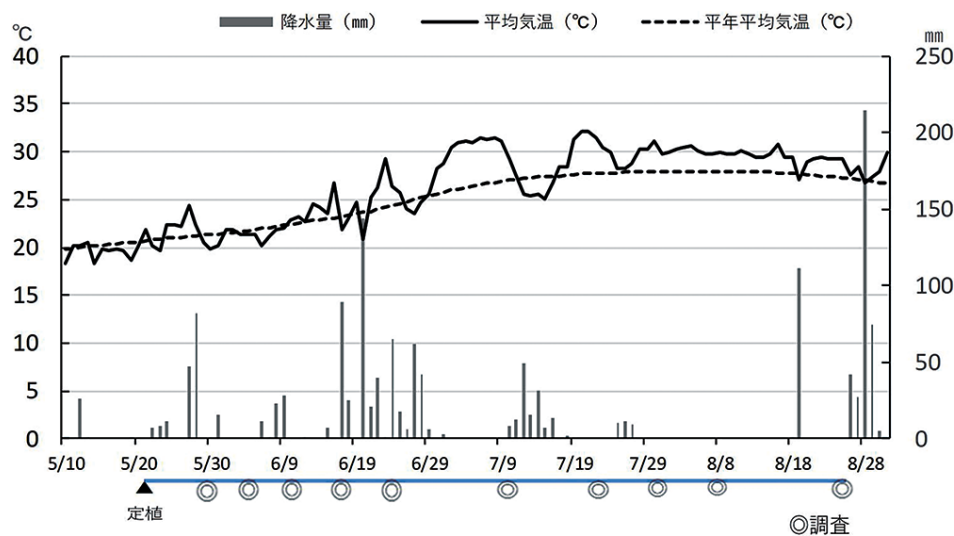
処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日)2024 年 5 月 23 日(定植直前)

(処理方法) 所定の濃度の薬剤に苗の全身が浸かるよう 30 分間浸漬し風乾した後、定植した。

(処理前後の降雨)処理前後の降雨はなかった。

試験期間中の気象条件



観測地点:宮崎県宮崎のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 初発確認前は定植後から約 7 日間隔、初発確認後は 6 月 24 日、7 月 11、24、31 日、8 月 8、26 日の計 6 回調査。

(調査方法) 各区試験期間を通じて同一の 40 株について下記の発病指数別に調査し、発病株率と発病度を算出した。

【発病指数】 0:病徴なし 1:株基部の黒変(約 15cm 以内) 2:株基部の黒変(約 15cm 以上) 3:株基部の黒変が拡大または枯死
発病度 = { $\sum$ (程度別発病株数 × 発病指数) × 100 } ÷ (総調査株数 × 3)

薬害は、茎葉を対象に、調査時に以下の基準で肉眼により観察した。

【調査基準】 - :薬害を認めない + :軽微な薬害を認める ++ :中度の薬害を認める +++ :重度の薬害を認める

その他

昨年度、基腐病が認められた汚染ほ場を用いて試験を実施した。

3. 試 験 成 績

表 1 基腐病の発病状況

供試薬剤	希釈 倍数	連制	～6月24日 (定植32日後)							7月11日 (定植49日後)						
			調査 株数	程度別発病株数				発病株率 (%)	発病度	調査 株数	程度別発病株数				発病株率 (%)	発病度
				0	1	2	3				0	1	2	3		
177) スクレアフロアブル マンデ ストロピ ン40.0% LOT. BAB143	1000倍	I	40	40	0	0	0	0.0	0.0	40	40	0	0	0	0.0	0.0
		II	40	40	0	0	0	0.0	0.0	40	40	0	0	0	0.0	0.0
		III	40	40	0	0	0	0.0	0.0	40	40	0	0	0	0.0	0.0
		平均						0.0	0.0						0.0	0.0
対照) ベンレート水和剤 ベノミル50.0%	500倍	I	40	40	0	0	0	0.0	0.0	40	39	1	0	0	2.5	0.8
		II	40	40	0	0	0	0.0	0.0	40	40	0	0	0	0.0	0.0
		III	40	40	0	0	0	0.0	0.0	40	40	0	0	0	0.0	0.0
		平均						0.0	0.0						0.8	0.3
無処理		I	40	40	0	0	0	0.0	0.0	40	40	0	0	0	0.0	0.0
		II	40	39	0	1	0	2.5	1.7	40	39	0	1	0	2.5	1.7
		III	40	40	0	0	0	0.0	0.0	40	40	0	0	0	0.0	0.0
		平均						0.8	0.6						0.8	0.6

供試薬剤	希釈 倍数	連制	7月24日 (定植62日後)							7月31日 (定植69日後)								
			調査 株数	程度別発病株数				発病株率 (%)	発病度	防 除 価	調査 株数	程度別発病株数				発病株率 (%)	発病度	防 除 価
				0	1	2	3					0	1	2	3			
177) スクレアフロアブル マンデ ストロピ ン40.0% LOT. BAB143	1000倍	I	40	40	0	0	0	0.0	0.0		40	40	0	0	0	0.0	0.0	
		II	40	40	0	0	0	0.0	0.0		40	40	0	0	0	0.0	0.0	
		III	40	39	1	0	0	2.5	0.8		40	39	1	0	0	2.5	0.8	
		平均						0.8	0.3	90.9						0.8	0.3	94.1
対照) ベンレート水和剤 ベノミル50.0%	500倍	I	40	39	1	0	0	2.5	0.8		40	39	1	0	0	2.5	0.8	
		II	40	39	1	0	0	2.5	0.8		40	39	1	0	0	2.5	0.8	
		III	40	40	0	0	0	0.0	0.0		40	40	0	0	0	0.0	0.0	
		平均						1.7	0.6	81.8						1.7	0.6	88.2
無処理		I	40	40	0	0	0	0.0	0.0		40	39	0	1	0	2.5	1.7	
		II	40	36	3	1	0	10.0	4.2		40	34	3	3	0	15.0	7.5	
		III	40	35	4	1	0	12.5	5.0		40	35	4	1	0	12.5	5.0	
		平均						7.5	3.1							10.0	4.7	

供試薬剤	希釈 倍数	連制	8月8日 (定植77日後)							8月26日 (定植95日後)								
			調査 株数	程度別発病株数				発病株率 (%)	発病度	防 除 価	調査 株数	程度別発病株数				発病株率 (%)	発病度	防 除 価
				0	1	2	3					0	1	2	3			
177) スクレアフロアブル マンデ ストロピ ン40.0% LOT. BAB143	1000倍	I	40	40	0	0	0	0.0	0.0		40	40	0	0	0	0.0	0.0	
		II	40	40	0	0	0	0.0	0.0		40	39	0	0	1	2.5	2.5	
		III	40	39	0	0	1	2.5	2.5		40	37	0	2	1	7.5	5.8	
		平均						0.8	0.8	90.6						3.3	2.8	72.2
対照) ベンレート水和剤 ベノミル50.0%	500倍	I	40	39	1	0	0	2.5	0.8		40	37	1	1	1	7.5	5.0	
		II	40	39	1	0	0	2.5	0.8		40	38	1	0	1	5.0	3.3	
		III	40	40	0	0	0	0.0	0.0		40	39	0	1	0	2.5	1.7	
		平均						1.7	0.6	93.8						5.0	3.3	66.7
無処理		I	40	39	0	0	1	2.5	2.5		40	39	0	0	1	2.5	2.5	
		II	40	33	1	0	6	17.5	15.8		40	33	0	1	6	17.5	16.7	
		III	40	35	2	1	2	12.5	8.3		40	35	1	0	4	12.5	10.8	
		平均						10.8	8.9							10.8	10.0	

供試薬剤	希釈 倍数	平均 (7/31、8/8、26)			各調査日
		発病株率 (%)	発病度	防 除 価	葉害
177) スクレアフロアブル マデ ストピ ン40.0% LOT. BAB143	1000倍				-
		1.7	1.3	84.7	-
対照) ベンレート水和剤 ベノミル50.0%	500倍				-
		2.8	1.9	78.2	-
無処理					-
		10.6	8.5	-	-

4. 考 察

苗は全て茎頂培養苗由来の健全なものを使用した。6月24日に初発を確認。その後病勢は少しずつ進展し、定植後95日(8月26日)の無処理区において発病株率10.8%、発病度10.0の少発生条件下での試験となった。効果判定については、定植後69日(7月31日)、77日(8月8日)、95日(8月26日)の調査結果の平均を用い、一般病害の基準で行った。

177) スクレアフロアブル (BAA-)

本剤の1000倍処理は、対照のベンレート水和剤500倍処理と比較し、ほぼ同等の防除効果が認められた。また、無処理区と比較して効果は高く、実用性は高いと考えられた。なお、葉害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 基腐病 *Phomopsis destruens*

試験場名 宮崎県総合農業試験場

担当者氏名 加治佐 光洋

1. 試験目的 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 宮崎県宮崎市佐土原町 宮崎県総合農業試験場

対象病害虫発生状況 中発生（接種）

耕種概要

品種:高系 14 号 収穫時期:2023 年10 月 露地栽培

区制・面積・試験区の構成

宮崎県宮崎市佐土原町総合農業試験場内にて収穫した種芋を水洗した後、室温・暗室にて約 2 ヶ月間保管し、12 月 15 日から試験に供試した。1 区 21～22 個 3 反復。

(処理年月日)2023 年 12 月 15 日

(処理方法)2023 年 12 月 15 日に、塊根のなり首部に基腐病菌孢子懸濁液(6.3×10^4 個/ml)を接種したのち、25℃で 3 日間感染促進させた。12 月 18 日に、接種部位を約 1cm 切除し、所定の濃度に希釈した薬液に 30 分間浸漬した後風乾し、1 個ずつビニール袋に詰めて 25℃の定温室、暗黒条件下で管理した。

試験期間中の気象条件

室内試験のため処理前後の降雨の影響はなし。

調査月日・方法

(調査月日) 2024 年 1 月 27 日(40 日後)に、各処理区の芋の腐敗芋数を調査した。薬害は萌芽した芋について肉眼により観察した。

－：薬害を認めない ＋：軽度の薬害を認める ++：中程度の薬害を認める +++：重度の薬害を認める

その他 なし

3. 試験成績

供試薬剤	希釈倍率	区制	調査塊根数	発病塊根数	正常萌芽塊根数	無萌芽塊根数	萌芽枯死塊根数	萌芽枯死率(%)	発病塊根率(%)	防除価	薬害
168 ベルクートフロアブル イミダクジナールベシ酸塩30.0% LOT. 5CB-06G	500倍	I	22	2	20	0	2	9.1	9.1		－
		II	22	3	19	1	2	9.1	13.6		－
		III	22	2	20	0	2	9.1	9.1		－
		平均						9.1	10.6	71.3	
対照 トップジンM水和剤 チオファネートメチル70.0%	500倍	I	22	0	22	0	0	0.0	0.0		－
		II	22	2	20	0	2	9.1	9.1		－
		III	21	2	19	0	2	9.5	9.5		－
		平均						6.2	6.2	83.2	
無処理		I	22	7	15	3	4	18.2	31.8		
		II	22	8	14	0	8	36.4	36.4		
		III	21	9	12	2	7	33.3	42.9		
		平均						29.3	37.0		

4. 考 察

無処理区の発病塊率は 37.0%と中発生の条件下での試験であった。効果の判定は発病塊根率の防除価より判定した。

168)ベルクートフロアブル 500 倍 種芋浸漬 30 分間 (CBB-)

本剤の 500 倍 30 分間種芋浸漬は、対照のトップジン M 水和剤 500 倍の 30 分間種芋浸漬と比較して効果はやや劣り、無処理区と比較して効果はある。実用性はあると考えられる。薬害は見られなかった。

対象病虫害名・学名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

担当者氏名 四蔵 文夫, 本田 傑

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県南さつま市金峰町大野 2200 農業開発総合センター 場内露地ほ場

対象病虫害発生状況 少発生 (間接接種), 6 月 27 日に初発を確認

耕種概要

品種: コガネセンガン (購入苗, ベンレート水和剤 500 倍 30 分全身浸漬実施), 定植: 2023 年 5 月 24 日,
栽植距離: 畝間 100 cm × 株間 30 cm, 黒色マルチ (生分解性マルチ), 土性: 黒ボク土壌,
試験期間中の防除薬剤: 8 月 23 日と 9 月 13 日 プレオフロアブル, 施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積 1 区 12.0 m² (6.0m × 2.0m) 40 株 3 連制

2m	1-Ⅲ		
2m	無-Ⅲ		対-Ⅰ
2m		1-Ⅱ	
2m			
2m		無-Ⅱ	1-Ⅰ
2m		対-Ⅱ	
2m			無-Ⅰ
2m	対-Ⅲ		
	6m	6m	6m

1: CAF-2001SC

対: アミスター20 フロアブル

無: 無処理

※Ⅰ, Ⅱ, Ⅲは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

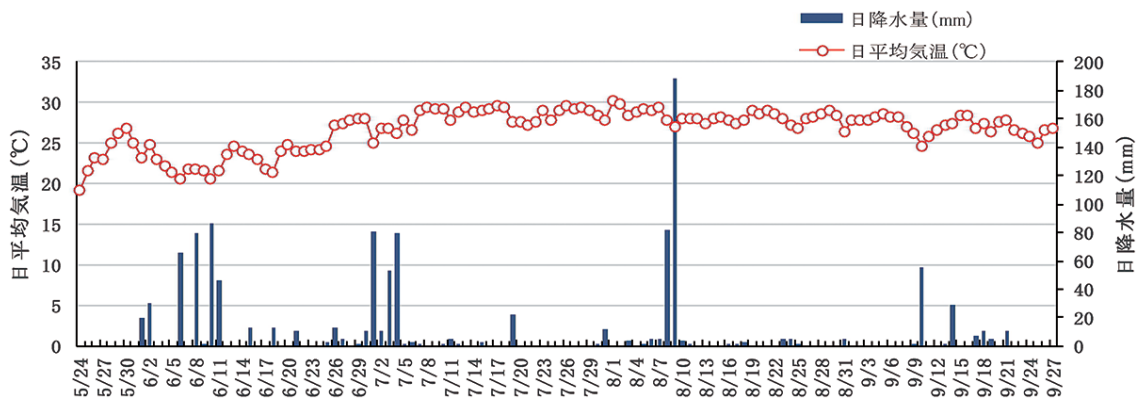
(処理年月日) 2023 年 6 月 28 日, 7 月 13 日, 27 日, 8 月 14 日, 29 日の計 5 回

初発確認翌日から約 2 週間隔で 3 回処理を予定したが, 評価可能な発病度が見込めなかったため, 無処理区の発病度が 5.0 程度に達するまで処理を継続した。

(処理方法) 所定濃度の各供試薬剤について, 6 月 28 日は 200L/10a 相当量, 7 月 13 日以降は 240L/10a 相当量を, 背負い式充電噴霧機を用いて, 区全体に散布した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後に試験に影響する降雨はなかった。

試験期間中の気象条件 観測地点: アメダスポイント (加世田)



調査月日・方法

(調査月日) 6 月 22 日, 27 日, 7 月 10 日, 24 日, 8 月 7 日, 14 日, 24 日, 9 月 5 日, 12 日, 19 日の計 10 回。(一部データ省略)

(調査方法) 各区試験期間を通じて同一の 30 株に対し (ただし, 基腐病以外の原因による枯死株発生時は調査株から除外), 下記の基準により調査し, 発病株率, 発病度を算出した。

発病指数 0: 発病なし, 2: 株基部の黒変 (約 10cm 以内), 3: 株基部の黒変が拡大または枯死

発病度 = {Σ (各発病指数別株数 × 発病指数) / (調査株数 × 3)} × 100

葉害は随時肉眼観察し, 次の基準により程度を分けた。

-: 葉害を認めない。+: 軽微な葉害症状を認める。++: 中程度の葉害症状を認める。+++ : 重度の葉害症状を認める。

対 象 病 害 虫 ・学 名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

その他

前年度に基腐病の発生が認められた汚染ほ場を用いて試験を実施した。

サツマイモ基腐病菌 (*Diaporthe destruens*) 保存株 (Dd1 株) を 1×10^6 spore/ml 濃度で有傷接種し作製した発病株を、初回処理翌日より株間に配置し間接接種した。なお、配置した発病株は、各処理前に回収、処理翌日以降に再配置し、最終処理後は撤去した。

3. 試験成績

区	処理方法	調査 反復	6月27日(定植34日後・初回処理1日前)							7月24日(定植61日後)						
			調査 株数	発病程度別株数			発病株率	発病度	防除価	調査 株数	発病程度別株数			発病株率	発病度	防除価
				0	2	3					0	2	3			
5) CAF-2001 SC 新規化合物 75g/L	茎葉散布	I	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		II	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		5回 III	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		計/平均	90	90	0	0	0.0	0.0	—	90	90	0	0	0.0	0.0	—
		Lot No.GIC-4-3-3														
対) アミスター20フロアブル アゾキシストロビン 20.0%	茎葉散布	I	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		II	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		5回 III	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		計/平均	90	90	0	0	0.0	0.0	—	90	90	0	0	0.0	0.0	—
		Lot No.GIC-4-3-3														
無処理	—	I	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		II	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		III	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		計/平均	90	90	0	0	0.0	0.0	—	90	90	0	0	0.0	0.0	—
		Lot No.GIC-4-3-3														

区	処理方法	調査 反復	8月24日(定植92日後)							9月5日(定植104日後・最終処理7日後)						
			調査 株数	発病程度別株数			発病株率	発病度	防除価	調査 株数	発病程度別株数			発病株率	発病度	防除価
				0	2	3					0	2	3			
5) CAF-2001 SC 新規化合物 75g/L	茎葉散布	I	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		II	30	29	0	1	3.3	3.3		30	29	0	1	3.3	3.3	
		5回 III	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		計/平均	90	89	0	1	1.1	1.1	75.0	90	89	0	1	1.1	1.1	78.8
		Lot No.GIC-4-3-3														
対) アミスター20フロアブル アゾキシストロビン 20.0%	茎葉散布	I	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		II	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		5回 III	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0	
		計/平均	90	90	0	0	0.0	0.0	100.0	90	90	0	0	0.0	0.0	100.0
		Lot No.GIC-4-3-3														
無処理	—	I	30	28	0	2	6.7	6.7		30	28	0	2	6.7	6.7	
		II	30	29	0	1	3.3	3.3		30	29	0	1	3.3	3.3	
		III	30	29	0	1	3.3	3.3		30	28	1	1	6.7	5.6	
		計/平均	90	86	0	4	4.4	4.4	—	90	85	1	4	5.6	5.2	—
		Lot No.GIC-4-3-3														

区	処理方法	調査 反復	9月12日(定植111日後・最終処理14日後)							9月19日(定植118日後・最終処理21日後)							各調査日 薬害
			調査 株数	発病程度別株数			発病株率	発病度	防除価	調査 株数	発病程度別株数			発病株率	発病度	防除価	
				0	2	3					0	2	3				
5) CAF-2001 SC 新規化合物 75g/L	茎葉散布 5回	I	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0		—
		II	30	29	0	1	3.3	3.3		30	29	0	1	3.3	3.3		—
		III	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0		—
		計/平均	90	89	0	1	1.1	1.1	84.5	90	89	0	1	1.1	1.1	88.2	
		Lot No.GIC-4-3-3															
対) アミスター20フロアブル アゾキシストロビン 20.0%	茎葉散布 5回	I	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0		—
		II	30	29	1	0	3.3	2.2		30	29	1	0	3.3	2.2		—
		III	30	30	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0.0	0.0		—
		計/平均	90	89	1	0	1.1	0.7	90.1	90	89	1	0	1.1	0.7	92.5	
		無処理															
無処理	—	I	30	27	0	3	10.0	10.0		30	26	1	3	13.3	12.2		
		II	30	28	1	1	6.7	5.6		30	28	0	2	6.7	6.7		
		III	30	28	1	1	6.7	5.6		30	27	1	2	10.0	8.9		
		計/平均	90	83	2	5	7.8	7.1	—	90	81	2	7	10.0	9.3	—	
		Lot No.GIC-4-3-3															

4. 考 察

本試験は基腐病汚染ほ場を用いて実施した。基腐病は定植 34 日後 (6 月 27 日) に初発を確認した。その後、病勢の伸展により、定植 118 日後には無処理区の発病株率 10.0%、発病度 9.3 の少発生条件下の試験となった。

そのような条件下で、対照のアミスター20フロアブル 2,000 倍散布区では、定植 118 日後の発病株率 1.1%、発病度 0.7、防除価 92.5 と、発病抑制効果が認められており、本試験において効果の判定は可能であると判断した。

効果の判定には、難防除病害であることを考慮した上で、定植 118 日後・最終処理 21 日後 (9 月 19 日) の発病度を用いた。

5) CAF-2001SC 1,000 倍 散布 BAA—

本剤の 1,000 倍散布処理は、対照のアミスター20フロアブル 2,000 倍散布処理とほぼ同等の効果が認められた。無処理と比較しても効果は高く、実用性は高いと考えられた。

本剤によるかんしょ“コガネセンガン”に対する薬害は認められなかった。

対象病虫害名・学名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

担当者氏名 福元 智博, 本田 傑

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県南さつま市金峰町大野 2200 農業開発総合センター 露地畑

対象病虫害発生状況 中発生 8月1日に初発生を確認。

耕種概要

品種: コガネセンガン, 定植日: 2024年5月15日, 栽植距離: 株間 30cm×畝間 90cm, 生分解性黒マルチ栽培, 施肥: かんしょ配合肥料 80kg/10a, 土壌消毒: なし, 土性: 腐植質普通黒ボク土壌, その他の一般管理は慣行に準じた, 試験期間中の他薬剤散布: 1) 5月15日にベンレート水和剤 500倍希釈 30分苗浸漬した苗を用いて試験を行った。2) 7月17日にプレバソンフロアブル 5を16倍希釈で1.6L/10aドローン散布した。

区制・面積 1区 8.64m² (4.8m×1.8m) 26~30株 3反復

1.8m	1.8m	1.8m	1.8m (2畝×畝間0.9m)
対 III	無 III	試2 III	試1 III
4.8m (16株×0.3m株間) 0.6m(緩衝2株×株間0.3m)			
試1 II	試2 II	無 II	対 II
4.8m (16株×0.3m株間) 0.6m(緩衝2株×株間0.3m)			
無 I	試1 I	対 I	試2 I
4.8m (16株×0.3m株間)			

試1: MSF-2302 顆粒水和剤 1,000倍希釈散布, 試2: MSF-2302 顆粒水和剤 2,000倍希釈散布,

対: トリフミン水和剤 2,000倍希釈散布, 無: 無処理, I, II, IIIは反復を示す

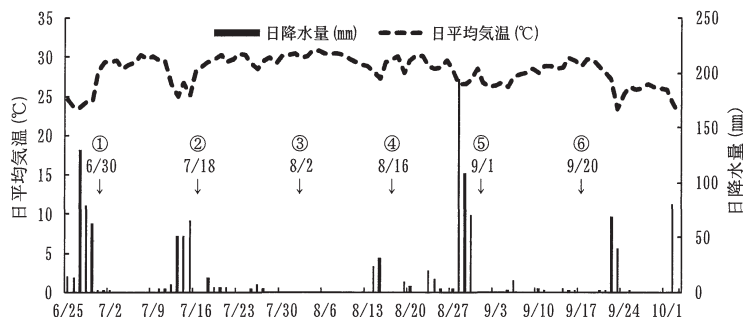
処理年月日, 量, 方法, 処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024年6月30日(定植46日後), 7月18日(定植64日後), 8月2日(定植79日後)

8月16日(定植93日後), 9月1日(定植109日後), 9月20日(定植128日後) (計6回)

(処理方法) 所定濃度の供試薬剤を背負い式電動噴霧器で10aあたり200L相当量散布した。

(処理前後の降雨) 各散布1時間後には目視で葉液が乾いていることが認められ, 散布3時間後まで降雨も認めなかったことから, 薬剤処理に対して降雨の影響はなかったと考えられた。



観測地点: アメダスデータ (加世田)

調査月日・方法

(調査月日) 薬効調査: 6月27日(1回目散布3日前), 7月16日(1回目散布16日後), 8月1日(2回目散布14日後), 8月15日(3回目散布13日後), 8月31日(4回目散布15日後), 9月18日(5回目散布17日後), 10月1日(6回目散布11日後) (計7回)

被害調査: 7月16日(1回目散布16日後), 8月1日(2回目散布14日後), 8月15日(3回目散布13日後), 8月31日(4回目散布15日後), 9月18日(5回目散布17日後), 10月1日(6回目散布11日後) (計6回)

(調査方法) 薬効調査: 各区試験期間を通して同一株について, 下記の発病指数別に調査し, 発病株率, 累積発病株率, 発病度, 累積発病度, 防除価を算出した。

発病指数 0: 発病なし, 2: 株基部の黒変(約10cm以内), 3: 株基部の黒変が拡大または枯死

作物名

(2024) 年度委託

(かんしょ)

対象病害虫名・学名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名

鹿児島県農業開発総合センター

調査月日・方法(続き)

(調査方法：続き) 発病株率=100×{(発病株数)／(調査株)}]

累積発病株率=100×{(総発病株数)／(総調査株)}]

発病度={Σ(各発病指数×発病程度別株数)／(調査株数×3)}×100

累積発病度={Σ(各発病指数×発病程度別総株数)／(総調査株数×3)}×100

防除価=100×{1-(処理区での累積発病株率／無処理区での累積発病株率)}]

判定防除価：無処理の発病株率 5.0%以上、且つ対照薬剤の防除価 20.0 以上の時の各調査防除価の平均値

葉害調査：葉、茎について調査時に肉眼観察し、症状の程度を以下の内容で判定した。

－：葉害症状を認めない ＋：軽微な葉害症状を認める ＋＋：中程度の葉害症状を認める
 ＋＋＋：重度の葉害症状を認める

その他

1) 調査株数

定植後 6 日間降雨が認められず、灌水を行ったが活着不良による欠株が多く発生したため、調査株数が反復間で 26～30 株と差が生じた。これに伴い、総発病株数を用いて累積発病株率を算出した。

2) 試験圃場

前年度、サツマイモ基腐病が少発生程度の汚染圃場で試験を実施した。

3. 試験成績

表 1 薬効調査結果

区	処理方法	反復	調査株数	調査日8月15日 (定植92日後, 3回目散布13日後)					調査日8月31日 (定植108日後, 4回目散布15日後)							
				発病程度別株数			発病度	発病株率 (%)	防除価(注1)	発病程度別株数			発病度	発病株率 (%)	防除価(注1)	
				0	2	3				0	2	3				
18) MSF-2302顆粒水和剤 テブプロキン 20.0%	1000倍 希釈散布 200L/10a	I	28	27	1	0	2.4	3.6		27	1	0	2.4	3.6		
		II	27	27	0	0	0.0	0.0		27	0	0	0.0	0.0		
		III	26	25	1	0	2.6	3.8		25	1	0	2.6	3.8		
lot. 24F-6890			合計/累積	81	79	2	0	1.6	2.5	68.8	79	2	0	1.6	2.5	75.7
18) MSF-2302顆粒水和剤 テブプロキン 20.0%	2000倍 希釈散布 200L/10a	I	30	29	1	0	2.2	3.3		28	2	0	4.4	6.7		
		II	26	26	0	0	0.0	0.0		26	0	0	0.0	0.0		
		III	28	28	0	0	0.0	0.0		28	0	0	0.0	0.0		
lot. 24F-6890			合計/累積	84	83	1	0	0.8	1.2	85.0	82	2	0	1.6	2.4	76.7
対) トリアミン水和剤 トリフルメチル 30.0%	2000倍 希釈散布 200L/10a	I	29	25	4	0	9.2	13.8		25	3	1	10.3	13.8		
		II	28	27	1	0	2.4	3.6		26	2	0	4.8	7.1		
		III	29	29	0	0	0.0	0.0		28	1	0	2.3	3.4		
			合計/累積	86	81	5	0	3.9	5.8	27.5	79	6	1	5.8	8.1	21.4
無処理	—	I	29	28	1	0	2.3	3.4		28	1	0	2.3	3.4		
		II	30	26	4	0	8.9	13.3		25	2	3	14.4	16.7		
		III	28	26	2	0	4.8	7.1		25	2	1	8.3	10.7		
			合計/累積	87	80	7	0	5.4	8.0	—	78	5	4	8.4	10.3	—

区	処理方法	反復	調査株数	調査日9月18日 (定植126日後, 5回目散布17日後)					調査日10月1日 (定植139日後, 6回目散布11日後)					判定 防除価			
				発病程度別株数			発病度	発病株率 (%)	防除価(注1)	発病程度別株数			発病度		発病株率 (%)	防除価(注1)	
				0	2	3				0	2	3					
18) MSF-2302顆粒水和剤 テブプロキン 20.0%	1000倍 希釈散布 200L/10a	I	28	27	0	1	3.6	3.6		26	0	2	7.1	7.1			
		II	27	27	0	0	0.0	0.0		27	0	0	0.0	0.0			
		III	26	24	0	2	7.7	7.7		24	0	2	7.7	7.7			
lot. 24F-6890			合計/累積	81	78	0	3	3.7	3.7	77.0	77	0	4	4.9	4.9	87.5	77.3
18) MSF-2302顆粒水和剤 テブプロキン 20.0%	2000倍 希釈散布 200L/10a	I	30	25	4	1	12.2	16.7		20	5	5	27.8	33.3			
		II	26	24	1	1	6.4	7.7		24	0	2	7.7	7.7			
		III	28	26	1	1	6.0	7.1		25	1	2	9.5	10.7			
lot. 24F-6890			合計/累積	84	75	6	3	8.3	10.7	33.5	69	6	9	15.5	17.9	54.2	72.0
対) トリアミン水和剤 トリフルメチル 30.0%	2000倍 希釈散布 200L/10a	I	29	20	4	5	26.4	31.0		15	8	6	39.1	48.3			
		II	28	24	2	2	11.9	14.3		20	5	3	22.6	28.6			
		III	29	27	1	1	5.7	6.9		25	3	1	10.3	13.8			
			合計/累積	86	71	7	8	14.7	17.4	0	60	16	10	24.0	30.2	22.8	23.9
無処理	—	I	29	27	1	1	5.7	6.9		23	5	1	14.9	20.7			
		II	30	22	3	5	23.3	26.7		16	8	6	37.8	46.7			
		III	28	24	1	3	13.1	14.3		14	8	6	40.5	50.0			
			合計/累積	87	73	5	9	14.2	16.1	—	53	21	13	31.0	39.1	—	—

(注 1) 防除価=100×{1-(処理区での累積発病株率／無処理区での累積発病株率)}]

作物名

(2024) 年度委託

(かんしょ)

対象病害虫名・学名 基腐病 *Diaporthe destruens* 試験場名 鹿児島県農業開発総合センター
表2 薬害調査結果

区	処理方法	反復	7月16日 定植62日後 1回目散布16日後	8月1日 定植78日後 2回目散布14日後	8月15日 定植92日後 3回目散布13日後	8月31日 定植108日後 4回目散布15日後	9月18日 定植126日後 5回目散布17日後	10月1日 定植139日後 6回目散布11日後
			茎・葉					
18) MSF-2302顆粒水和剤 テブフロキン 20.0%	1000倍	I	—	—	—	—	—	—
	希釈散布	II	—	—	—	—	—	—
	200L/10a	III	—	—	—	—	—	—
18) MSF-2302顆粒水和剤 テブフロキン 20.0%	2000倍	I	—	—	—	—	—	—
	希釈散布	II	—	—	—	—	—	—
	200L/10a	III	—	—	—	—	—	—
対トリフミン水和剤 トリフルシール 30.0%	2000倍	I	—	—	—	—	—	—
	希釈散布	II	—	—	—	—	—	—
	200L/10a	III	—	—	—	—	—	—
無処理	—	I	—	—	—	—	—	—
	—	II	—	—	—	—	—	—
	—	III	—	—	—	—	—	—

4. 考察

基腐病の初発生を8月1日（定植78日後）に全ての試験区で認めた。その後、基腐病の病勢は進展し、定植139日後（10月1日）には、無処理の累積発病度31.0、累積発病株率39.1%の中発生条件下での試験となった。

このような条件下で、対照薬剤のトリフミン水和剤2,000倍希釈散布区は、9月18日調査（定植126日後、5回目散布17日後）において防除価が認められなかったものの、10月1日調査（定植141日後、6回目散布11日後）では防除価23.9、判定防除価23.9とやや低いものの防除効果が認められ、本試験において薬剤効果の判定は可能であると判断した。

効果の判定はサツマイモ基腐病が土壌病害であることを考慮した上で、無処理の累積発病株率が5.0%を上回り、且つ対照薬剤のトリフミン水和剤2,000倍希釈散布区の防除価が20.0を上回った8月15日、8月31日、10月1日の計3回の調査における累積発病株率から算出した防除価の平均値で評価した。

18) MSF-2302 顆粒水和剤 1,000 倍希釈散布 A A A -

本剤の1,000倍希釈散布は、対照のトリフミン水和剤2,000倍希釈散布と比較して優る効果が認められた。無処理と比較して高い効果が認められ、実用性は高いと考えられる。

本処理による薬害は認められなかった。

18) MSF-2302 顆粒水和剤 2,000 倍希釈散布 A B B -

本剤の2,000倍希釈散布は、対照のトリフミン水和剤2,000倍希釈散布と比較して優る効果が認められた。無処理と比較して効果があり、実用性はあると考えられる。

本処理による薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

担当者氏名 福元 智博, 本田 傑

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県南さつま市金峰町大野 2200 農業開発総合センター 露地畑

対象病害虫発生状況 中発生 8月1日に初発生を確認。

耕種概要

品種: コガネセンガン, 定植日: 2024年5月15日, 栽植距離: 株間 30cm×畝間 90cm, 生分解性黒マルチ栽培, 施肥: かんしょ配合肥料 80kg/10a, 土壌消毒: なし, 土性: 腐植質普通黒ボク土壌, その他の一般管理は慣行に準じた, 試験期間中の他薬剤散布: 1) 5月15日にベンレート水和剤 500倍希釈 30分苗浸漬した苗を用いて試験を行った。2) 7月17日にプレバソンフロアブルを 16倍希釈で 1.6L/10a ドローン散布した。

区制・面積 1区 9.72 m² (5.4m×1.8m) 21~35株 3反復

1.8m	1.8m	1.8m	1.8m	1.8m	1.8m	1.8m	1.8m	1.8m	1.8m (2畝×畝間0.9m)	5.4m (18株×0.3m株間) 0.6m (緩衝2株×株間0.3m)
試3 III		試1 III		試2 III	対 III			無 III		
			試3 II	試1 II	無 II			対 II	試2 II	5.4m (18株×0.3m株間) 0.6m (緩衝2株×株間0.3m)
試2 I	対 I	無 I				試3 I		試1 I		5.4m (18株×0.3m株間)

試1: ムッシュボルドーDF 500倍希釈散布, 試2: クミガードSC 500倍希釈散布, 試3: フジドーLフロアブル 500倍希釈散布
対: Zボルドー 500倍希釈散布, 無: 無処理, I, II, IIIは反復を示す

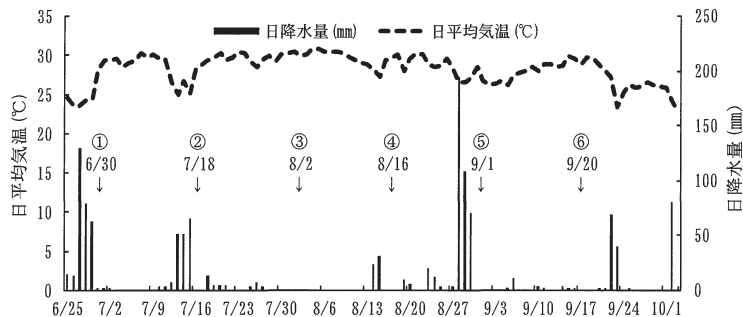
処理年月日, 量, 方法, 処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024年6月30日 (定植46日後), 7月18日 (定植64日後), 8月2日 (定植79日後)

8月16日 (定植93日後), 9月1日 (定植109日後), 9月20日 (定植128日後) (計6回)

(処理方法) 所定濃度の供試薬剤を背負式電動噴霧器で10aあたり200L相当量散布した。

(処理前後の降雨) 各散布1時間後には目視で薬液が乾いていることが認められ, 散布3時間後まで降雨も認めなかったことから, 薬剤処理に対して降雨の影響はなかったと考えられた。



観測地点: アメダスデータ (加世田)

調査月日・方法

(調査月日) 薬効調査: 6月27日 (1回目散布3日前), 7月16日 (1回目散布16日後), 8月1日 (2回目散布14日後), 8月15日 (3回目散布13日後), 8月31日 (4回目散布15日後), 9月18日 (5回目散布17日後), 10月3日 (6回目散布13日後) (計7回)

被害調査: 7月16日 (1回目散布16日後), 8月1日 (2回目散布14日後), 8月15日 (3回目散布13日後), 8月31日 (4回目散布15日後), 9月18日 (5回目散布17日後), 10月3日 (6回目散布13日後) (計6回)

(調査方法) 薬効調査: 各区試験期間を通して同一株について, 下記の発病指数別に調査し, 発病株率, 累積発病株率, 発病度, 累積発病度, 防除価を算出した。

発病指数 0: 発病なし, 2: 株基部の黒変 (約10cm以内), 3: 株基部の黒変が拡大または枯死

対象病害虫名・学名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名

鹿児島県農業開発総合センター

調査月日・方法(続き)

(調査方法: 続き) 発病株率 = $100 \times \{ (\text{発病株数}) / (\text{調査株}) \}$ 累積発病株率 = $100 \times \{ (\text{総発病株数}) / (\text{総調査株}) \}$ 発病度 = $\{ \Sigma (\text{各発病指数} \times \text{発病程度別株数}) / (\text{調査株数} \times 3) \} \times 100$ 累積発病度 = $\{ \Sigma (\text{各発病指数} \times \text{発病程度別総株数}) / (\text{総調査株数} \times 3) \} \times 100$ 防除価 = $100 \times \{ 1 - (\text{処理区での累積発病株率} / \text{無処理区での累積発病株率}) \}$ 判定防除価: 無処理の発病株率 5.0%以上, 且つ対照薬剤の防除価 20.0 以上の時の各調査防除価の平均値
葉害調査: 葉, 茎について調査時に肉眼観察し, 症状の程度を以下の内容で判定した。

－: 葉害症状を認めない +: 軽微な葉害症状を認める ++: 中程度の葉害症状を認める
+++ : 重度の葉害症状を認める

その他

1) 調査株数

定植後 6 日間降雨が認められず, 灌水を行ったが活着不良による欠株が多く発生したため, 調査株数が反復間で 21~35 株と差が生じた。これに伴い, 総発病株数を用いて累積発病株率を算出した。

2) 試験圃場 前年度, サツマイモ基腐病が少発生程度の汚染圃場で試験を実施した。

3. 試験成績

表 1 薬効調査結果

調査日8月15日 (定植92日後, 3回目散布13日後)										調査日8月31日 (定植108日後, 4回目散布15日後)									
区	処理方法	反復	調査株数	発病程度別株数			発病度	発病株率 (%)	防除価 (注1)	発病程度別株数			発病度	発病株率 (%)	防除価 (注1)				
				0	2	3				0	2	3							
58) ムンショウ・ルドーDF 塩基性硫酸銅 71.2% (銅として40.0%) lot. HCF-015SK	500倍希釈散布 200L/10a	I	32	31	1	0	2.1	3.1	—	29	2	1	7.3	9.4	33.7				
		II	21	20	1	0	3.2	4.8		20	0	1	4.8	4.8					
		III	35	34	1	0	1.9	2.9		34	1	0	1.9	2.9					
		合計/累積	88	85	3	0	2.3	3.6		83	3	2	4.5	5.7					
172) カシオ・ルドーSC 水酸化第二銅 20.0% (銅として13.0%) lot. E2E25	500倍希釈散布 200L/10a	I	33	32	1	0	2.0	3.0	—	32	0	1	3.0	3.0	74.4				
		II	27	27	0	0	0.0	0.0		27	0	0	0.0	0.0					
		III	33	33	0	0	0.0	0.0		32	0	1	3.0	3.0					
		合計/累積	93	92	1	0	0.7	1.1		91	0	2	2.2	2.2					
212) フジ・ルドーL70アブル 塩基性硫酸銅 23.0% (銅として12.9%) lot. 035-320011	500倍希釈散布 200L/10a	I	31	30	1	0	2.2	3.2	—	30	1	0	2.2	3.2	61.6				
		II	27	27	0	0	0.0	0.0		26	1	0	2.5	3.7					
		III	32	32	0	0	0.0	0.0		31	1	0	2.1	3.1					
		合計/累積	90	89	1	0	0.7	1.1		87	3	0	2.2	3.3					
対) Zホ・ルドー 塩基性硫酸銅 58.0% (銅として32.0%)	500倍希釈散布 200L/10a	I	30	30	0	0	0.0	0.0	—	29	1	0	2.2	3.3	74.4				
		II	28	28	0	0	0.0	0.0		28	0	0	0.0	0.0					
		III	32	32	0	0	0.0	0.0		31	1	0	2.1	3.1					
		合計/累積	90	90	0	0	0.0	0.0		88	2	0	1.5	2.2					
無処理	—	I	32	31	1	0	2.1	3.1	—	29	2	1	7.3	9.4	—				
		II	29	26	3	0	6.9	10.3		25	4	0	9.2	13.8					
		III	32	32	0	0	0.0	0.0		31	1	0	2.1	3.1					
		合計/累積	93	89	4	0	2.9	4.3		85	7	1	6.1	8.6					

調査日9月18日 (定植126日後, 5回目散布17日後)										調査日10月3日 (定植141日後, 6回目散布13日後)						判定防除価
区	処理方法	反復	調査株数	発病程度別株数			発病度	発病株率 (%)	防除価 (注1)	発病程度別株数			発病度	発病株率 (%)		
				0	2	3				0	2	3		0	2	3
58) ムンショウ・ルドーDF 塩基性硫酸銅 71.2% (銅として40.0%) lot. HCF-015SK	500倍希釈散布 200L/10a	I	32	27	4	1	11.5	15.6	47.4	25	4	3	17.7	21.9	41.1	
		II	21	19	1	1	7.9	9.5		17	2	2	15.9	19.0		
		III	35	33	2	0	3.8	5.7		28	6	1	14.3	20.0		
		合計/累積	88	79	7	2	7.6	10.2		70	12	6	15.9	20.5		
172) カシオ・ルドーSC 水酸化第二銅 20.0% (銅として13.0%) lot. E2E25	500倍希釈散布 200L/10a	I	33	31	1	1	5.1	6.1	55.7	29	2	2	10.1	12.1	63.6	
		II	27	23	4	0	9.9	14.8		22	1	4	17.3	18.5		
		III	33	31	1	1	5.1	6.1		29	2	2	10.1	12.1		
		合計/累積	93	85	6	2	6.5	8.6		80	5	8	12.2	14.0		
212) フジ・ルドーL70アブル 塩基性硫酸銅 23.0% (銅として12.9%) lot. 035-320011	500倍希釈散布 200L/10a	I	31	25	4	2	15.1	15.1	54.1	20	4	7	31.2	35.5	55.2	
		II	27	26	1	0	2.5	2.5		23	3	1	11.1	14.8		
		III	32	31	0	1	3.1	3.1		31	0	1	3.1	3.1		
		合計/累積	90	82	5	3	7.0	8.9		74	7	9	15.2	17.8		
対) Zホ・ルドー 塩基性硫酸銅 58.0% (銅として32.0%)	500倍希釈散布 200L/10a	I	30	25	5	0	11.1	16.7	54.1	20	5	5	27.8	33.3	59.5	
		II	28	27	1	0	2.4	3.6		25	2	1	8.3	10.7		
		III	32	30	2	0	4.2	6.3		29	1	2	8.3	9.4		
		合計/累積	90	82	8	0	5.9	8.9		74	8	8	14.8	17.8		
無処理	—	I	32	23	7	2	20.8	28.1	—	17	6	9	40.6	46.9	—	
		II	29	21	5	3	21.8	27.6		16	5	8	39.1	44.8		
		III	32	31	1	0	2.1	3.1		27	4	1	11.5	15.6		
		合計/累積	93	75	13	5	14.7	19.4		60	15	18	30.1	35.5		

注 1) 防除価 = $100 \times \{ 1 - (\text{処理区での累積発病株率} / \text{無処理区での累積発病株率}) \}$

作物名

(2024) 年度委託

(かんしょ)

対象病害虫名・学名 基腐病 *Diaporthe destruens* 試験場名 鹿児島県農業開発総合センター
表2 薬害調査結果

区	処理方法	反復	7月16日	8月1日	8月15日	8月31日	9月18日	10月3日
			定植62日後	定植78日後	定植92日後	定植108日後	定植126日後	定植141日後
			1回目散布16日後	2回目散布14日後	3回目散布13日後	4回目散布15日後	5回目散布17日後	6回目散布13日後
茎・葉								
58) ムッシュボルドーDF	500倍希釈散布	I	—	+	+	+	+	+
塩基性硫酸銅 71.2%	200L/10a	II	+	+	+	+	+	+
(銅として40.0%)		III	—	+	+	+	+	+
172) クミガードSC	500倍希釈散布	I	+	+	+	+	+	+
水酸化第二銅 20.0%	200L/10a	II	—	+	+	+	+	+
(銅として13.0%)		III	—	+	+	+	+	+
212) フジールフロアブル	500倍希釈散布	I	—	+	+	+	+	+
塩基性硫酸銅 23.0%	200L/10a	II	+	+	+	+	+	+
(銅として12.9%)		III	—	+	+	+	+	+
対) Zボルドー	500倍希釈散布	I	+	+	+	+	+	+
塩基性硫酸銅 58.0%	200L/10a	II	+	+	+	+	+	+
(銅として32.0%)		III	—	+	+	+	+	+
無処理		I	—	—	—	—	—	—
		II	—	—	—	—	—	—
		III	—	—	—	—	—	—

4. 考 察

基腐病の初発生を8月1日(定植78日後)に对照薬剤Zボルドー500倍希釈散布区を除く全ての試験区で認めた。その後、基腐病の病勢は進展し、定植141日後(10月3日)には、無処理の累積発病度30.1、累積発病株率35.5%の中発生条件下での試験となった。

このような条件下で、对照薬剤のZボルドー500倍希釈散布区は、10月3日調査(定植141日後、6回目散布13日後)において防除価49.9、判定防除価では59.5と防除効果が認められ、本試験において薬剤効果の判定は可能であると判断した。

効果の判定はサツマイモ基腐病が土壌病害であることを考慮した上で、無処理の累積発病株率が5.0%を上回り、且つ对照薬剤のZボルドー500倍希釈散布区の防除価が20.0を上回った8月31日、9月18日、10月3日の計3回の調査における累積発病株率から算出した防除価の平均値で評価した。

58) ムッシュボルドーDF 500倍希釈散布 C C C ±

本剤の500倍希釈散布は、对照のZボルドー500倍希釈散布と比較してやや劣るが効果があり、無処理と比較してやや低い効果が認められた。効果はやや低いが実用性はあると考えられる。

薬害として葉に軽微な赤色斑点を認めたが、サツマイモに対して銅剤散布を行った際に時折認められる症状であり、その程度は軽く新葉展開の阻害等といった生育に対する影響は認められず実用上問題はないと考えられた。

172) クミガードSC 500倍希釈散布 B B B ±

本剤の500倍希釈散布は、对照のZボルドー500倍希釈散布と比較して同等の効果があり、無処理と比較して効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害として葉に軽微な赤色斑点を認めたが、サツマイモに対して銅剤散布を行った際に時折認められる症状であり、その程度は軽く新葉展開の阻害等といった生育に対する影響は認められず実用上問題はないと考えられた。

212) フジールフロアブル 500倍希釈散布 B B B ±

本剤の500倍希釈散布は、对照のZボルドー500倍希釈散布と比較して同等の効果があり、無処理と比較して効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害として葉に軽微な赤色斑点を認めたが、サツマイモに対して銅剤散布を行った際に時折認められる症状であり、その程度は軽く新葉展開の阻害等といった生育に対する影響は認められず実用上問題はないと考えられた。

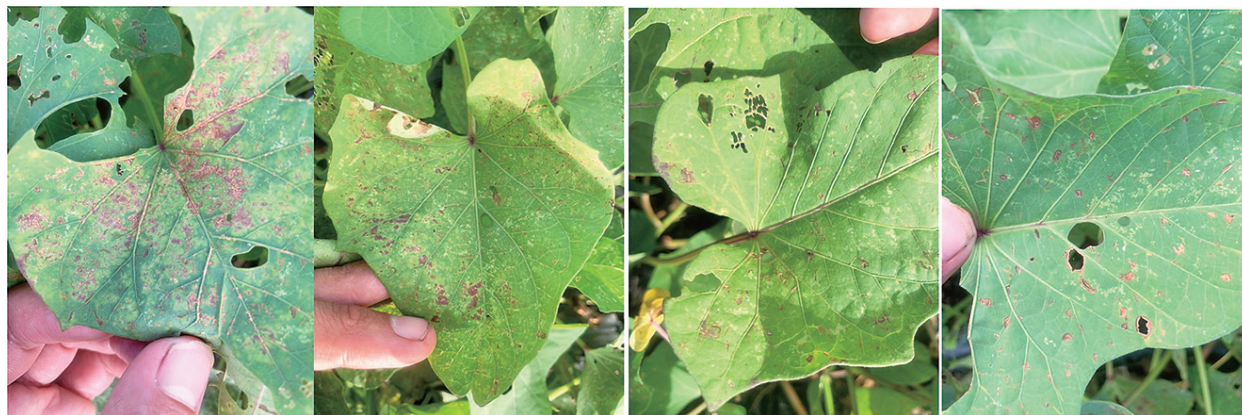


図 葉害（赤色斑点）の様子（撮影日：10月8日）
(左図から、ムッシュボルドーDF, クミガードSC, フジドーLフロアブル, Zボルドー)

対象病虫害名・学名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

担当者氏名 福元 智博, 本田 傑

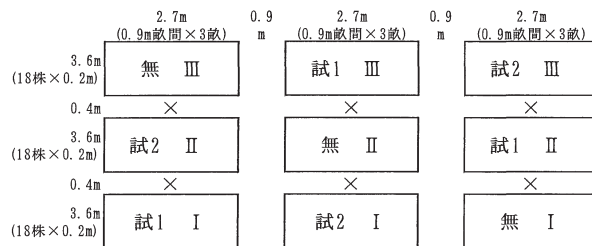
1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県南さつま市金峰町大野 2200 農業開発総合センター 露地畑

対象病虫害発生状況 少発生 7月26日に初発生を確認。

耕種概要

品種：べにはるか、定植日：2024年5月15日、栽植距離：株間20cm×畝間90cm、生分解性黒マルチ栽培、施肥：かんしょ配合肥料80kg/10a、土壌消毒：なし、土性：腐植質普通黒ボク土壌、その他の一般管理は慣行に準じた、試験期間中の他薬剤散布：1) 5月15日にベンレート水和剤500倍希釈30分苗浸漬した苗を用いて試験を行った。2) 7月17日にプレバソフフロアブル5を16倍希釈で1.6L/10aドローン散布した。

区制・面積 1区9.72m² (3.6m×2.7m) 36~53株 3反復

試1: モンガリット1キロ粒剤 1kg/10a 定植3週間後全面撒布

試2: モンガリット1キロ粒剤 1kg/10a 定植6週間後全面撒布

無: 無処理, ×: 緩衝株

I, II, IIIは反復を示す

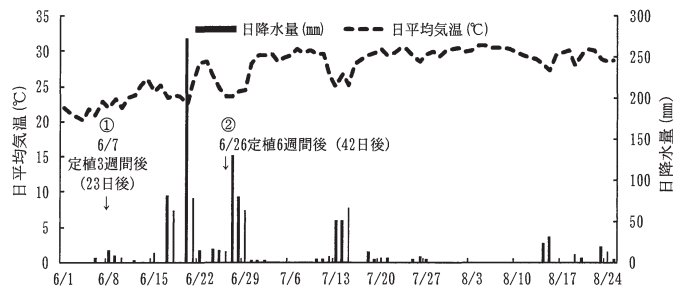
処理年月日, 量, 方法, 処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 定植3週間後処理: 2024年6月7日 (定植23日後)

定植6週間後処理: 2024年6月26日 (定植42日後)

(処理方法) 所定量の供試薬剤を10aあたり1kg相当量撒布した。

(処理前後の降雨) 定植6週間後処理日 (6月26日) はアメダスデータで日降水量13.5mmであったが、処理後3時間は降雨を認めなかったため、薬剤処理に対して降雨の影響はなかったと考えられた。



観測地点: アメダスデータ (加世田)

調査月日・方法

(調査月日) 薬効調査: 6月7日 (定植3週間後処理前), 6月24日 (定植6週間後処理2日前), 7月11日 (定植57日後), 7月26日 (定植72日後), 8月7日 (定植84日後), 8月21日 (定植98日後)
(計6回)

被害調査: 定植3週間後処理区

6月24日 (処理17日後), 7月11日 (処理34日後), 7月26日 (処理49日後), 8月7日 (処理61日後), 8月21日 (処理75日後)

: 定植6週間後処理区

7月11日 (処理15日後), 7月26日 (処理30日後), 8月7日 (処理42日後), 8月21日 (処理56日後)

(調査方法) 薬効調査: 各区試験期間を通して同一株について、下記の発病指数別に調査し、発病株率、累積発病株率、発病度、累積発病度、防除価を算出した。

発病指数 0: 発病なし, 2: 株基部の黒変 (約10cm以内), 3: 株基部の黒変が拡大または枯死

対 象 病 害 虫 名・学 名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名

鹿児島県農業開発総合センター

調査月日・方法(続き)

(調査方法：続き) 発病株率 = $100 \times \{ (\text{発病株数}) / (\text{調査株}) \}$ 累積発病株率 = $100 \times \{ (\text{総発病株数}) / (\text{総調査株}) \}$ 発病度 = $\{ \Sigma (\text{各発病指数} \times \text{発病程度別株数}) / (\text{調査株数} \times 3) \} \times 100$ 累積発病度 = $\{ \Sigma (\text{各発病指数} \times \text{発病程度別総株数}) / (\text{総調査株数} \times 3) \} \times 100$ 防除価 = $100 \times \{ 1 - (\text{処理区での累積発病株率} / \text{無処理区での累積発病株率}) \}$

葉害調査：葉、茎について調査時に肉眼観察し、症状の程度を以下の内容で判定した。

－：葉害症状を認めない ＋：軽微な葉害症状を認める ++：中程度の葉害症状を認める
+++：重度の葉害症状を認める

その他

1) 調査株数

定植後6日間降雨が認められず、灌水を行ったが活着不良による欠株が多く発生したため、調査株数が反復間で36～53株と差を生じた。これに伴い、総発病株数を用いて累積発病株率を算出した。

2) 試験圃場

前年度、サツマイモ基腐病が少発生程度の汚染圃場で試験を実施した。

3. 試 験 成 績

表1 葉効調査結果

区	処理方法	反復	調査日 (7月26日, 定植72日後) 定植3週間後処理49日後, 定植6週間後処理30日後						
			調査株数	発病程度別株数			発病度	発病株率 (%)	防除価 (注1)
				0	2	3			
230) モンガ [®] リット1キロ粒剤 シメコザ [®] ール 4.5%	1kg/10a	I	48	41	7	0	9.7	14.6	
	全面散布	II	46	46	0	0	0.0	0.0	
	定植3週間後処理	III	42	41	1	0	1.6	2.4	
lot. 31G60001	(定植23日後処理)	合計/累積	136	128	8	0	3.9	5.9	—
230) モンガ [®] リット1キロ粒剤 シメコザ [®] ール 4.5%	1kg/10a	I	36	36	0	0	0.0	0.0	
	全面散布	II	37	37	0	0	0.0	0.0	
	定植6週間後処理	III	53	53	0	0	0.0	0.0	
lot. 31G60001	(定植42日後処理)	合計/累積	126	126	0	0	0.0	0.0	—
無処理	—	I	45	45	0	0	0.0	0.0	
		II	47	46	1	0	1.4	2.1	
		III	50	50	0	0	0.0	0.0	
		合計/累積	142	141	1	0	0.5	0.7	—

区	処理方法	反復	調査日 (8月7日, 定植84日後) 定植3週間後処理61日後, 定植6週間後処理42日後						
			調査株数	発病程度別株数			発病度	発病株率 (%)	防除価 (注1)
				0	2	3			
230) モンガ [®] リット1キロ粒剤 シメコザ [®] ール 4.5%	1kg/10a	I	48	37	11	0	15.3	22.9	
	全面散布	II	46	45	1	0	1.4	2.2	
	定植3週間後処理	III	42	35	7	0	11.1	16.7	
lot. 31G60001	(定植23日後処理)	合計/累積	136	117	19	0	9.3	14.0	0
230) モンガ [®] リット1キロ粒剤 シメコザ [®] ール 4.5%	1kg/10a	I	36	32	4	0	7.4	11.1	
	全面散布	II	37	36	1	0	1.8	2.7	
	定植6週間後処理	III	53	52	1	0	1.3	1.9	
lot. 31G60001	(定植42日後処理)	合計/累積	126	120	6	0	3.2	4.8	14.3
無処理	—	I	45	43	2	0	3.0	4.4	
		II	47	43	4	0	5.7	8.5	
		III	50	48	2	0	2.7	4.0	
		合計/累積	142	134	8	0	3.8	5.6	—

注1) 防除価 = $100 \times \{ 1 - (\text{処理区での累積発病株率} / \text{無処理区での累積発病株率}) \}$

表1 薬効調査結果(続き)

区	処理方法	反復	調査日 (8月21日, 定植98日後) 定植3週間後処理75日後, 定植6週間後処理56日後						
			調査 株数	発病程度別株数			発病度	発病 株率 (%)	防除価 (注1)
				0	2	3			
230) モンガリット1キロ粒剤 シメコザール 4.5%	1kg/10a	I	48	31	8	9	29.9	35.4	
	全面散布	II	46	42	2	2	7.2	8.7	
	定植3週間後処理	III	42	29	6	7	26.2	31.0	
	(定植23日後処理)	合計/累積	136	102	16	18	21.1	25.0	0
10t. 31G60001	1kg/10a	I	36	27	5	4	20.4	25.0	
	全面散布	II	37	33	3	1	8.1	10.8	
	定植6週間後処理	III	53	50	2	1	4.4	5.7	
	(定植42日後処理)	合計/累積	126	110	10	6	10.1	12.7	14.2
無処理	—	I	45	40	3	2	8.9	11.1	
		II	47	38	6	3	14.9	19.1	
		III	50	43	5	2	10.7	14.0	
		合計/累積	142	121	14	7	11.5	14.8	—

注1) 防除価 = $100 \times \{1 - (\text{処理区での累積発病株率} / \text{無処理区での累積発病株率})\}$

表2 薬害調査結果

区	処理方法	処理日	反復	薬害調査日および処理後日数 上段: 定植3週間後処理の処理後日数 下段: 定植6週間後処理の処理後日数				
				6月24日	7月11日	7月26日	8月7日	8月21日
				17	34 15	49 30	61 42	75 56
230) モンガリット1キロ粒剤 シメコザール 4.5%	1kg/10a	6月7日	I	—	—	—	—	—
	全面散布	定植23日後	II	—	—	—	—	—
	定植3週間後処理		III	—	—	—	—	—
230) モンガリット1キロ粒剤 シメコザール 4.5%	1kg/10a	6月26日	I	—	—	—	—	—
	全面散布	定植42日後	II	—	—	—	—	—
	定植6週間後処理		III	—	—	—	—	—
無処理	—		I	—	—	—	—	—
			II	—	—	—	—	—
			III	—	—	—	—	—

4. 考 察

基腐病の初発生を7月26日(定植72日後)にモンガリット1キロ粒剤定植3週間後処理区と無処理で認めた。その後、基腐病の病勢は進展し、定植98日後(8月21日)には、無処理の累積発病度11.5、累積発病株率14.8%の少発生条件下での試験となった。

効果の判定は定植98日後の累積発病株率から算出した防除価を用いて評価した。

230) モンガリット1キロ粒剤 1kg/10a 定植3週間後全面散布 —DD—

本剤の1kg/10a, 定植3週間後全面散布は、無処理と比較して効果は低く、実用性は低いと考えられる。

薬害は認められなかった。

230) モンガリット1キロ粒剤 1kg/10a 定植6週間後全面散布 —DD—

本剤の1kg/10a, 定植6週間後全面散布は、無処理と比較して効果は低く、実用性は低いと考えられる。

薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名・学 名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

担当者氏名 四蔵 文夫, 本田 傑

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 鹿児島県南さつま市金峰町大野 2200 農業開発総合センター 室内

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 中発生(接種)

耕種概要

品種:コガネセンガン(購入苗), 収穫:2023 年 9 月 28 日

土性:黒ボク土壌, 試験期間中の他防除薬剤:なし

区制・面積 1区 20 個 3 反復

接種前塊根 1 個重別の塊根数が, 各区とも概ね 150~180g:6 個, 180~250g:10 個, 250~300g:4 個となるようにサイズを揃えて, 試験を実施した。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2023 年 10 月 24 日(貯蔵前処理)

(処理方法) 所定濃度の各供試薬剤に, 無病徴の接種塊根を 30 分間浸漬した。処理後の塊根は, 室内で軽く風乾後, 厚さ 0.01mm, 縦 350mm, 横 250mm のポリプロピレン製の袋に1個ずつ個装し, セロハンテープを用いて封した。処理後の塊根は冷蔵庫内(室温 15℃, 湿度 90%)に 43 日間保管した。

(処理前後の降雨影響)室内試験のため, 降雨の影響は無かった。

(試験期間中の貯蔵室内の平均温度:15℃)

調査月日・方法

(調査月日) 薬効調査:2023 年 11 月 14 日(処理 21 日後), 22 日(処理 29 日後), 28 日(処理 35 日後), 12 月 6 日(処理 43 日後)の 4 回。

薬害調査:2024 年 1 月 26 日

(調査方法) 各区全塊根を対象に, 発病塊根数を調査した。薬害は 1 月 26 日の萌芽状況を肉眼観察し, 次の基準により程度を分けた。

ー:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

(1)試験期間中のその他病害虫の発生

塊根浸漬処理後, 43 日間の保管中に, 基腐病以外の病害による腐敗は認められなかった。

(2)接種

2023 年 9 月 28 日に収穫した塊根を用いた。10 月 19 日に, なり首側を切断面直径 15~20mm になるよう切除し, その切り口に直径 8mm のコルクボーラーで深さ 1mm 程度の傷を付けた。そこへ, 基腐病菌懸濁液(Dd-1 株/PDA 培地で4週間培養。分生子を集菌し, 1.0×10⁶個/ml に調整)を切り口に 20μL 滴下した。コンテナ内に塊根を縦置き, 約 30 分風乾後, ビニール袋でコンテナを包んで 25℃の室内で 5 日間培養した。接種後の塊根は, 塊根の浸漬処理当日(10 月 24 日)に, 基腐病に感染したなり首側の切り口の変色が肉眼で観察できなくなるまで切除し, 外観が無病徴の接種塊根を作成した。

(3)試験方法について

処理終了後の塊根は, 軟腐病, 乾腐病, 炭腐病等の貯蔵病害の影響を排除するため, 1個ずつポリ袋に個別包装し, 15℃で 43 日間保管した。

薬効調査終了後の塊根は, 25℃の室内で 1 月 26 日まで保管後に萌芽状況を確認して, 薬害を評価した。

対 象 病 害 虫 名・学 名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

3. 試 験 成 績

表1 塊根の浸漬処理による発病と萌芽状況

区	処理方法	調査 反復	調査 塊根数	11月14日(処理21日後)			11月22日(処理29日後)			11月28日(処理35日後)			12月6日(処理43日後)			1月26日 健全塊根1個 あたり萌芽数	1月26日 調査
				発病 塊根数	発病 塊根率	防除値	発病 塊根数	発病 塊根率	防除値	発病 塊根数	発病 塊根率	防除値	発病 塊根数	発病 塊根率	防除値		
168) ベルクートフロアブル イミダジンアルベシル酸塩 30.0%	500 倍 30分浸漬	I	20	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		4.1	—
		II	20	0	0.0		0	0.0		1	5.0		1	5.0		3.3	—
		III	20	0	0.0		0	0.0		1	5.0		1	5.0		4.2	—
		計/平均	60	0	0.0	100.0	0	0.0	100.0	2	3.3	91.3	2	3.3	92.6	3.9	
対) トップジンM水和剤 チオファネートメチル 70.0%	200 倍 30分浸漬	I	20	0	0.0		0	0.0		1	5.0		1	5.0		3.3	—
		II	20	1	5.0		2	10.0		3	15.0		3	15.0		3.6	—
		III	20	0	0.0		1	5.0		1	5.0		1	5.0		3.7	—
		計/平均	60	1	1.7	85.7	3	5.0	85.0	5	8.3	78.3	5	8.3	81.5	3.5	
無処理	—	I	20	3	15.0		7	35.0		9	45.0		10	50.0		4.9	
		II	20	1	5.0		5	25.0		6	30.0		7	35.0		4.3	
		III	20	3	15.0		8	40.0		8	40.0		10	50.0		5.6	
		計/平均	60	7	11.7	—	20	33.3	—	23	38.3	—	27	45.0	—	4.9	

4. 考 察

本試験は、基腐病菌の接種により作出した外観無病徴の塊根を用い、貯蔵前の浸漬処理効果を検討した。無処理区の発病塊根率は、処理 43 日後に 45.0%の中発生条件下の試験となった。

このような条件下で、対照のトップジンM水和剤 200 倍 30 分浸漬処理区では、処理 43 日後の発病塊根率 8.3%と、発病抑制効果が認められており、本試験において効果の判定は可能であると判断した。

効果の判定には、処理 43 日後(12 月 6 日)の発病塊根率を用い、一般病害の評価基準で判定した。

168) ベルクートフロアブル 500 倍 30 分浸漬 AAA-

本剤の 500 倍 30 分浸漬処理は、対照のトップジンM水和剤 200 倍 30 分浸漬処理と比較して効果はまさる。無処理と比較するとその効果は高く、実用性は高いと考えられた。

本剤本処理により、かんしょ「コガネセンガン」の萌芽に影響を与える薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名・学 名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

担当者氏名 四蔵 文夫, 本田 傑

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県南さつま市金峰町大野 2200 農業開発総合センター 室内

対象病害虫発生状況 中発生(接種)

耕種概要

品種:コガネセンガン(購入苗), 収穫:2023 年 9 月 28 日

土性:黒ボク土壌, 試験期間中の他防除薬剤:なし

区制・面積 1区 19~20 個 3 反復

接種前塊根 1 個重別の塊根数が, 各区とも概ね 150~180g:6 個, 180~250g:10 個, 250~300g:4 個となるようにサイズを揃えて, 試験を実施した。貯蔵後接種前に腐敗塊根を除去したため, 供試塊根数が 19 個となった区がある。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024 年 1 月 23 日(貯蔵後伏込前処理)

(処理方法) 所定濃度の各供試薬剤に, 無病徴の接種塊根を 30 分間浸漬した。処理後の塊根は, 室内で軽く風乾後, 厚さ 0.01mm, 縦 350mm, 横 250mm のポリプロピレン製の袋に 1 個ずつ個装し, セロハンテープを用いて封した。処理後の塊根は室内(室温約 25℃)で 35 日間保管した。

(処理前後の降雨影響) 室内試験のため, 降雨の影響は無かった。

(試験期間中の室内の平均温度:約 25℃)

調査月日・方法

(調査月日) 2024 年 2 月 6 日(処理 14 日後), 13 日(処理 21 日後), 20 日(処理 28 日後), 27 日(処理 35 日後)の 4 回。

(調査方法) 各区全塊根を対象に, 発病塊根数と塊根 1 個あたりの健全萌芽数を調査した。薬害は随時肉眼観察し, 次の基準により程度を分けた。

ー:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

(1) 試験期間中のその他病害虫の発生

塊根浸漬処理後, 35 日間の保管中に, 基腐病以外の病害による腐敗は認められなかった。

(2) 接種

2023 年 9 月 28 日に収穫し, 2024 年 1 月 18 日まで貯蔵した塊根を用いた。2024 年 1 月 18 日に, なり首側を切断面直径 15~20mm になるよう切除し, その切り口に直径 8mm のコルクボーラーで深さ 1mm 程度の傷を付けた。そこへ, 基腐病菌懸濁液(Dd-1 株/PDA 培地で 4 週間培養。分生子を集菌し, 1.0×10^6 個/ml に調整)を切り口に 20 μ L 滴下した。コンテナ内に塊根を縦置き, 約 30 分風乾後, ビニール袋でコンテナを包んで 25℃の室内で 5 日間培養した。接種後の塊根は, 塊根の浸漬処理当日(1 月 23 日)に, 基腐病に感染したなり首側の切り口の変色が肉眼で観察できなくなるまで切除し, 外観が無病徴の接種塊根を作成した。

(3) 試験方法について

処理終了後の塊根は, 軟腐病, 乾腐病, 炭腐病等の貯蔵病害の影響を排除するため, 苗床に定植せず, 1 個ずつポリ袋に個別包装し, 25℃で 35 日間保管した。

対 象 病 害 虫 名・学 名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

3. 試験成績

表1 塊根の浸漬処理による発病と萌芽状況

区	処理方法	調査 反復	調査 塊根数	2月6日(処理14日後)			2月13日(処理21日後)			2月20日(処理28日後)			2月27日(処理35日後)			健全塊根1個 あたり萌芽数			被害調査	
				発病 塊根数	発病 塊根率	防除値	発病 塊根数	発病 塊根率	防除値	発病 塊根数	発病 塊根率	防除値	発病 塊根数	発病 塊根率	防除値	2月13日	2月20日	2月27日	2月13日、2月 20日、2月27日	
168) ベルクートフロアブル イミダジンアルベンシル酸塩 30.0%	500 倍 30分浸漬	I	20	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0.9	1.7	2.2	—	
		II	19	0	0.0		2	10.5		3	15.8		3	15.8		1.0	1.4	1.8	—	
		III	19	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		1.7	2.5	3.0	—	
		計/平均	58	0	0.0	100.0	2	3.5	91.7	3	5.3	89.6	3	5.3	90.0	1.2	1.9	2.3		
対) トップジンM水和剤 チオファネートメチル 70.0%	200 倍 30分浸漬	I	20	0	0.0		0	0.0		1	5.0		1	5.0		1.5	2.1	2.6	—	
		II	20	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0.8	1.3	1.9	—	
		III	19	0	0.0		0	0.0		0	0.0		1	5.3		1.2	2.0	2.6	—	
		計/平均	59	0	0.0	100.0	0	0.0	100.0	1	1.7	96.7	2	3.4	93.5	1.2	1.8	2.3		
無処理	—	I	20	2	10.0		10	50.0		11	55.0		11	55.0		0.7	1.6	1.9		
		II	20	5	25.0		9	45.0		11	55.0		11	55.0		0.5	1.4	1.7		
		III	19	3	15.8		6	31.6		8	42.1		9	47.4		1.8	2.9	3.6		
		計/平均	59	10	16.9	—	25	42.2	—	30	50.7	—	31	52.5	—	1.0	2.0	2.4		

4. 考 察

本試験は、基腐病菌の接種により作出した外観無病徴の塊根を用い、貯蔵後伏せ込み前の浸漬処理効果を検討した。無処理区の発病塊根率は、処理 35 日後に 52.5%の中発生条件下の試験となった。

このような条件下で、対照のトップジンM水和剤 200 倍 30 分浸漬処理区では、処理 35 日後の発病塊根率 3.4%と、発病抑制効果が認められており、本試験において効果の判定は可能であると判断した。

効果の判定には、処理 35 日後(2 月 27 日)の発病塊根率を用い、一般病害の評価基準で判定した。

168) ベルクートフロアブル 500 倍 30 分浸漬 BAA-

本剤の 500 倍 30 分浸漬処理は、対照のトップジンM水和剤 200 倍 30 分浸漬処理と比較して効果はほぼ同等であった。無処理と比較するとその効果は高く、実用性は高いと考えられた。

本剤本処理により、35 日後までのかんしょ「コガネセンガン」の萌芽に影響を与える薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名・学 名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 鹿児島県大隅加工技術研究センター

担当者氏名 下津 文宏

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県鹿屋市細山田 鹿児島県大隅加工技術研究センター圃場

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別を記載)

品種:コガネセンガン 定植:2024年5月16日 栽植距離等:畝幅90cm×株間40cm, 1条植え, 露地栽培(黒マルチ)

土性:壤土 施肥, その他一般管理は, 鹿児島県野菜栽培指針に準じた。

試験期間中の防除薬剤:5月9日:ピーラム粒剤, プリンスベイト, 6月11日:コルト顆粒水和剤

7月22日:トレボン乳剤, 8月8日:プレバソンフロアブル5

区制・面積 1区21.6㎡(3.6m×6.0m)60株, 3連制

1-Ⅲ CAF-2001SC 1000倍		2-Ⅱ フェキプロアブ® 2000倍		3-Ⅰ ベジター®DF 2000倍			5-Ⅰ 無処理
4-Ⅲ (対)アミスター-20FL 2000倍	3-Ⅲ ベジター®DF 2000倍	1-Ⅱ CAF-2001SC 1000倍	4-Ⅰ (対)アミスター-20FL 2000倍	2-Ⅰ フェキプロアブ® 2000倍	5-Ⅲ 無処理		
2-Ⅲ フェキプロアブ® 2000倍	4-Ⅱ (対)アミスター-20FL 2000倍	3-Ⅱ ベジター®DF 2000倍		1-Ⅰ CAF-2001SC 1000倍		5-Ⅱ 無処理	

注)Ⅰ,Ⅱ,Ⅲは連制を表す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日)2024年6月3日(植付18日後),6月19日(同35日後),7月2日(同47日後)

(処理方法)所定の濃度により200L/10a相当量を背負式動力噴霧器で散布した。

(処理時の作物ステージ)7~9節苗

(試験期間中の気象)

平均気温は,5~6月は平年並みか平年より高く,7~9月は平年より高く推移した。

降水量は,梅雨時期の5月6半旬,6月4~6半旬,台風の接近した8月6半旬は平年より多かったが,これ以外の期間は,平年並みか平年より少なく推移した。

月日	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28
平均気温(℃)	13.8	11.8	10.3	16.9	12.5	15.2	18.3	18.0	18.8	16.5	19.3	21.1	16.9
降水量(mm)	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.5	8.5	12.0	0.0	4.0	116.0	79.5
月日	5/29	5/30	5/31	6月	7月	8月	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	
平均気温(℃)	13.6	19.0	19.4	20.4	25.3	25.2	22.3	20.8	21.8	21.9	22.6	22	
降水量(mm)	0.0	3.0	9.5	933.5	134.5	631.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

注1)鹿児島地方気象台鹿屋測候所

注2)6~8月は月平均気温および月総降水量

調査月日・方法 (月日,詳細な方法,指数等を用いた場合は指数分類・式,被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日)6月25日(植付40日後),7月9日(同54日後),7月24日(同69日後),7月31日(同76日),

8月8日(同84日後),8月22日(同98日後),9月6日(同113日後)

(調査方法)生育時の発病:各試験区の固定した40株について見取り調査を行い,下記の基準により発病程度株数を計数し,次式により発病度を算出した。なお,初回調査時に植え傷みなどによる欠株は調査対象から除外した。
調査結果は累積で示した。

0:発病なし,1:葉の変色・萎凋,2:株基部の黒変,3:株基部の黒変が拡大または枯死

発病度 = $\left[\sum (\text{各発病指数} \times \text{発病程度株数}) / (\text{調査株数} \times 3) \right] \times 100$

作物名

(2024) 年 度 委 託

(かんしょ)

対 象 病 害 虫 名・学 名 基腐病 *Diaporthe destruens*

鹿児島県大隅加工技術研究センター

被害：5月30日（植付14日後），6月13日（同28日後）および前述の調査日毎に全ての株について茎葉の被害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

－；被害を認めない，＋；軽微な被害症状を認める，++；中程度の被害症状を認める，+++；重度の被害症状を認める，

その他 前年にかんしょを栽培し，基腐病が中発生であったほ場で試験を行った。

3. 試 験 成 績

生育期の累積発病株の推移(その1)

供試薬剤	希釈倍数 処理量 処理方法	連制	調査 株数	植付40日後(6/25)					植付54日後(7/9)					植付69日後(7/24)							
				指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	被害	指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	被害				
				0	1	2	3				0	1	2	3				0	1	2	3
5) CAF-2001SC 新規化合物75g/l	1000倍 散布	I	38	38	0	0	0	0.0		38	0	0	0	0.0		38	0	0	0	0.0	
II		38	38	0	0	0	0.0	-	38	0	0	0	0.0	-	38	0	0	0	0.0	-	
III		40	40	0	0	0	0.0		40	0	0	0	0.0		40	0	0	0	0.0		
合計		116	116	0	0	0	0.0	0.0		116	0	0	0	0.0	0.0		116	0	0	0	0.0
Lot. ENBK-176488-070		(防除価)					-	-					-	-					-	-	
214) フセキフロアブル ビ'リタ'クロメチル 35.0%	3000倍 散布	I	40	40	0	0	0	0.0		39	0	1	0	1.7		39	0	1	0	1.7	
II		39	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-	
III		40	40	0	0	0	0.0		40	0	0	0	0.0		39	0	1	0	1.7		
合計		119	119	0	0	0	0.0	0.0		118	0	1	0	0.8	0.6		117	0	2	0	1.7
Lot. AD17-5F2401		(防除価)					-	-					-	-					82.1	83.6	
220) ベジターボDF お'リキシンD亜鉛塩10% (お'リキシンDとして 89,000PsDu/g)	2000倍 散布	I	40	40	0	0	0	0.0		40	0	0	0	0.0		39	0	1	0	1.7	
II		40	40	0	0	0	0.0	-	40	0	0	0	0.0	-	40	0	0	0	0.0	-	
III		39	39	0	0	0	0.0		39	0	0	0	0.0		38	0	1	0	1.7		
合計		119	119	0	0	0	0.0	0.0		119	0	0	0	0.0	0.0		117	0	2	0	1.7
Lot. 220210T		(防除価)					-	-					-	-					82.1	83.6	
対) アミスター20フロアブル ア'キストロピ'ン 20.0%	2000倍 散布	I	40	40	0	0	0	0.0		39	0	1	0	1.7		39	0	1	0	1.7	
II		39	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-	
III		39	39	0	0	0	0.0		39	0	0	0	0.0		38	0	1	0	1.7		
合計		118	118	0	0	0	0.0	0.0		117	0	1	0	0.9	0.6		116	0	2	0	1.7
		(防除価)					-	-					-	-					81.8	83.5	
無処理	-	I	40	40	0	0	0	0.0		39	0	0	1	2.5		37	0	1	2	6.7	
II		38	38	0	0	0	0.0		37	0	1	0	1.8		36	0	2	0	3.5		
III		39	39	0	0	0	0.0		39	0	0	0	0.0		33	0	6	0	10.3		
合計		117	117	0	0	0	0.0	0.0		115	0	1	1	1.7	1.4		106	0	9	2	9.4

生育期の累積発病株の推移(その2)

供試薬剤	希釈倍数 処理量 処理方法	連制	調査 株数	植付76日後(7/31)					植付84日後(8/8)					植付98日後(8/22)							
				指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	薬害	指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	薬害				
				0	1	2	3				0	1	2	3				0	1	2	3
5) CAF-2001SC 新規化合物75g/l	1000倍 散布	I	38	37	0	1	0	1.8		37	0	1	0	1.8		37	0	1	0	1.8	
		II	38	38	0	0	0	0.0	-	38	0	0	0	0.0	-	38	0	0	0	0.0	-
		III	40	40	0	0	0	0.0		40	0	0	0	0.0		40	0	0	0	0.0	
		合計	116	115	0	1	0	0.9	0.6		115	0	1	0	0.9	0.6		115	0	1	0
Lot. ENBK-176488-070			(防除価)				92.8	93.5				94.7	95.4				96.0	96.5			
214) フセキフロアブル ビ'リタ'クロメチル 35.0%	3000倍 散布	I	40	39	0	1	0	1.7		40	0	0	0	0.0		38	0	1	1	4.2	
		II	39	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-
		III	40	39	0	1	0	1.7		39	0	1	0	1.7		38	0	1	1	4.2	
		合計	119	117	0	2	0	1.7	1.1		118	0	1	0	0.8	0.6		115	0	2	2
Lot. AD17-5F2401			(防除価)				86.0	87.3				94.8	95.5				84.3	82.8			
220) ベジターボDF お'リキシンD亜鉛塩10% (お'リキシンDとして 89,000PsDu/g)	2000倍 散布	I	40	40	0	0	0	0.0		39	0	1	0	1.7		37	0	3	0	5.0	
		II	40	40	0	0	0	0.0	-	39	0	1	0	1.7	-	39	0	1	0	1.7	-
		III	39	36	0	3	0	5.1		36	0	2	1	6.0		36	0	2	1	6.0	
		合計	119	116	0	3	0	2.5	1.7		114	0	4	1	4.2	3.1		112	0	6	1
Lot. 220210T			(防除価)				78.9	81.0				74.1	75.4				72.5	74.1			
対) アミスター20フロアブル ア'キストロピ'ン 20.0%	2000倍 散布	I	40	39	0	1	0	1.7		40	0	0	0	0.0		39	0	1	0	1.7	
		II	39	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-
		III	39	37	0	2	0	3.4		37	0	2	0	3.4		37	0	1	1	4.3	
		合計	118	115	0	3	0	2.6	1.7		116	0	2	0	1.7	1.1		115	0	2	1
			(防除価)				78.6	80.8				89.5	91.0				88.0	87.8			
無処理	-	I	40	37	0	1	2	6.7		36	0	1	3	9.2		34	0	3	3	12.5	
		II	38	35	0	3	0	5.3		32	0	5	1	11.4		30	0	7	1	14.9	
		III	39	31	0	7	1	14.5		30	0	7	2	17.1		28	0	8	3	21.4	
		合計	117	103	0	11	3	12.0	8.8		98	0	13	6	16.2	12.5		92	0	18	7

生育期の累積発病株の推移(その3)

供試薬剤	希釈倍数 処理量 処理方法	連制	調査 株数	植付113日後(9/6)					植付84日後～113日後 の防除価の平均	
				指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	薬害
				0	1	2	3			
5) CAF-2001SC 新規化合物75g/l Lot. ENBK-176488-070	1000倍 散布	I	38	37	0	1	0	1.8		
		II	38	38	0	0	0	0.0	-	
		III	40	40	0	0	0	0.0		
		合計	116	115	0	1	0	0.9	0.6	
		(防除価)						97.3	97.5	
214) フセキフロアブル ビ'リ'グ'クロメチル 35.0% Lot. AD17-5F2401	3000倍 散布	I	40	36	0	3	1	7.5		
		II	39	34	0	5	0	8.5	-	
		III	40	36	0	3	1	7.5		
		合計	119	106	0	11	2	10.9	7.8	
		(防除価)						65.5	66.4	
220) ベジターボDF ボ'リ'キシンD亜鉛塩10% (ボ'リ'キシンDとして 89,000PsDu/g) Lot. 220210T	2000倍 散布	I	40	32	0	5	3	15.8		
		II	40	37	0	3	0	5.0	-	
		III	39	33	0	4	2	12.0		
		合計	119	102	0	12	5	14.3	10.9	
		(防除価)						54.8	53.2	
対) アミスター20フロアブル ア'グ'キストロビ'ン 20.0% 無処理	2000倍 散布	I	40	39	0	0	1	2.5		
		II	39	37	0	2	0	3.4	-	
		III	39	36	0	2	1	6.0		
		合計	118	112	0	4	2	5.1	4.0	
		(防除価)						83.8	83.1	
無処理	-	I	40	27	0	9	4	25.0		
		II	38	26	0	11	1	21.9		
		III	39	27	0	9	3	23.1		
		合計	117	80	0	29	8	31.6	23.4	

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

評価は、無処理区での発病や散布剤の残効を考慮して、8月8日(植付84日後)から9月6日(同113日後)の指数別発病株数による発病度から求めた防除価の平均値を用いた。効果の判定にあたっては本病害が土壌病害であることを考慮した。

5) CAF-2001SC 1000 倍散布 BAA-

本薬剤の1000倍希釈液散布は、対照薬剤のアミスター20フロアブル2000倍希釈液散布と比べ効果は同等であった。無処理との比較では高い効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

214) フセキフロアブル 3000 倍散布 BAA-

本薬剤の3000倍希釈液散布は、対照薬剤のアミスター20フロアブル2000倍希釈液散布と比べ効果は同等であった。無処理との比較では効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

220) ベジターボDF 2000 倍散布 CBB-

本薬剤の2000倍希釈液散布は、対照薬剤のアミスター20フロアブル2000倍希釈液散布と比べ効果はやや劣った。無処理との比較では効果が認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名・学 名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 鹿児島県大隅加工技術研究センター 担当者氏名 下津 文宏

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果及び葉害の検出

2. 試 験 方 法 試験地場所 鹿児島県鹿屋市細山田 鹿児島県大隅加工技術研究センター圃場

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別を記載)

品種:コガネセンガン 定植:2024年5月16日 栽植距離等:畝幅90cm×株間40cm, 1条植え, 露地栽培(黒マルチ)

土性:壤土 施肥, その他一般管理は, 鹿児島県野菜栽培指針に準じた。

試験期間中の防除薬剤: 5月9日:ピーラム粒剤, プリンスベイト, 6月11日:コルト顆粒水和剤

7月22日:トレボン乳剤, 8月8日:プレバソフフロアブル5

区制・面積 1区21.6㎡ (3.6m×6.0m) 60株, 3連制

		4-I 無処理		2-III フセキフロアブル 1500倍苗浸漬		2-II フセキフロアブル 1500倍苗浸漬	1-I スクレアフロアブル 1000倍苗浸漬
4-III 無処理			3-III (対照) ベンレート水和剤 500倍苗浸漬	1-III スクレアフロアブル 1000倍苗浸漬		3-I (対照) ベンレート水和剤 500倍苗浸漬	
	4-II 無処理			3-II (対照) ベンレート水和剤 500倍苗浸漬	1-II スクレアフロアブル 1000倍苗浸漬	2-I フセキフロアブル 1500倍苗浸漬	

注) I, II, IIIは連制を表す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024年5月13日(植付3日前)

(処理方法) 植付前に所定濃度に希釈した薬液に苗を30分間浸漬した。

(処理時の作物ステージ) 7～9節苗

(試験期間中の気象)

平均気温は, 5～6月は平年並みか平年より高く, 7～8月は平年より高く推移した。

降水量は, 梅雨時期の5月6半旬, 6月4～6半旬は平年より多かったが, これ以外の期間は, 平年並みか平年より少なく推移した。

月日	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28
平均気温(℃)	13.8	11.8	10.3	16.9	12.5	15.2	18.3	18.0	18.8	16.5	19.3	21.1	16.9
降水量(mm)	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.5	8.5	12.0	0.0	4.0	116.0	79.5
月日	5/29	5/30	5/31	6月	7月	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8
平均気温(℃)	13.6	19.0	19.4	20.4	25.3	30.3	30.1	30	30.5	30.2	30	30	29.9
注 降水量(mm)	0.0	3.0	9.5	933.5	134.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0

注1) 鹿児島地方気象台鹿屋測候所

注2) 6～8月は月平均気温および月総降水量

調査月日・方法 (月日, 詳細な方法, 指数等を用いた場合は指数分類・式, 葉害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 6月25日(植付40日後), 7月9日(同54日後), 7月24日(同69日後), 7月31日(同76日後)

8月8日(同84日後)

(調査方法) 生育時の発病:各試験区の固定した40株について見取り調査を行い, 下記の基準により発病程度株数を計数し, 次式により発病度を算出した。なお, 初回調査時に植え傷みなどによる欠株は調査対象から除外した。

調査結果は累積で示した。

0:発病なし, 1:葉の変色・萎凋, 2:株基部の黒変, 3:株基部の黒変が拡大または枯死

発病度= [Σ (各発病指数×発病程度株数) / (調査株数×3)] ×100

葉害：5月30日（植付14日後），6月13日（同28日後）および前述の調査日毎に全ての株について茎葉の葉害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

－；葉害を認めない，＋；軽微な葉害症状を認める，++；中程度の葉害症状を認める，+++；重度の葉害症状を認める，

その他 前年にかんしょを栽培し，基腐病が中発生であったほ場で試験を行った。

3. 試 験 成 績

生育期の累積発病株の推移(その1)

供試薬剤	希釈倍数 処理量 処理方法	連制	調査 株数	植付40日後 (6/25)							植付54日後 (7/9)							植付69日後 (7/24)						
				指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	葉害	指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	葉害	指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	葉害
				0	1	2	3				0	1	2	3				0	1	2	3			
177) スクレアフロアブル マンデ'ストロ'ン 40.0%	1000倍 植付前30分 苗浸漬	I	40	40	0	0	0	0.0		40	0	0	0	0.0		40	0	0	0	0.0				
			38	38	0	0	0	0.0	-	38	0	0	0	0.0	-	38	0	0	0	0.0	-			
			38	38	0	0	0	0.0		38	0	0	0	0.0		37	0	1	0	1.8				
		合計	116	116	0	0	0	0.0	0.0		116	0	0	0	0.0	0.0		115	0	1	0	0.9	0.6	
		Lot. BAB143		(防除価)				-	-				-	-				90.8	91.6					
214) フセキフロアブル ビ'リタ'クロメチル 35.0%	1500倍 植付前30分 苗全部浸漬	I	39	39	0	0	0	0.0		39	0	0	0	0.0		38	0	1	0	1.7				
			40	40	0	0	0	0.0	-	40	0	0	0	0.0	-	40	0	0	0	0.0	-			
			39	39	0	0	0	0.0		39	0	0	0	0.0		36	0	0	3	7.7				
		合計	118	118	0	0	0	0.0	0.0		118	0	0	0	0.0	0.0		114	0	1	3	3.4	3.1	
		Lot. AD17-5F2401		(防除価)				-	-				-	-				63.9	54.6					
対) ペンレート水和剤 ベ'ノミル 50.0%	500倍 植付前30分 苗浸漬	I	40	40	0	0	0	0.0		40	0	0	0	0.0		39	0	1	0	1.7				
			39	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-			
			36	36	0	0	0	0.0		36	0	0	0	0.0		35	0	1	0	1.9				
		合計	115	115	0	0	0	0.0	0.0		115	0	0	0	0.0	0.0		113	0	2	0	1.7	1.2	
		(防除価)						-	-				-	-				81.5	83.0					
無処理	-	I	40	40	0	0	0	0.0		39	0	0	1	2.5		37	0	1	2	6.7				
			38	38	0	0	0	0.0		37	0	1	0	1.8		36	0	2	0	3.5				
			39	39	0	0	0	0.0		39	0	0	0	0.0		33	0	6	0	10.3				
		合計	117	117	0	0	0	0.0	0.0		115	0	1	1	1.7	1.4		106	0	9	2	9.4	6.8	

生育期の累積発病株の推移(その2)

供試薬剤	希釈倍数 処理量 処理方法	連制	調査 株数	植付76日後 (7/31)							植付84日後 (8/8)							植付69日後～84日後 の防除価の平均		
				指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	葉害	指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	葉害	発病株率	発病度	
				0	1	2	3				0	1	2	3						
177) スクレアフロアブル マンデ'ストロビン 40.0%	1000倍 植付前30分 苗浸漬	I	40	40	0	0	0		0.0		40	0	0	0		0.0		87.5	88.9	
			II	38	38	0	0	0		0.0	-	36	0	2	0		3.5			-
			III	38	37	0	1	0		1.8		36	0	2	0		3.5			
			合計	116	115	0	1	0	0.9	0.6		112	0	4	0	3.4	2.3			
Lot. BAB143			(防除価)			92.8				93.5				78.8				81.7		
214) フセキフロアブル ビ'リタ'クロメチル 35.0%	1500倍 植付前30分 苗全部浸漬	I	39	37	0	2	0		3.4		34	0	4	1		9.4		48.8	44.2	
			II	40	39	0	1	0		1.7	-	39	0	1	0		1.7			-
			III	39	35	0	1	3		9.4		32	0	4	3		14.5			
			合計	118	111	0	4	3	5.9	4.8		105	0	9	4	11.0	8.5			
Lot. AD17-5F2401			(防除価)			50.4				45.6				32.2				32.4		
対) ペンレート水和剤 ベ'ノミル 50.0%	500倍 植付前30分 苗浸漬	I	40	39	0	1	0		1.7		37	0	3	0		5.0		81.8	83.8	
			II	39	39	0	0	0		0.0	-	39	0	0	0		0.0			-
			III	36	35	0	1	0		1.9		35	0	1	0		1.9			
			合計	115	113	0	2	0	1.7	1.2		111	0	4	0	3.5	2.3			
(防除価)			85.5				86.9				78.6				81.5					
無処理	-	I	40	37	0	1	2		6.7		36	0	1	3		9.2		-	-	
			II	38	35	0	3	0		5.3		32	0	5	1		11.4			
			III	39	31	0	7	1		14.5		30	0	7	2		17.1			
			合計	117	103	0	11	3	12.0	8.8		98	0	13	6	16.2	12.5			

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

評価は、無処理区での発病や苗浸漬剤の残効を考慮し、7月24日（植付69日後）から8月8日（同84日後）の指数別発病株数による発病度から求めた防除価の平均値を用いた。効果の判定にあたっては本病害が土壌病害であることを考慮した。

177) スクレアフロアブル 1000 倍 植付前 30 分苗浸漬 BAA-

本薬剤の 1000 倍 植付前 30 分苗浸漬は、対照薬剤のベンレート水和剤 500 倍 植付前 30 分苗浸漬と比べ効果は高かった。無処理との比較では高い効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

214) フセキフロアブル 1500 倍 植付前 30 分苗全部浸漬 CBB-

本薬剤の 1500 倍 植付前 30 分苗全部浸漬は、対照薬剤のベンレート水和剤 500 倍 植付前 30 分苗浸漬と比べ効果はやや劣った。無処理との比較では効果は認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名・学 名 基腐病 *Diaporthe destruens*
試験場名 鹿児島県大隅加工技術研究センター 担当者氏名 下津 文宏

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果及び葉害の検討
2. 試 験 方 法 試験地場所 鹿児島県鹿屋市細山田 鹿児島県大隅加工技術研究センター圃場
対 象 病 害 虫 発 生 状 況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別を記載)
品種:コガネセンガン 定植:2024年5月16日 栽植距離等:畝幅90cm×株間40cm, 1条植え, 露地栽培(黒マルチ)
土性:壤土 施肥, その他一般管理は, 鹿児島県野菜栽培指針に準じた。
試験期間中の防除薬剤:5月9日:ピーラム粒剤, プリンスペイト, 6月11日:コルト顆粒水和剤
7月22日:トレボン乳剤, 8月8日:プレバソンフロアブル5

区制・面積 1区21.6㎡ (3.6m×6.0m) 60株, 3連制

1-Ⅲ フセキフロアブル 土壌全面混和	2-Ⅱ (対照) フリントフロアブル 土壌全面混和	3-Ⅰ 無処理
3-Ⅲ 無処理	1-Ⅱ フセキフロアブル 土壌全面混和	2-Ⅰ (対照) フリントフロアブル 土壌全面混和
2-Ⅲ (対照) フリントフロアブル 土壌全面混和	3-Ⅱ 無処理	1-Ⅰ フセキフロアブル 土壌全面混和

注)Ⅰ,Ⅱ,Ⅲは連制を表す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日)2024年5月9日(植付7日前)
(処理方法)所定濃度・量を背負式噴霧機でそれぞれ全面処理し, 耕耘後, 畝立てマルチャで混和, 作畝した。
(処理時の作物ステージ)7～9節苗
(試験期間中の気象)
平均気温は, 5～6月は平年並みか平年より高く, 7～9月は平年より高く推移した。
降水量は, 梅雨時期の5月6半旬, 6月4～6半旬, 台風の接近した8月6半旬は平年より多かったが, これ以外の
期間は, 平年並みか平年より少なく推移した。

月日	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28
平均気温(℃)	13.8	11.8	10.3	16.9	12.5	15.2	18.3	18.0	18.8	16.5	19.3	21.1	16.9
降水量(mm)	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.5	8.5	12.0	0.0	4.0	116.0	79.5
月日	5/29	5/30	5/31	6月	7月	8月	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	
平均気温(℃)	13.6	19.0	19.4	20.4	25.3	25.2	22.3	20.8	21.8	21.9	22.6	22	
降水量(mm)	0.0	3.0	9.5	933.5	134.5	631.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

注1) 鹿児島地方気象台鹿屋測候所
注2) 6～8月は月平均気温および月総降水量

調査月日・方法 (月日, 詳細な方法, 指数等を用いた場合は指数分類・式, 葉害の判断方法・時期を記載)

(調査月日)6月25日(植付40日後), 7月9日(同54日後), 7月24日(同69日後), 7月31日(同76日後)
8月8日(同84日後), 8月22日(同98日後), 9月6日(同113日後)
(調査方法)生育時の発病:各試験区の固定した40株について見取り調査を行い, 下記の基準により発病程度株数を計
数し, 次式により発病度を算出した。なお, 初回調査時に植え傷みなどによる欠株は調査対象から除外した。
調査結果は累積で示した。
0:発病なし, 1:葉の変色・萎凋, 2:株基部の黒変, 3:株基部の黒変が拡大または枯死
発病度= [Σ (各発病指数×発病程度株数) / (調査株数×3)] ×100

対 象 病 害 虫 名・学 名 基腐病 *Diaporthe destruens*

鹿児島県大隅加工技術研究センター

葉害：5月30日（植付14日後），6月13日（同28日後）および前述の調査日毎に全ての株について茎葉の葉害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

－；葉害を認めない，＋；軽微な葉害症状を認める，++；中程度の葉害症状を認める，+++；重度の葉害症状を認める，

その他 前年にかんしょを栽培し，基腐病が中発生であったほ場で試験を行った。

3. 試 験 成 績

生育期の累積発病株の推移(その1)

供試薬剤	希釈倍数 処理量 処理方法	連制	調査 株数	植付40日後 (6/25)							植付54日後 (7/9)							植付69日後 (7/24)						
				指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	葉害	指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	葉害	指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	葉害
				0	1	2	3				0	1	2	3				0	1	2	3			
214) フセキフロアブル ビ'リダ'クロメチル 35.0%	400倍 100L/10a 植付前 全面散布 土壌混和	I	37	37	0	0	0	0.0		37	0	0	0	0.0		35	0	1	1	4.5				
			39	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-			
			40	40	0	0	0	0.0		40	0	0	0	0.0		37	0	1	2	6.7				
			合計	116	116	0	0	0	0.0	0.0		116	0	0	0	0.0	0.0		111	0	2	3	4.3	3.7
			(防除価)					-	-					-	-							54.2	45.4	
Lot. AD17-5F2401 対) フリントフロアブル25 トリフロキシストロビン 25.0%	250倍 100L/10a 植付前 全面散布 土壌混和	I	40	40	0	0	0	0.0		40	0	0	0	0.0		37	0	1	2	6.7				
			39	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-			
			38	38	0	0	0	0.0		38	0	0	0	0.0		35	0	3	0	5.3				
			合計	117	117	0	0	0	0.0	0.0		117	0	0	0	0.0	0.0		111	0	4	2	5.1	4.0
			(防除価)					-	-					-	-							45.5	41.7	
無処理	-	I	40	40	0	0	0	0.0		39	0	0	1	2.5		37	0	1	2	6.7				
			38	38	0	0	0	0.0		37	0	1	0	1.8		36	0	2	0	3.5				
			39	39	0	0	0	0.0		39	0	0	0	0.0		33	0	6	0	10.3				
			合計	117	117	0	0	0	0.0	0.0		115	0	1	1	1.7	1.4		106	0	9	2	9.4	6.8
			(防除価)					-	-															

生育期の累積発病株の推移(その2)

供試薬剤	希釈倍数 処理量 処理方法	連制	調査 株数	植付76日後 (7/31)					植付84日後 (8/8)					植付98日後 (8/22)								
				指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	葉害	指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	葉害					
				0	1	2	3				0	1	2	3				0	1	2	3	
214) フセキフロアブル ビ'リダ'クロメチル 35.0%	400倍 100L/10a 植付前 全面散布 土壌混和	I	37	35	0	1	1	4.5		33	0	3	1	8.1		31	0	5	1	11.7		
			39	39	0	0	0	0.0	-	37	0	2	0	3.4	-	37	0	2	0	3.4	-	
			40	33	0	4	3	14.2		30	0	6	4	20.0		28	0	7	5	24.2		
			合計	116	107	0	5	4	7.8	6.3	100	0	11	5	13.8	10.6	96	0	14	6	17.2	13.2
			(防除価)					35.2	28.4					15.1	15.2			19.3	18.6			
Lot. AD17-5F2401 対) フリントフロアブル25 トリフロキシストロビン 25.0%	250倍 100L/10a 植付前 全面散布 土壌混和	I	40	38	0	0	2	5.0		37	0	1	2	6.7		37	0	0	3	7.5		
			39	39	0	0	0	0.0	-	39	0	0	0	0.0	-	36	0	3	0	5.1	-	
			38	35	0	3	0	5.3		35	0	2	1	6.1		31	0	5	2	14.0		
			合計	117	112	0	3	2	4.3	3.4	111	0	3	3	5.1	4.3	104	0	8	5	11.1	8.8
			(防除価)					64.3	61.3					68.4	65.9			48.0	45.6			
無処理	-	I	40	37	0	1	2	6.7		36	0	1	3	9.2		34	0	3	3	12.5		
			38	35	0	3	0	5.3		32	0	5	1	11.4		30	0	7	1	14.9		
			39	31	0	7	1	14.5		30	0	7	2	17.1		28	0	8	3	21.4		
			合計	117	103	0	11	3	12.0	8.8	98	0	13	6	16.2	12.5	92	0	18	7	21.4	16.2
			(防除価)																			

生育期の累積発病株の推移(その3)

供試薬剤	希釈倍数 処理量 処理方法	連制	調査 株数	植付113日後(9/6)						植付84日後～113日後 の防除価の平均		
				指数別発病株数				発病 株率 (%)	発病度	葉害	発病株率	発病度
				0	1	2	3					
214) フセキフロアブル ビ'リダ'クロメチル 35.0%	400倍 100L/10a 植付前 全面散布 土壌混和	I	37	28	0	8	1	17.1	22.1	21.6		
			39	36	0	2	1	6.0				
			40	27	0	9	4	25.0				
			合計	116	91	0	19	6			21.6	16.1
			(防除価)					31.8			31.1	
対) フリントフロアブル25 トリフロキシストロビン 25.0%	250倍 100L/10a 植付前 全面散布 土壌混和	I	40	35	0	2	3	10.8	52.3	49.0		
			39	32	0	7	0	12.0				
			38	28	0	4	6	22.8				
			合計	117	95	0	13	9			18.8	15.1
			(防除価)					40.5			35.4	
無処理	-	I	40	27	0	9	4	25.0	-	-		
			38	26	0	11	1	21.9				
			39	27	0	9	3	23.1				
			合計	117	80	0	29	8			31.6	23.4
			(防除価)									

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

評価は、無処理区での発病や、土壌処理剤の残効を考慮し、8月8日(植付84日後)から9月6日(同113日後)の指数別発病株数による発病度から求めた防除価の平均値を用いた。効果の判定にあたっては本病害が土壌病害であることを考慮した。

214) フセキフロアブル 400 倍 植付前 全面散布 土壌混和 CCC-

本薬剤の400倍 植付前 全面散布 土壌混和は、対照薬剤のフリントフロアブル 250 倍 植付前 全面散布 土壌混和と比べ効果はやや劣った。無処理との比較では程度は低い効果が認められた。効果は低い実用性はあると考えられる。被害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 沖縄県農業研究センター

担当者氏名 前上門陽

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 沖縄県糸満市真壁 820 沖縄県農業研究センター内

対象病害虫発生状況 甚発生(接種)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:紅はるか(茨城県産、M サイズ、6月購入)

種芋は、育苗箱(B型:幅 51cm×奥行き 36cm×高さ 10.5cm)に並べて配置した。

試験は室内で行った。

区制・面積・試験区の構成 1 区 種芋 40 個 3 連制

1-I	3-II	2-III
2-I	1-II	3-III
3-I	2-II	1-III

1:無処理 2:ベルコートフロアブル 3:トップジン M 水和剤 I II IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日)2024 年6月 10 日

(処理時の作物のステージ)種芋、M サイズ

(処理方法) 薬剤処理は、供試薬剤を所定の濃度に水道水で調整した溶液に種芋を 20 分間または 30 分間浸漬した。風乾後、1 つずつビニール袋に入れ、育苗箱に並べて配置した。

(処理前後の降雨影響) 実験室内のため、降雨なし。

試験期間中の気象条件 $27\pm 2^{\circ}\text{C}$ 。室内のため、降雨の影響なし。

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:処理 28 日後(7 月 9 日)

薬害試験:処理 7、28 日後(6 月 17 日、7 月 9 日)

(調査方法) 薬効:菌接種箇所からの塊根腐敗の有無を、塊根を縦に切断し内部の褐変症状で塊根腐敗率を調査した。防除価は塊根腐敗率の平均値から求めた。また、塊根ごとに正常萌芽数および萌芽枯死数を肉眼で調査し、萌芽枯死率を算出した。

薬害:薬効調査時に萌芽茎の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

接種方法:サツマイモ基腐病菌(OK-9 分離株)をサツマイモ葉入り素寒天培地で培養し、形成された分生子殻から α 孢子 10^6 個/ml の孢子懸濁液を作製した。種芋のなり首側に直径 8mm のコルクボーラーで深さ 1mm 程度の傷をつけ、そこへ孢子懸濁液を $20\mu\text{l}$ 滴下し、段ボール内にて $27\pm 2^{\circ}\text{C}$ 条件下で保管した。3 日後、基腐病に感染したなり首側変色部分が肉眼で確認できなくなるまで薄く切除し、外観が無病徴の接種種芋を作成し、すぐに薬剤処理を行った。

対象病害虫名・学名 基腐病 *Diaporthe destruens*
試験場名 沖縄県農業研究センター

3. 試験成績

1) 薬効・薬害試験

供試薬剤	使用方法	連制	7/9(処理28日後)							薬害		
			調査塊根数	発病塊根数	正常萌芽塊根数	無萌芽塊根数	萌芽枯死塊根数	萌芽枯死率	発病塊根率	防除価	6/17	7/9
52)ベルコートフロアブル	500倍 20分間 種芋浸漬	I	40	36	8	32	0	0.0	90.0	24.2	—	—
イミダジンアルベシル酸塩 30.0 %		II	40	36	2	37	1	2.5	90.0		—	—
		III	40	19	12	27	1	2.5	47.5		—	—
Lot.No. SDB-10G		平均	40	30.3	7.3	32.0	0.7	1.7	75.8		—	—
対)トップジンM水和剤	200倍 30分間 種芋浸漬	I	40	19	20	20	0	0.0	47.5	58.3	—	—
チオファネートメチル70.0%		II	40	22	19	21	0	0.0	55.0		—	—
		III	40	9	21	19	0	0.0	22.5		—	—
		平均	40	16.7	20.0	20.0	0.0	0.0	41.7		—	—
無処理		I	40	40	2	34	4	10.0	100	—		
		II	40	40	0	40	0	0.0	100			
		III	40	40	0	40	0	0.0	100			
		平均	40	40.0	0.7	38.0	1.3	3.3	100.0			

防除価は、発病塊根率の平均値から算出した。

4. 考察

無処理区の発病塊根率は 100%の甚発生での試験であった。その条件下で対照のトップジン M 水和剤の発病塊根率は 41.7%と一定の効果を示した。効果の判定は、処理 28 日後の発病塊根率の防除価で行った。

52) ベルコートフロアブル 500 倍 20 分間浸漬 DDDー

本剤の 500 倍 20 分間種芋浸漬は、対照トップジン M 水和剤 200 倍 30 分間種芋浸漬と比較して効果は劣り、無処理と比較して効果は低い。よって実用性はないと思われる。薬害は認められなかった。

1. 試 験 目 的 防除効果及び薬害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 沖縄県糸満市真壁 820 沖縄県農業研究センター内圃場

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 中発生(接種)

耕種概要

品種:ちゅら恋紅 定植日:2024 年 7 月 9 日 栽植距離:畝幅80cm×株間 20cm

土性:軽植土(ジャーガル) 露地栽培 マルチ有

試験期間中の防除薬剤:7 月 9 日 プリンスベイト

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成 4.8 m² (0.8m×6m) 30 株 3 連制

2-Ⅲ	1-Ⅱ	3-Ⅰ
1-Ⅲ	3-Ⅱ	2-Ⅰ
3-Ⅲ	2-Ⅱ	1-Ⅰ

1:ベジターボDF:2000倍
2:アミスター20フロアブル:2000倍
3:無処理
Ⅰ, Ⅱ, Ⅲは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024 年 8 月 1 日, 8 月 17 日, 8 月 30 日, 9 月 12 日(4回)

(処理時の作物のステージ) 生育期

(処理方法) 供試薬剤および対照薬剤は所定濃度に希釈した薬液を 10a 当たり 250~300L/10a の割合で背負い式バッテリー噴霧器により株全体へ散布した。

(試験期間中の降雨) 薬剤散布後の降雨は確認されなかったため、試験に影響はなかったと思われる。

試験期間中の気象条件

日時	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31
平均気温(°C)	28.2	28.6	28.5	28.6	28.8	28.9	28.9	28.3	28.7	28.8	29.2	29.3	29.7	29.4	27.7	27.2	26.6	26.4	28.1	28.3	28.0	28.0	28.3
平均風速(m/s)	3.4	3.9	3.7	3.6	3.9	3.8	4.2	3.9	3.3	3.0	3.4	3.9	4.6	7.0	7.8	10.4	8.9	8.5	6.2	6.1	4.6	2.9	2.4
降水量(mm)	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.0	0.5	0.5	16.0	25.5	22.0	27.5	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0

日時	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23
平均気温(°C)	28.8	28.4	28.8	28.9	28.4	28.0	28.4	28.5	28.1	28.6	28.2	27.9	28.3	26.9	27.7	28.2	27.9	28.0	27.6	28.3	28.3	29.0	27.8
平均風速(m/s)	2.4	3.5	3.9	4.6	5.6	5.4	3.4	3.3	2.3	2.2	2.0	1.9	2.4	1.8	1.6	2.1	2.6	4.0	8.4	3.9	2.0	1.9	2.1
降水量(mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	19.5	0.0	31.5	5.5	10.5	0.5	2.0	3.0	0.5	0.0	0.0	0.0

日時	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15
平均気温(°C)	26.1	27.7	27.1	27.9	28.1	28.1	29.0	28.1	27.2	27.6	27.2	27.3	27.7	27.5	27.5	27.3	25.7	27.3	26.0	27.5	25.6	27.0	27.9
平均風速(m/s)	4.3	4.2	3.6	4.2	3.5	2.8	2.3	2.8	2.6	2.4	2.3	2.3	2.9	3.3	3.4	5.2	6.4	7.2	5.8	6.8	6.3	4.1	4.7
降水量(mm)	52.5	0.0	1.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	3.5	18.5	0.5	4.0	8.0	39.5	13.5	30.0	0.0	26.0	2.0	0.5

日時	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27
平均気温(°C)	28.1	27.0	26.5	27.0	27.5	28.1	27.9	27.6	25.8	25.6	26.4	26.5
平均風速(m/s)	7.7	8.0	7.2	6.4	7.9	8.1	4.7	2.9	2.8	2.9	5.3	6.0
降水量(mm)	2.0	7.5	10.5	13.0	21.5	0.5	1.5	0.0	12.0	13.0	1.5	42.5

調査月日・方法

(調査月日) 薬効:9 月 12 日(植付 65 日後), 9 月 27 日(同 80 日後)

薬害:8 月 8 日(植付 30 日後), 8 月 24 日(同 46 日後), 9 月 6 日(同 59 日後), 9 月 19 日(同 72 日後)

(調査方法) 薬効:各区全株について発病を下記の基準に従って発病指数別に調査し、発病株率および発病度を算出した。防除価は

発病度の平均より求めた。

発病指数 0:発病が認められない 1:地際から30cm 以内の茎で発病が確認される 2:株が枯死する

発病度 $=\{\Sigma(\text{発病指数別株数} \times \text{発病指数}) \times 100\} \div (\text{調査株数} \times 2)$

薬害は株全体を対象に、肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

－:薬害を認めない ＋:軽微な薬害症状を認める ++:中程度の薬害症状を認める +++:重度の薬害症状を認める

その他

7/9 に各試験区の緩衝区(12 カ所)に基腐病菌を接種した罹病芋(約 100g)を置き感染源とした。

3. 試 験 成 績

薬効試験

供試薬剤	希釈倍数 処理量 処理方法	連 制	調 査 株 数	苗植付65日後(9/12)						苗植付80日後(9/27)					
				0	1	2	発病 株率	発病 度	防除 価	0	1	2	発病 株率	発病 度	防除 価
165) ベジターボDF ポリオキシシンD亜鉛塩10.0% (ポリオキシシンDとして89000PsDu/g) Lot. 220210T	2000倍	I	30	0	0	0	0	0	100.0	28	2	0	6.7	3.3	71.9
		II	30	0	0	0	0	0		24	6	0	20	10	
		III	30	0	0	0	0	0		29	1	0	3.3	1.7	
		平均					0.0	0.0					10.0	5.0	
対照)アミスター20フロアブル アゾキシストロビン20.0%	2000倍	I	30	0	0	0	0	0	100.0	29	1	0	3.3	1.7	87.6
		II	30	0	0	0	0	0		27	3	0	10	5	
		III	30	0	0	0	0	0		30	0	0	0	0	
		平均					0.0	0.0					4.4	2.2	
無処理		I	30	0	0	0	0	0		18	12	0	40	20	
		II	30	0	1	0	3.3	1.7		23	6	1	23.3	13.3	
		III	30	0	1	0	3.3	1.7		19	10	1	36.7	20	
		平均					2.2	1.1					33.3	17.8	

薬害調査

供試薬剤	処理方法	連制	調査月日			
			8/8	8/24	9/6	9/19
165) ベジターボDF	2000倍	I	—	—	—	—
		II	—	—	—	—
		III	—	—	—	—
対照)アミスター20フロアブル	2000倍	I	—	—	—	—
		II	—	—	—	—
		III	—	—	—	—
無処理	—	I	—	—	—	—
		II	—	—	—	—
		III	—	—	—	—

4. 考察

植付から 50 日が経過しても基腐病の発病が確認されなかったことから、8/30 に蔓返しを実施し、発病を促した。その後、9/12 に無処理区で基腐病の初発が確認され、さらに平均風速が 5～8m でかつ連続した降雨があり、発病株は急速に増加し、最終調査時の 9/27 には発病株率 33.3%となり中発生条件での試験となった。効果の判定は難防除病害を考慮して行った。

判定は、植付け 80 日後(9/27)の発病度の防除価で行った。

165) ベジターボ DF 2000 倍散布 CAA -

本剤の 2000 倍の散布は、基腐病に対し、対照薬剤のアミスター20 フロアブル 2000 倍散布と比べやや劣る効果を示し、無処理と比べ効果は高かった。実用性は高い。薬害は認められなかった。

担当者氏名 前上門 陽

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 沖縄県糸満市真壁 820 沖縄県農業研究センター内

対象病害虫発生状況 多発生(接種)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:ちゅら恋紅 定植日:2024 年 7 月 17 日 栽植距離:畝幅 80cm×株間 30cm 一条植え

土性:軽塩土(ジャーガル) 露地栽培

試験期間中の防除薬剤: 7/17 プリンスベイト(6kg/10a)

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1 区 7.2 m² (0.8m×9m) 30 株 3 連制

試験区の構成

1-I	2-I	3-I
2-II	3-II	4-I
3-III	4-II	1-II
4-III	1-III	2-III

→N

1:無処理区 2:ベンレート水和剤 3:フセキフロアブル 1000 倍全身浸漬 4:スクレアフロアブル 1500 倍全身浸漬

I II IIIは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日)2024 年 7 月 17 日

(処理時の作物のステージ) 苗長 30cm

(処理方法) 所定濃度の各供試薬剤に苗全体が浸かるよう 30 分間浸漬した。その後、軽く風乾し、定植した。

(処理前後の降雨影響)処理日と翌日に降雨はなく、降雨の影響はなかったと思われる。

試験期間中の気象条件 観測地点:アメダス 沖縄県南城市糸数

月日	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22
平均平均(°C)	28.3	28.7	28.8	29.2	29.3	29.7	29.4	27.7	27.2	26.6	26.4	28.1	28.3	28.0	28.0	28.3	28.8	28.4	28.8	28.9	28.4	28.0	28.4	28.5	28.1	28.6	28.2	27.9	28.3	26.9	27.7	28.2	27.9	28.0	27.6	28.3	28.3	29.0
降水量合計(mm)	0.0	0.0	0.0	0.5	1.0	0.5	0.5	16.0	25.5	22.0	27.5	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	19.5	0.0	31.5	5.5	10.5	0.5	2.0	3.0	0.5	0.0	0.0

月日	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29
平均平均(°C)	27.8	26.1	27.7	27.1	27.9	28.1	28.1	29.0	28.1	27.2	27.6	27.2	27.3	27.7	27.5	27.5	27.3	25.7	27.3	26.0	27.5	25.6	27.0	27.9	28.1	27.0	26.5	27.0	27.5	28.1	27.9	27.6	25.8	25.6	26.4	26.5	25.0	25.0
降水量合計(mm)	0.0	52.5	0.0	1.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	3.5	18.5	0.5	4.0	5.0	39.5	13.5	30.0	0.0	26.0	2.0	0.5	2.0	7.5	10.5	13.0	21.5	0.5	1.5	0.0	12.0	13.0	1.5	42.5	10.0	6.5

月日	9/30	10/1	10/2
平均平均(°C)	26.2	27.3	27.5
降水量合計(mm)	0.0	0.0	2.5

7 月 23 日から 24 日にかけて台風 3 号が接近したため、7/22 に試験区全体に防風ネットを被覆・固定し、7 月 24 日に外した。

調査月日・方法

(調査月日) 7 月 24 日(処理 7 日後)、7 月 31 日(14 日後)、8 月 7 日(21 日後)、8 月 14 日(28 日後)、8 月 21 日(35 日後)、8 月 28 日(42 日後)、9 月 4 日(49 日後)、9 月 11 日(56 日後)、9 月 18 日(63 日後)、9 月 25 日(70 日後)、10 月 2 日(77 日後)

(調査方法) 薬効:試験期間を通じて 30 株に対し、下記の基準により調査し、発病株率、発病度を算出した。

発病指数 0:発病なし 1:株基部の黒変 2:株基部の黒変が拡大 3:枯死

発病度= $\frac{\sum(\text{各発病指数別株数} \times \text{発病指数})}{\text{調査株数} \times 3} \times 100$

被害:薬効調査時に肉眼で観察し、以下の基準により調査した。

−:被害を認めない +:軽微な被害症状を認める ++:中程度の被害症状を認める +++:重度の被害症状を認める

その他

2024 年 7 月 12 日にサツマイモ基腐病菌(OK-9 分離株)孢子懸濁液 10⁶ 個/ml を苗 1 本あたり 1ml 噴霧した。その後、新聞紙で包み、5 日間室温(25℃)条件下で静置した。

3. 試験成績

薬効試験

(その1)

供試薬剤	希釈倍率 処理方法	連制	処理7日後(7/24)										処理14日後(7/31)										処理21日後(8/7)									
			調査 株数	程度別発病株数				発病度	発病株率	防除価	調査 株数	程度別発病株数				発病度	発病株率	防除価	調査 株数	程度別発病株数				発病度	発病株率	防除価						
				0	1	2	3					0	1	2	3					0	1	2	3									
177)スクレアフロアブル マンデストロピン40.0% Lot: BAB143	1000倍 苗全身 30分間浸漬	I	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		II	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		III	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		平均	30					0.0	0.0	-	30					0.0	0.0	-	30					0.0	0.0	-						
214)フセキフロアブル ピリダクロメチル35.0% Lot: AD17-SF2401	1500倍 苗全身 30分間浸漬	I	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		II	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		III	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		平均	30					0.0	0.0	-	30					0.0	0.0	-	30					0.0	0.0	-						
対ベンレート水和剤 ベノミル50.0%	500倍 苗全身 30分間浸漬	I	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		II	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		III	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		平均	30					0.0	0.0	-	30					0.0	0.0	-	30					0.0	0.0	-						
無処理		I	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		II	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		III	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		平均	30					0.0	0.0		30					0.0	0.0		30					0.0	0.0							

(その2)

供試薬剤	希釈倍率 処理方法	連制	処理28日後(8/14)										処理35日後(8/21)										処理42日後(8/28)									
			調査 株数	程度別発病株数				発病度	発病株率	防除価	調査 株数	程度別発病株数				発病度	発病株率	防除価	調査 株数	程度別発病株数				発病度	発病株率	防除価						
				0	1	2	3					0	1	2	3					0	1	2	3				0	1	2	3		
177)スクレアフロアブル マンデストロピン40.0% Lot: BAB143	1000倍 苗全身 30分間浸漬	I	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		II	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		III	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		平均	30					0.0	0.0	-	30					0.0	0.0	100	30					0.0	0.0	100						
214)フセキフロアブル ピリダクロメチル35.0% Lot:AD17-SF2401	1500倍 苗全身 30分間浸漬	I	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		II	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	27	3	0	0	3.3	10.0		30	24	5	1	0	7.8	20.0							
		III	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		平均	30					0.0	0.0	-	30					1.1	3.3	73.2	30					2.6	6.7	79.4						
対)ベンレート水和剤 ベニミル50.0%	500倍 苗全身 30分間浸漬	I	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		II	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	30	0	0	0	0.0	0.0							
		III	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	29	1	0	0	1.1	3.3		30	28	2	0	0	2.2	6.7							
		平均	30					0.0	0.0	-	30					0.4	1.1	90.2	30					0.7	2.2	94.1						
無処理		I	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	26	4	0	0	4.4	13.3		30	20	6	3	1	16.7	33.3							
		II	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	25	4	1	0	6.7	16.7		30	20	6	2	2	17.8	33.3							
		III	30	30	0	0	0	0.0	0.0		30	29	1	0	0	1.1	3.3		30	28	1	1	0	3.3	6.7							
		平均	30					0.0	0.0		30					4.1	11.1		30					12.6	24.4							

(その3)

供試薬剤	希釈倍率 処理方法	連制	調査 株数	処理49日後(9/4)								発病度	発病株率	防除価	調査 株数	処理56日後(9/11)								発病度	発病株率	防除価	調査 株数	処理63日後(9/18)								発病度	発病株率	防除価
				程度別発病株数				程度別発病株数								程度別発病株数				程度別発病株数																		
				0	1	2	3	0	1	2	3					0	1	2	3	0	1	2	3					0	1	2	3							
177)スクレアフロアブル マンデストロピン40.0% Lot: BAB143	1000倍 苗全身 30分間浸漬	I	30	30	0	0	0	0.0	0.0				30	30	0	0	0	0.0	0.0				30	29	1	0	0	1.1	3.3									
		II	30	30	0	0	0	0.0	0.0				30	30	0	0	0	0.0	0.0				30	30	0	0	0	0.0	0.0									
		III	30	29	1	0	0	1.1	3.3				30	28	1	0	1	4.4	6.7				30	26	2	1	1	7.8	13.3									
		平均	30					0.4	1.1	98.8				30				1.5	2.2	96.2				30				3.0	5.6	94								
214)フセキフロアブル ピリダクロメチル35.0% Lot:AD17-SF2401	1500倍 苗全身 30分間浸漬	I	30	28	2	0	0	2.2	6.7				30	28	2	0	0	2.2	6.7				30	26	2	2	0	6.7	13.3									
		II	30	23	2	2	3	16.7	23.3				30	20	4	2	4	22.2	33.3				30	16	6	2	6	31.1	46.7									
		III	30	29	1	0	0	1.1	3.3				30	28	1	0	1	4.4	6.7				30	26	2	1	1	7.8	13.3									
		平均	30					6.7	11.1	78.3				30				9.6	15.6	75.5				30				15.2	24.4	68.9								
対ベンレート水和剤 ベニミル50.0%	500倍 苗全身 30分間浸漬	I	30	28	2	0	0	2.2	6.7				30	28	2	0	0	2.2	6.7				30	28	0	1	1	5.6	6.7									
		II	30	30	0	0	0	0.0	0.0				30	30	0	0	0	0.0	0.0				30	29	1	0	0	1.1	3.3									
		III	30	28	0	2	0	4.4	6.7				30	28	0	2	0	4.4	6.7				30	27	1	2	0	5.6	10.0									
		平均	30					2.2	4.4	92.8				30				2.2	4.4	94.3				30				4.1	6.7	91.7								
無処理		I	30	15	4	1	10	40.0	50.0				30	12	6	0	12	46.7	60.0				30	11	6	0	13	50.0	63.3									
		II	30	12	6	4	8	42.2	60.0				30	10	3	4	13	55.6	66.7				30	7	3	5	15	64.4	76.7									
		III	30	25	3	0	2	10.0	16.7				30	22	5	0	3	15.6	26.7				30	17	3	4	6	32.2	43.3									
		平均	30					30.7	42.2				30					39.3	51.1				30				48.9	61.1										

(その4)

供試薬剤	希釈倍率 処理方法	連制	調査 株数	処理70日後(9/25)				発病度	発病株率	防除価	調査 株数
------	--------------	----	----------	--------------	--	--	--	-----	------	-----	----------

薬害(汚れ)

供試薬剤	希釈倍率 処理方法	連制	処理7日後 (7/24)	処理14日後 (7/31)	処理21日後 (8/7)	処理28日後 (8/14)	処理35日後 (8/21)	処理42日後 (8/28)	処理49日後 (9/4)	処理56日後 (9/11)	処理63日後 (9/18)	処理70日後 (9/25)	処理77日後 (10/2)
177)スクレアフロアブル	1000倍	I	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		II	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		III	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
214)フセキフロアブル	1500倍	I	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		II	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		III	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対)ベンレート水和剤	500倍	I	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		II	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		III	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

4. 考察

本試験の無処理区では、処理 35 日後の 8 月 21 日に初発が確認され、その後発病株率は急激に増加し、処理 77 日後の 10 月 2 日までに発病株率 71.1%、発病度 57.8 と多発生条件下での試験となった。判定は、処理 77 日後の発病度の防除価で行った。効果の判定にあたっては、本病害が土壌病害で難防除であることを考慮した。その条件下で対照のベンレート水和剤は、処理 77 日後まで発病株率 8.9%、防除価 91.7 となり、高い防除効果を示した。

177)スクレアフロアブル 1,000 倍 苗全身 30 分浸漬 BAA-

本剤 1,000 倍苗全身 30 分浸漬は、対照区と比較しほぼ同程度の効果であり、無処理区に比べ効果は高かった。実用性は高いと考えられた。薬害は認められなかった。

214)フセキフロアブル 1,500 倍 苗全身 30 分浸漬 DAA-

本剤 1,500 倍苗全身 30 分浸漬は、対照区と比較し効果は劣る効果であり、無処理区に比べ効果は高かった。実用性は高いと考えられた。薬害は認められなかった。

(2024) 年 度

作物名
(かんしょ)

対象病害虫名・学名 基腐病 *Diaporthe destruens*

試験場名 三井化学クロップ&ライフソリューション(株)

担当者氏名 井上栄明、二條貴通、津田幹雄

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 宮崎県串間市大平大東原

対象病害虫発生状況 少発生(自然発病)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:宮崎紅、植付:2024年5月31日、栽植距離:畝幅70cm×株間35cm程度、黒色マルチ(生分解性マルチ)

土性:淡色アロフェン質黒ボク土、施肥:ピカイチ2号60kg/10a、ミネラル有機160kg/10a、ようりん40kg/10a

栽培期間中の防除薬剤:

ネマクリーン20kg/10a、フォース粒剤9kg/10a、ダーズバン粒剤9kg/10aを畝立直前(5月10日)に全面土壌混和。

土壌消毒:5月10日の畝立て時にドクロロール畝内処理、同時に黒色マルチ被覆した。

苗消毒:5月30日ベンレート水和剤1,000倍液に植付予定の苗を30分間浸漬した。その他、一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1区110㎡(5m×23m=7畦×65株程度) 2連制(無処理区は4連制)

3m	20m	3m	20m	3m	20m	3m	20m
1-A: 植付3週間後		4-A: 無処理		3-A: 参考剤		2-A: 植付6週間後	
3-B: 参考剤		2-B: 植付6週間後		1-B: 植付3週間後		4-B: 無処理	
4-C: 無処理		—		—		—	
—		—		4-D: 無処理		—	

注) 試験区は5m×23mで設置したが、調査は各区の左3mおよび区境である両端1畝を除く3.5m(5畝)×20mで実施

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 植付3週間後処理=2024年6月21日、同6週間後処理=7月11日、同9週間後処理=8月2日

(処理方法) モンガリット1キロ粒剤は試験区内へ均一に、手で所定日に1回、1kg/10a相当を処理した。

参考剤のアミスター20フロアブルは背負い式散布機で所定濃度に調製した薬液を、植付3週間後および6週間後、9週間後に、繁茂程度に合わせ十分量(100~150L/10a)散布した。

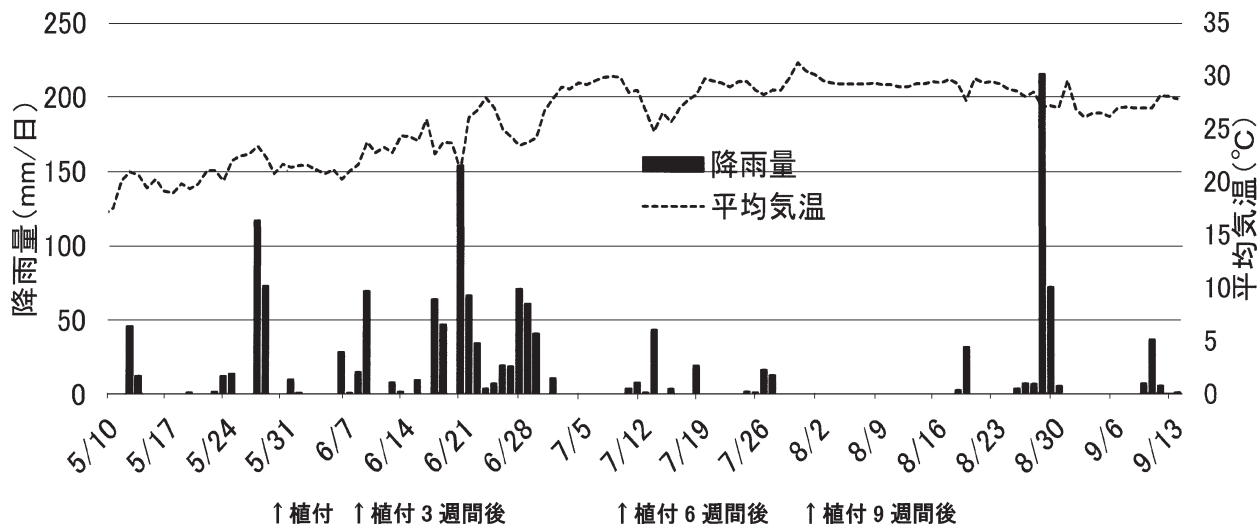
(処理前後の降雨影響)

植付3週間後処理は当日に降雨があったが、雨の合間に処理できたため、フロアブル散布でも大きな影響はなかったと想定される。

植付6週間後処理は処理後に降雨があったが、フロアブル剤の薬液が十分に乾いてからの降雨であったため影響はなかった。

植付9週間後処理は処理当日の降雨はなかった。

試験期間中の気象条件 観測地点: 宮崎県串間市(気象庁WEBページから抜粋)



調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

初期の発病調査として7月11日および8月2日に各試験区の両端2畝の株元を観察した。また、薬効調査として9月4日(植付96日後)に各試験区の2～4畝目の3畝を、9月13日(植付105日後)に4～6畦目の3畝を対象として、試験区全長から3mを除いた20mの全株について、株元の発病(基部発病)の有無を調査した(下図を参照)。なお、発病調査時は、調査対象ではない畝および畝間に入らないようにした。

畝 1	畝 2	畝 3	畝 4	畝 5	畝 6	畝 7
初 期 発 病 調 査	中 間 調 査	中 間 調 査	中 間 ・ 最 終 調 査	最 終 調 査	最 終 調 査	初 期 発 病 調 査

薬害調査は初期発病および薬効調査と併せて以下の基準で達観調査した。

- －:薬害を認めない
- ＋:軽微な薬害症状を認める
- ＋＋:中程度の薬害症状を認める
- ＋＋＋:重度の薬害症状を認める

試験区	処理法	反復	薬害程度			
			7/11	8/2	9/4	9/13
モンガリット1キロ粒剤	植付3週間後処理	1-A	－	－	－	－
		1-B	－	－	－	－
モンガリット1キロ粒剤	植付6週間後処理	2-A	－	－	－	－
		2-B	－	－	－	－
アミスター20フロアブル	2,000倍 3回散布 植付3,6,9週間後処理	3-A	－	－	－	－
		3-B	－	－	－	－
無処理		4-A	－	－	－	－
		4-B	－	－	－	－
		4-C	－	－	－	－
		4-D	－	－	－	－

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

前年にカンショ基腐病が発生(品種;宮崎紅)した汚染圃場(前作カンショ)を用いて試験を実施した。

3. 試験成績

試験区	処理法	反復	9/4 調査			9/13 調査			防除価
			調査 株数	発病 株数	発病株 率(%)	調査 株数	発病 株数	発病株 率(%)	
230) モンガリット1キロ粒剤 シメコナゾール4.5% Lot No. 31G60002	1kg/10a、全面散布	1-A	176	2	1.1	174	4	2.3	
	植付3週間後	1-B	171	3	1.8	174	8	4.6	
		平均	173.5	2.5	1.4	174.0	6.0	3.4	57
230) モンガリット1キロ粒剤 シメコナゾール4.5% Lot No. 31G60002	1kg/10a、全面散布	2-A	165	2	1.2	165	13	7.9	
	植付6週間後	2-B	173	4	2.3	170	9	5.3	
		平均	169.0	3.0	1.8	167.5	11.0	6.6	18
参) アミスター20フロアブル アゾキシストロビン20% Lot No. TAK3A25	2,000倍 3回散布	3-A	165	1	0.6	170	8	4.7	
	植付3,6,9週間後	3-B	177	1	0.6	177	27	15.3	
		平均	171.0	1.0	0.6	173.5	17.5	10.0	0
無処理	—	4-A	175	2	1.1	173	5	2.9	
		4-B	167	0	0.0	169	8	4.7	
		4-C	175	2	1.1	173	18	10.4	
		4-D	175	15	8.6	168	24	14.3	
		平均	173.0	4.8	2.7	170.8	13.8	8.1	—

4. 考察

7/12に初発を確認したが、発病株は1株のみであり、その後の発生の推移は緩慢であった。9/4(植付96日後)の中間調査時には無処理区の発病株率が2.7%で効果判定を行うことができない程度であったが、9/13(植付105日後)最終調査時には無処理区の発病株率が8.1%となる少発生条件下の試験となった。

なお、参考剤3回散布の効果は中間調査時には十分な程度を示している印象であったにもかかわらず、最終調査時には防除価が認められない結果となったが、特に問題となる要因は確認できなかった。

効果の判定は9月13日の発病株率より、難防除病害であることを考慮して行った。

230) モンガリット1キロ粒剤 1kg/10a 全面散布 植付3週間後処理 (A)BB-

本処理は、参考剤の効果に優り、無処理と比較して基部発病抑制効果が認められた。実用性はあると考えられた。
薬害は認められなかった。

230) モンガリット1キロ粒剤 1kg/10a 全面散布 植付6週間後処理 (B)DD-

本処理は、参考剤と同等で、無処理と比較して基部発病抑制効果が認められなかった。実用性はないと考えられた。
薬害は認められなかった。

担当者氏名 井上栄明、二條貴通、津田幹雄

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討
2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県南九州市穎娃町御領
- 対象病害虫発生状況 中発生(自然発病)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:黄金千貫、 植付:2024 年 5 月 30 日、 栽植距離:畝幅 90cm×株間 43cm 程度、 黒色マルチ(生分解性マルチ)

土性:多腐植質厚層アロフェン質黒ボク土、 施肥:現地慣行による(配合肥料 8-12-24、苦土)

栽培期間中の防除薬剤: ビーラム粒剤 20kg/10a、フォース粒剤 9kg/10a を畝立直前(5 月 9 日)に全面土壌混和

土壌消毒: 5 月 9 日の畝立て時にドクロール畝内処理、 同時に黒色マルチ被覆した。

苗消毒:5 月 29 日ベンレート水和剤 1,000 倍液に植付予定の苗を 30 分間浸漬した。

その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1 区 105 m² (7m×15m=8 畦×35 株程度) 2 連制(無処理区は 4 連制)

2m	13m	2m	13m	2m	13m	2m	13m
—	—	—	—	4-A: 無処理	—	—	—
4-B: 無処理	—	—	—	—	—	—	—
1-B: 植付 3 週間後	4-D: 無処理	—	—	3-A: 参考剤	—	4-C: 無処理	—
3-B: 参考剤	2-B: 植付 6 週間後	—	—	1-A: 植付 3 週間後	—	2-A: 植付 6 週間後	—

注) 試験区は 7m×15m で設置したが、調査は各区の左 2m および区境である両端 1 畝を除く 5.4m(6 畝)×13m で実施

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 植付 3 週間後処理=2024 年 6 月 21 日、同 6 週間後処理=7 月 11 日、同 9 週間後処理=8 月 1 日

(処理方法) モンガリット 1 キロ粒剤は試験区内へ均一に、手で所定日に 1 回、1kg/10a 相当を処理した。

参考剤のアミスター 20 フロアブルは背負い式散布機で所定濃度に調製した薬液を、植付 3 週間後および 6 週間後、9 週間後に、繁茂程度に合わせ十分量(100~150L/10a)散布した。

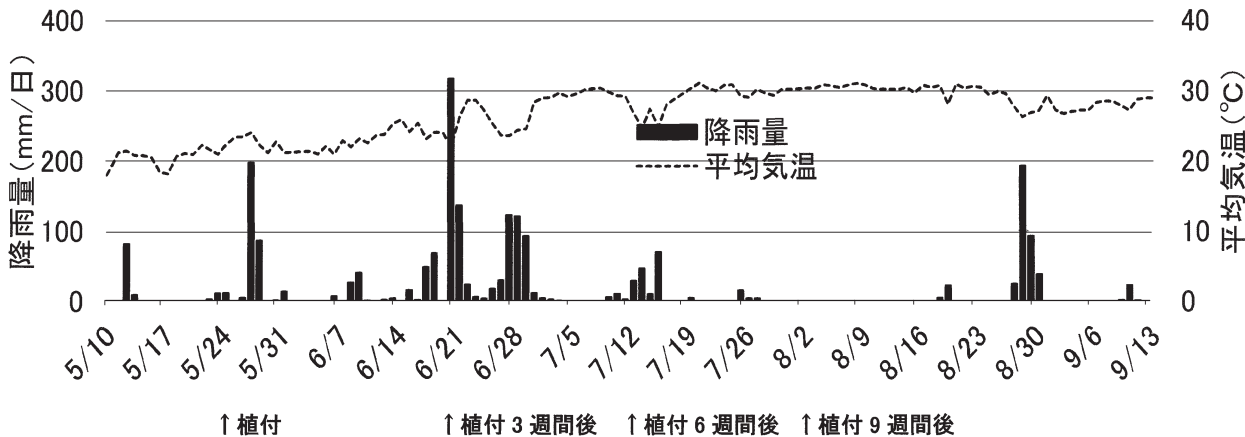
(処理前後の降雨影響)

植付 3 週間後処理は当日に降雨があったが、雨の合間に処理できたため、フロアブル散布でも大きな影響はなかったと想定される。

植付 6 週間後処理は処理後に降雨があったが、フロアブル剤の薬液が十分に乾いてからの降雨であったため影響はなかった。

植付 9 週間後処理は処理当日の降雨はなかった。

試験期間中の気象条件 観測地点: 鹿児島県指宿市(気象庁 WEB ページから抜粋) *穎娃町は観測地点なし



調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

初期の発病調査として7月11日および8月1日に各試験区の両端2畝の株元を観察した。また、薬効調査として9月3日(植付96日後)に各試験区の2〜4畝目の3畝を、9月12日(植付105日後)に5〜7畦目の3畝を対象として、試験区全長から2mを除いた13mの全株について、株元の発病(基部発病)の有無を調査した(下図を参照)。なお、発病調査時は、調査対象ではない畝および畝間に入らないようにした。

畝 1	畝 2	畝 3	畝 4	畝 5	畝 6	畝 7	畝 8
初 期 発 病 調 査	中 間 調 査	中 間 調 査	中 間 調 査	最 終 調 査	最 終 調 査	最 終 調 査	初 期 発 病 調 査

薬害調査は初期発病および薬効調査と併せて以下の基準で達観調査した。

- －:薬害を認めない
- ＋:軽微な薬害症状を認める
- ＋＋:中程度の薬害症状を認める
- ＋＋＋:重度の薬害症状を認める

試験区	処理法	反復	薬害程度			
			7/11	8/1	9/3	9/12
モンガリット1キロ粒剤	植付3週間後処理	1-A	－	－	－	－
		1-B	－	－	－	－
モンガリット1キロ粒剤	植付6週間後処理	2-A	－	－	－	－
		2-B	－	－	－	－
アミスター20フロアブル	2,000倍 3回散布 植付3,6,9週間後処理	3-A	－	－	－	－
		3-B	－	－	－	－
無処理		4-A	－	－	－	－
		4-B	－	－	－	－
		4-C	－	－	－	－
		4-D	－	－	－	－

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

前年にカンショ基腐病が発生(品種;黄金千貫)した汚染圃場(前作キャベツ)を用いて試験を実施した。

(2024) 年 度		作物名 (かんしょ)	
対象病害虫名・学名	基腐病 <i>Diaporthe destruens</i>	試験場名	三井化学クロップ&ライフソリューション(株)

3. 試験成績

試験区	処理法	反復	9/12 調査			
			調査 株数	発病株 数	発病株率 (%)	防除価
230) モンガリット1キロ粒剤 シメコナゾール 4.5% Lot No. 31G60002	1kg/10a、全面散布	1-A	89	15	16.9	
	定植 3 週間後	1-B	90	7	7.8	
		平均	89.5	11.0	12.3	52
230) モンガリット1キロ粒剤 シメコナゾール 4.5% Lot No. 31G60002	1kg/10a、全面散布	2-A	90	16	17.8	
	定植 6 週間後	2-B	90	16	17.8	
		平均	90.0	16.0	17.8	31
参) アミスター20フロアブル アゾキシストロビン 20% Lot No. TAK3A25	2,000 倍 3 回散布	3-A	89	7	7.9	
	植付 3,6,9 週間後	3-B	92	5	5.4	
		平均	90.5	6.0	6.6	74
無処理	—	4-A	90	25	27.8	
		4-B	88	25	28.4	
		4-C	91	26	28.6	
		4-D	92	17	18.5	
		平均	90.3	23.3	25.8	—

4. 考察

7/11 に初発を確認したが、発病株は2株のみであった。その後の発生の推移は緩慢であったが、9月には薬効評価に十分な進展が認められ、9/12(植付105日後)最終調査時には、無処理区の発病株率が25.8%となる中発生条件下の試験となった。効果の判定は9月12日の発病株率より、難防除病害であることを考慮して行った。

230) モンガリット1キロ粒剤 1kg/10a 全面散布 定植3週間後処理 (C)BB-

本処理は、参考剤にやや劣り、無処理と比較して基部発病抑制効果が認められた。実用性はあると考えられた。
薬害は認められなかった。

230) モンガリット1キロ粒剤 1kg/10a 全面散布 定植6週間後処理 (D)CC-

本処理は、参考剤に劣り、無処理と比較して基部発病抑制効果が認められたがその程度はやや低かった。効果はやや低い
実用性はあると考えられた。
薬害は認められなかった。

担当者氏名 尾松直志

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討
2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県枕崎市現地ほ場
- 対象病害虫発生状況 多発生
- 耕種概要

品種:べにはるか 定植日:2024 年 5 月 5 日 栽植距離:畝間 90cm 株間 30cm 1 条植え露地栽培 土性:黒ボク土
試験期間中の防除薬剤:なし 施肥:鹿児島県栽培基準に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1 区 36.0 m² (3.6m× 10m) 130 株/区 3 連制

①－Ⅰ	②－Ⅰ	③－Ⅰ	④－Ⅰ	
⑤－Ⅰ		⑥－Ⅰ	①－Ⅱ	
②－Ⅱ	③－Ⅱ	④－Ⅱ	⑤－Ⅱ	
	⑥－Ⅱ	①－Ⅲ	②－Ⅲ	
③－Ⅲ	④－Ⅲ	⑤－Ⅲ		⑥－Ⅲ



①: スクレアフロアブル ②: フセキフロアブル ③: クミガードSC 200L散布 ④: メジャーフロアブル
⑤: 対) アミスター20フロアブル ⑥: 無処理 I～Ⅲは反復を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

- (処理年月日) 2024 年 6 月 14 日、7 月 2 日、19 日の 3 回
- (処理時の作物のステージ) 生育期(定植 40 日後の蔓が通路に伸びてくる時期から散布開始)
- (処理方法) 所定の濃度に調整した薬液を背負い式電動噴霧器で 200L/10a 散布した。
- (処理前後の降雨影響) 薬剤散布前後の降雨はなく、気象の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月	項 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
6月	平均気温℃	21.7	21.1	21.3	20.9	21.6	21.3	23.4	22.3	23.2	21.9	22.9	24.2	24.9	25.1	24.5	25.1	23.5	23.6	23.3	22.9	25.5	27.1	27.2	26.1	24.6	23.4	23.3	23.9	24.4	27.2	
	樹水量mm	0	0	0	0	0	6.5	0	31	15	3.5	0	1	0	0	18	0.5	58.5	34	0	223	161	3	2	15	26	35	159	109	74	0	
7月	平均気温℃	27.9	28	28.8	28.8	29	29.2	29.4	29.6	29.7	28.9	28.4	26.1	24.6	27	25.7	27.3	28.2	29.3	30.1	30.2	30.4	29.5	30.2	30	29.5	28.7	29.5	28.8	29.1	29.5	30
	樹水量mm	2.5	0	0	0	0	0	0	0	0.5	0	11	14	27.5	45	14.5	37	0	0	9.5	0	0	0.5	0	0	10.5	24	0	0	0	0	0
8月	平均気温℃	29.9	29.9	30.3	30.4	29.9	30	30.4	30.6	30.9	30.5	29.6	29.1	28	28.6	28.2	29.5	29.7	29.6	28.8	30	30.1	30.1	29.7	29.7	29.2	29.8	28.3	26.3	26.6	27.3	29.2
	樹水量mm	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	9.5	0.5	0	0	7	3.5	0	0	2	0	0	0	23.5	180	71	40.5	0
本枠は薬剤処理日、大文字は効果判定日																																
気象データ：アメダス松崎																																

太枠は薬剤処理日、太文字は効果判定日 気象データ:アメダス枕崎

調査月日・方法

- (調査月日) 薬効試験:8 月 21 日(最終散布 33 日後)
- 薬害試験:7 月 2 日、19 日、24 日
- (調査方法) 各区の中央に位置する 30 株について、株元の発病を下記の基準に従い調査し、発病株率および発病度を算出した。なお、株元以外の発病は除外して調査した。
- 調査基準 0:株元に発病が認められない。 1:株元に軽度の発病が認められる。 2:株が萎凋または枯死している。
- 発病度＝Σ(発病指数×発病指数別株数)÷(全調査株数×2)×100
- 薬害評価にあたっては、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。
- －:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++:重度の薬害症状を認める。

その他

前年の栽培で、基腐病が圃場全体に発病したほ場を選定し試験に供した。

対象病害虫名 基腐病 (*Diaporthe destruens*)

試験場名 株式会社Field Styled Lab.

3. 試 験 成 績

供試薬剤	使用方法	反復	調査株数	8月21日（最終散布33日後）							薬害 7/2,19,24
				発病株数	発病株率	程度別発病株数			発病度	防除価	
						0	1	2			
172) クミガードSC	500倍 200L/10a 散布	I	30	12	40.0	17	11	2	25.0		—
水酸化第二銅 20.0%		II	30	14	46.7	16	8	6	33.3		—
（銅として13.0%）		III	30	16	53.3	14	9	7	38.3		—
Lot.E3F14C		平均	30	14.0	46.7	15.7	9.3	5.0	32.2	9.6	
177) スクレアフロアブル	3000倍 200L/10a 散布	I	30	2	6.7	28	2	0	3.3		—
マダニストロビン 40.0%		II	30	5	16.7	25	2	3	13.3		—
Lot.BAB143		III	30	5	16.7	25	1	4	15.0		—
		平均	30	4.0	13.4	26.0	1.7	2.3	10.6	70.2	
214) フセキフロアブル	4000倍 200L/10a 散布	I	30	10	33.3	20	9	1	18.3		—
ビリダクロメシル 35.0%		II	30	9	30.0	21	5	4	21.7		—
Lot.AD-17SL		III	30	7	23.3	23	4	3	16.7		—
		平均	30	8.7	28.9	21.3	6.0	2.7	18.9	46.9	
227) メジャーフロアブル	2000倍 200L/10a 散布	I	30	6	20.0	24	4	2	13.3		—
ビヨキシストロビン 22.5%		II	30	3	10.0	27	1	2	8.3		—
Lot.A2C01		III	30	6	20.0	24	1	5	18.3		—
		平均	30	5.0	16.7	25.0	2.0	3.0	13.3	62.6	
対) アミスター20フロアブル	2000倍 200L/10a 散布	I	30	11	36.7	19	5	6	28.3		—
		II	30	9	30.0	21	2	7	26.7		—
		III	30	13	43.3	17	10	3	26.7		—
		平均	30	11.0	36.7	19.0	5.7	5.3	27.2	23.6	
無処理		I	30	15	50.0	15	7	8	38.3		—
		II	30	16	53.3	14	11	5	35.0		—
		III	30	14	46.7	16	8	6	33.3		—
		平均	30	15.0	50.0	15.0	8.7	6.3	35.6		

4. 考 察

基腐病は7月2日(2回目散布時)に初発を確認したがその後の進展は緩やかだった。7月下旬の降雨後に病勢が進展し、8月21日(最終散布33日後)には無処理区の発病株率が50.0%の多発生となった。8月21日には地上の茎へ二次感染を多く確認したため、8月21日の調査結果をもって難防除病害の判定基準に沿って評価した。

172)クミガードSC 500倍散布 DDD —

本剤の500倍散布は、対照のアミスター20フロアブル2000倍散布に劣る効果で、無処理区と比較すると効果は低い。実用性はないと考えられる。薬害は認められなかった。

177)スクレアフロアブル 3000倍散布 AAA —

本剤の3000倍散布は、対照のアミスター20フロアブル2000倍散布の効果に優り、無処理区と比較しても高い効果がある。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

214)フセキフロアブル 4000倍散布 ABB —

本剤の4000倍散布は、対照のアミスター20フロアブル2000倍散布の効果に優り、無処理区と比較すると効果はある。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

227)メジャーフロアブル 2000倍散布 AAA —

本剤の2000倍散布は、対照のアミスター20フロアブル2000倍散布の効果に優り、無処理区と比較すると高い効果がある。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

担当者氏名 尾松直志

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討
2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県枕崎市現地ほ場
- 対象病害虫発生状況 中発生
- 耕種概要

品種:コガネセンガン 定植日:2024 年 5 月 8 日 栽植距離:畝間 90cm 株間 40cm 1 条植え 露地栽培
土性:黒ボク土 試験期間中の防除薬剤:なし 施肥:鹿児島県栽培基準に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1 区 54.0 m² (3.6m× 15m) 150 株/区 3 連制

⑤-Ⅲ	⑥-Ⅲ	⑦-Ⅲ			
②-Ⅲ	③-Ⅲ	④-Ⅲ			
⑥-Ⅱ	⑦-Ⅱ	①-Ⅲ			
⑦-Ⅰ	①-Ⅱ	②-Ⅱ	③-Ⅱ	④-Ⅱ	⑤-Ⅱ
①-Ⅰ	②-Ⅰ	③-Ⅰ	④-Ⅰ	⑤-Ⅰ	⑥-Ⅰ



①スクレア200倍 ②スクレア400倍 ③フセキ250倍 ④フセキ500倍
⑤フリント150倍 ⑥フリント250倍 ⑦無処理 I ~Ⅲは反復を示す

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024 年 5 月 2 日 (1 回)
(処理時の作物のステージ) 定植前
(処理方法) 畝立て前(5 月 2 日)の土壌に所定量を均一に手散布し、直ちにトラクタで耕うんした。翌日に畝立てを行い、処理 6 日後の 5 月 8 日に定植した。
(処理前後の降雨影響) 薬剤散布前後の降雨はなく処理への影響はなかったが、5 月 6 日に降雨があり定植が 5 月 8 日と遅れた。

試験期間中の気象条件

月	項 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
5月	平均気温℃	19	19	20	22	22	21	19	18	17	19	22	21	19	20	20	18	18	21	22	21	21	21.0	22	23	23	23	24	21	20	22	21
	個水量mm	4.5	0	2.5	0	0	80	0	0.5	0	0	0	91	1.5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.5	12	0	4	144	76	0	0	11
6月	平均気温℃	22	21	21	21	22	21	23	22	23	22	23	24	25	25	25	25	24	24	23	23	26	27	27	26	25	23	24	24	27		
	個水量mm	0	0	0	0	0	6.5	0	31	15	3.5	0	1	0	0	18	0.5	59	34	0	223	161	3	2	15	26	35	159	109	74	0	
7月	平均気温℃	28	28	29	29	29	29	29	30	30	29	28	26	25	27	26	27	28	29	30	30	30	30	30	30	30	29	30	29	29	30	30
	個水量mm	2.5	0	0	0	0	0	0	0.5	0	11	14	28	45	15	37	0	0	9.5	0	0	0.5	0	0	0	11	24	0	0	0	0	0
8月	平均気温℃	30	30	30	30	30	30	30	31	31	31	30	29	28	29	28	30	30	30	29	30	30	30	30	29	30	28	26	27	27	29	
	個水量mm	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	9.5	0.5	0	0	7	3.5	0	0	2	0	0	0	24	180	71	41	0
太枠は薬剤処理日、斜め文字は定植日、太文字は効果判定日																気象データ：アメダス枕崎																

太枠は薬剤処理日、斜め文字は定植日、太文字は効果判定日 気象データ：アメダス枕崎

調査月日・方法

(調査月日)薬効試験:8 月 21 日(定植 105 日後)
薬害試験:5/17(定植 9 日後)、7/4(定植 57 日後)
(調査方法) 各区中央付近の 50 株について、株元の発病を下記の基準に従い調査し、発病株率および発病度を算出した。なお、株元以外の発病は除外して調査した。
調査基準 0:株元に発病が認められない。 1:株元に軽度の発病が認められる。 2:株が萎凋または枯死している。
発病度 = Σ (発病指数 × 発病指数別株数) ÷ (全調査株数 × 2) × 100
薬害評価にあたっては、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。
- :薬害を認めない。 + :軽微な薬害症状を認める。 ++ :中程度の薬害症状を認める。 +++ :重度の薬害症状を認める。

その他

前年の栽培で、基腐病が圃場全体に発病したほ場を選定し試験に供した。

対象病害虫名 基腐病 (*Diaporthe destruens*)

試験場名 株式会社Field Styled Lab.

3. 試 験 成 績

供試薬剤	処理方法	連制	調査株数	発病株数	発病株率	程度別発病株数 (8/21定植105日後)			発病度	防除価	薬害 5/17,7/4
						0	1	2			
177)スクレアフロアブル マンデスロピン 40.0% Lot.BAB143	200倍	I	50	1	2	49	1	0	1		—
	50L/10a	II	50	6	12.0	44	3	3	9.0		—
	全面散布土壌混和	III	50	9	18.0	41	6	3	12.0		—
	定植前処理	平均	50	5.3	10.7	44.7	3.3	2.0	7.3	71.1	
177)スクレアフロアブル マンデスロピン 40.0% Lot.BAB143	400倍	I	50	5	10.0	45	5	0	5.0		—
	100L/10a	II	50	6	12.0	44	6	0	6.0		—
	全面散布土壌混和	III	50	3	6.0	47	2	1	4.0		—
	定植前処理	平均	50	4.7	9.3	45.3	4.3	0.3	5.0	80.3	
214)フセキフロアブル ビリダクロメチル 35.0% Lot.AD-17SL	250倍	I	50	12	24.0	38	9	3	15.0		—
	50L/10a	II	50	12	24.0	38	9	3	15.0		—
	全面散布土壌混和	III	50	13	26.0	37	12	1	14.0		—
	定植前処理	平均	50.0	12.3	24.7	37.7	10.0	2.3	14.7	42.1	
214)フセキフロアブル ビリダクロメチル 35.0% Lot.AD-17SL	500倍	I	50	10	20.0	40	10	0	10.0		—
	100L/10a	II	50	7	14.0	43	5	2	9.0		—
	全面散布土壌混和	III	50	13	26.0	37	10	3	16.0		—
	定植前処理	平均	50	10.0	20.0	40.0	8.3	1.7	11.7	53.9	
対) フリントフロアブル25 トリフロキシロピン 25.0%	125倍	I	50	5	10.0	45	5	0	5.0		—
	50L/10a	II	50	16	32.0	34	13	3	19.0		—
	全面散布土壌混和	III	50	13	26.0	37	11	2	15.0		—
	定植前処理	平均	50	11.3	22.7	38.7	9.7	1.7	13.0	48.7	
対) フリントフロアブル25 トリフロキシロピン 25.0%	250倍	I	50	20	40.0	30	15	5	25.0		—
	100L/10a	II	50	8	16.0	42	7	1	9.0		—
	全面散布土壌混和	III	50	18	36.0	32	12	6	24.0		—
	定植前処理	平均	50	15.3	30.7	34.7	11.3	4.0	19.3	23.7	
無処理	—	I	50	15	30.0	35	11	4	19.0		
		II	50	26	52.0	24	18	8	34.0		
		III	50	17	34.0	33	11	6	23.0		
		平均	50	19.3	38.7	30.7	13.3	6.0	25.3		

4. 考 察

基腐病は7月4日に初発を確認したがその後の進展は緩やかで、8月21日(定植105日後)には無処理区の発病株率が38.7%、発病度25.3の中発生となった。8月21日以降は地上部の茎へ二次感染を多く確認したため、8月21日の調査結果をもって難防除病害の判定基準に沿って評価した。

177)スクレアフロアブル 200倍 50L/10a 全面散布土壌混和 AAA —

本剤の200倍50L/10a全面散布土壌混和处理は、対照のフリントフロアブル125倍50L/10a全面散布土壌混和处理に優る効果で、無処理区と比較すると高い効果が認められる。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

177)スクレアフロアブル 400倍 100L/10a 全面散布土壌混和 AAA —

本剤の400倍100L/10a全面散布土壌混和处理は、対照のフリントフロアブル250倍100L/10a全面散布土壌混和处理に優る効果で、無処理区と比較すると高い効果が認められる。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

214)フセキフロアブル 250倍 50L/10a 全面散布土壌混和 BBB —

本剤の250倍50L/10a全面散布土壌混和处理は、対照のフリントフロアブル125倍50L/10a全面散布土壌混和处理と同等の効果で、無処理区と比較すると効果は認められ、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

214)フセキフロアブル 500倍 100L/10a 全面散布土壌混和 ABB —

本剤の500倍100L/10a全面散布土壌混和处理は、対照のフリントフロアブル250倍100L/10a全面散布土壌混和处理に優る効果で、無処理区と比較すると効果は認められ、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

担当者氏名 尾松直志

1. 試 験 目 的 防除効果及び被害の検討
2. 試 験 方 法 試験地場所 鹿児島県南九州市知覧町現地ほ場
- 対 象 病 害 虫 発 生 状 況 中発生
- 耕種概要

品種:コガネセンガン 定植日:2024 年 5 月 17 日
栽植距離:畝間 90cm 株間 30cm 1 条植え 露地栽培 土性:黒ボク土
試験期間中の防除薬剤:なし 施肥:鹿児島県栽培基準に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1 区 36.0 m² (3.6m× 10m) 130 株/区 3 連制

		①－Ⅰ	②－Ⅰ	③－Ⅰ
②－Ⅱ	③－Ⅱ			①－Ⅱ
①－Ⅲ	②－Ⅲ	③－Ⅲ		



①:ニマイバー水和剤 ②:対)ベンレート水和剤 ③:無処理
Ⅰ～Ⅲは反復を示す

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024 年 5 月 17 日 (1 回)
(処理時の作物のステージ) 苗 (定植前)
(処理方法) 所定の濃度に希釈した薬液に苗基部を 5 cm 程度 30 分間浸漬し、薬液から引き上げるときに苗全体を薬液に浸した。
(処理前後の降雨影響) 薬剤散布前後の降雨はなく、気象の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月	項 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
5月	平均気温℃	19.3	19	19.7	21.8	21.7	21.1	19.3	17.8	16.6	18.9	21.9	21.2	19.4	19.8	20.2	18.3	18.1	20.9	21.9	21.1	21.3	21.0	22.1	22.5	22.6	22.8	23.6	21.2	20.3	21.5	20.9
	個水量mm	4.5	0	2.5	0	0	79.5	0	0.5	0	0	0	90.5	1.5	0	0	0	0	0	0	0	1	2.5	11.5	0	4	144	75.5	0	0	10.5	
6月	平均気温℃	21.7	21.1	21.3	20.9	21.6	21.3	23.4	22.3	23.2	21.9	22.9	24.2	24.9	25.1	24.5	25.1	23.5	23.6	23.3	22.9	25.5	27.1	27.2	26.1	24.6	23.4	23.3	23.9	24.4	27.2	
	個水量mm	0	0	0	0	0	6.5	0	31	15	3.5	0	1	0	0	18	0.5	58.5	34	0	223	161	3	2	15	26	35	159	109	74	0	
7月	平均気温℃	27.9	28	28.8	28.8	29	29.2	29.4	29.6	29.7	28.9	28.4	26.1	24.6	27	25.7	27.3	28.2	29.3	30.1	30.2	30.4	29.5	30.2	30	29.5	28.7	29.5	28.8	29.1	29.5	30
	個水量mm	2.5	0	0	0	0	0	0	0.5	0	11	14	27.5	45	14.5	37	0	0	9.5	0	0	0.5	0	0	0	10.5	24	0	0	0	0	0
太枠は薬剤処理日、太文字は効果判定日																																
気象データ：アメダス松崎																																

太枠は薬剤処理日、太文字は効果判定日 気象データ：アメダス枕崎

調査月日・方法

(調査月日) 薬効試験:7 月 31 日 (定植 75 日後)
薬害試験:5 月 30 日、6 月 27 日
(調査方法) 区境の株を除く 100 株について、株元の発病を下記の基準に従い調査し、発病株率および発病度を算出した。なお、株元以外の発病は除外して調査した。
調査基準 0:株元に発病が認められない。 1:株元に軽度の発病が認められる。 2:株が萎凋または枯死している。
薬害評価にあたっては、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。
発病度 = Σ (発病指数 × 発病指数別株数) ÷ (全調査株数 × 2) × 100
－:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

前年の栽培で、基腐病が圃場全体に発病したほ場を供した。

対象病害虫名 基腐病 (*Diaporthe destruens*)

試験場名 株式会社Field Styled Lab.

3. 試 験 成 績

供試薬剤	使用方法	連制	調査株数	7月31日（定植75日後）						薬害 5/30、6/27
				発病株率 (%)	程度別発病株数			発病度	防除価	
					0	1	2			
192) ニマイバー水和剤	500倍 苗浸漬処理	I	100	5	95	3	2	3.5	—	
ジェットフェンカルブ 25.0%		II	100	11	89	5	6	8.5	—	
ベノミル 25.0%		III	100	7	93	5	2	4.5	—	
Lot.RAC567		平均	100	7.7	92.3	4.3	3.3	5.5	40.1	
対) ベンレート水和剤	500倍 苗浸漬処理	I	100	9	91	6	3	6.0	—	
		II	100	11	89	8	3	7.0	—	
		III	100	8	92	8	0	4.0	—	
		平均	100	9.3	90.7	7.3	2.0	5.7	38.7	
無処理		I	100	11	89	6	5	8.0		
		II	100	16	84	9	7	11.5		
		III	100	14	86	11	3	8.5		
		平均	100	13.7	86.3	8.7	5.0	9.3		

4. 考 察

基腐病は7月4日に初発を確認したがその後の進展は緩やかだった。7月31日(定植75日後)には無処理区の発病株率が13.7%、発病度9.3の中発生となった。評価は、7月31日の結果から難防除病害の判定基準に沿って判定した。

192)ニマイバー水和剤 500倍 苗浸漬処理 BBB —

本剤の500倍苗浸漬処理は、対照のベンレート水和剤500倍苗浸漬処理と同等の効果で、無処理区と比較すると効果はある。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 疫病 *Phytophthora colocasiae*

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

担当者氏名 本田 傑, 福元 智博

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県南さつま市金峰町大野 2200 農業開発総合センター 露地畑

対象病害虫発生状況 少発生 (接種) 7月9日に初発生を確認。

耕種概要

品種: 石川早生 (購入種芋), 植付日: 2024 年 3 月 18 日, 栽植距離: 株間 35cm, 畝間 110cm, 種芋消毒: 2024 年 3 月 11 日に 1 時間水浸漬選抜後トップジン M 水和剤 200 倍希釈液 30 分浸漬, 黒マルチ栽培, 施肥: オール 14 (N:P:K=14:14:14) 100kg/10a, 土壌消毒: なし, 土性: 淡色アロフェン質黒ボク土, その他の一般管理は慣行に従った。試験期間中の他薬剤散布: 1) 7 月 17 日にプレバソンフロアブル 5 を 16 倍希釈で 1.6L/10a ドローン散布した。2) 7 月 26 日にグレーシア乳剤を 2,000 倍希釈で 300L/10a 散布した。

区制・面積 1 区 3.85 m² (1.1m×3.5m) 10 株 3 反復

0.3m	3.5m	0.3m	3.5m	0.3m	3.5m	0.3m
★		★		★	無 I	★
★	試 III	★		★	対 I	★
★	対 III	★	無 II	★		★
★	無 III	★	試 II	★		★
★		★	対 II	★	試 I	★
★		★		★		★

3.5m (10 株×株間 0.3m)

試: クプロシールド 1,000 倍希釈散布

対: IC ボルドー 66D 100 倍希釈散布

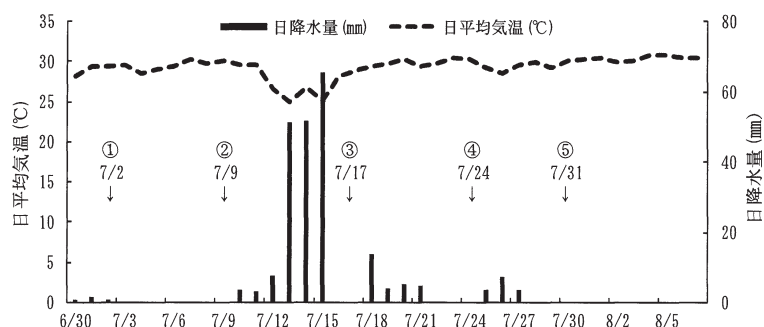
無: 無処理, ★は接種株を示す, I, II, III は反復を示す

処理年月日, 量, 方法, 処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024 年 7 月 2 日, 7 月 9 日, 7 月 17 日, 7 月 24 日, 7 月 31 日 (計 5 回)

(処理方法) 所定濃度の供試薬剤を 300L/10a 相当量を背負い式電動噴霧器により散布した。薬液には展着剤 (スカッシュ, 2,000 倍希釈) を加用した。

(処理前後の降雨) 1 回目散布 (7 月 2 日) において, アメダスでは 0.5mm の降雨があるが, 散布時および散布後 3 時間の降雨はなく, その影響はなかったと考えられた。その他の散布日には降雨はなく, 本試験における薬剤散布に降雨の影響はなかったと考えられた。



観測地点: アメダスデータ (加世田)

調査月日・方法

(調査月日) 薬効調査: 7 月 2 日 (1 回目散布前), 7 月 9 日 (1 回目散布 7 日後, 2 回目散布前), 7 月 17 日 (2 回目散布 8 日後, 3 回目散布前), 7 月 24 日 (3 回目散布 7 日後, 4 回目散布前), 7 月 30 日 (4 回目散布 6 日後, 5 回目散布前日), 8 月 6 日 (5 回目散布 6 日後) (計 6 回)

(調査方法) 薬害調査: 7 月 9 日 (1 回目散布 7 日後), 7 月 17 日 (2 回目散布 8 日後), 7 月 24 日 (3 回目散布 7 日後), 7 月 30 日 (4 回目散布 6 日後), 8 月 6 日 (5 回目散布 6 日後) (計 5 回)

各区 10 株の全葉について以下の発病指数別に調査し, 発病率, 発病度, 防除価を算出した。

発病指数 0: 病斑なし 1: 直径 3cm 以下の病斑が 1~2 個 2: 葉柄を含む葉全体の発病面積が 5% 以下
3: 葉柄を含む葉全体の発病面積が 6~25% 4: 葉柄を含む葉全体の発病面積が 26~50%
5: 葉柄を含む葉全体の発病面積が 51% 以上, または枯死

発病度 = {Σ (発病指数 × 発病指数別葉数) ÷ (全調査葉数 × 5)} × 100

作物名

(2024) 年度委託

(さといも)

対象病害虫名・学名 疫病 *Phytophthora colocasiae* 試験場名 鹿児島県農業開発総合センター
(調査方法：続き) 防除価=100×{1－(処理区での発病度÷無処理区での発病度)}

葉害調査：葉および茎について調査時に肉眼観察し、症状の程度を以下の内容で調査した。

－：葉害症状を認めない ＋：軽微な葉害症状を認める ++：中程度の葉害症状を認める
+++：重度の葉害症状を認める

その他

(1) 試験期間中の病害虫の発生など

ハスモンヨトウによる食害を認めたため殺虫剤散布を2回行った。食害の程度は試験を継続できる程度であった。

(2) 間接接種方法について

6月29日および7月13日に、V8培地25℃暗室で10日間培養した疫病菌(*Phytophthora colocasiae*)保存株(Y-2016菌株)の菌叢をメスで1cm角に切り取り、金たわしで傷をつけた試験区間の緩衝株展開葉にOPPテープで水分を保持するように付着させ接種した。

(3) 気象の影響

7月19日から8月6日までの累積降水量は27.5mm(前年44.5mm, 平年142.7mm; アメダス加世田)と非常に少なく、これにより疫病の病勢は非常に緩慢であった。この条件下で、7月30日調査から8月6日調査にかけて各区の落葉が目立ち、調査葉数が減少した。落葉が目立つ株の一部は、葉柄にしわを生じ、少ない降水量が一因となった落葉であることが予想された。

3. 試験成績

表1 葉効調査結果

区	処理方法	反復	調査 株数	発病 株数	総出 葉数	調査日7月30日（4回目散布6日後、5回目散布前日）										発病 株率 (%)	発病 葉率 (%)	発病度	防除価
						発病程度別葉数													
						0	1	2	3	4	5								
171) クワロシールド [®] 塩基性硫酸銅 26.9% (銅として14.8%)	1000倍希釈 300L/10a散布 スカッシュ2000倍希釈で加用	I	10	3	129	126	1	1	1	0	0	30.0	2.3	0.9					
		II	10	4	110	105	1	4	0	0	0	40.0	4.5	1.6					
		III	10	3	92	89	0	2	1	0	0	30.0	3.3	1.5					
		Ave.	10.0	3.3	110.3							33.3	3.4	1.3	51.9				
対) ICボルト [®] -66D 塩基性硫酸銅 28.1% (銅として3.7%)	100倍希釈 300L/10a散布 スカッシュ2000倍希釈で加用	I	10	2	82	80	0	2	0	0	0	20.0	2.4	1.0					
		II	10	4	101	97	0	3	1	0	0	40.0	4.0	1.8					
		III	10	0	102	102	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0					
		Ave.	10.0	2.0	95.0							20.0	2.1	0.9	66.7				
無処理	—	I	10	1	65	64	0	1	0	0	0	10.0	1.5	0.6					
		II	10	5	95	87	2	2	4	0	0	50.0	8.4	3.8					
		III	10	4	102	95	1	2	2	2	0	40.0	6.9	3.7					
		Ave.	10.0	3.3	87.3							33.3	5.6	2.7	—				

表2 葉効調査結果

区	処理方法	反復	調査 株数	発病 株数	総出 葉数	調査日8月6日（5回目散布6日後）										発病 株率 (%)	発病 葉率 (%)	発病度	防除価
						発病程度別葉数													
						0	1	2	3	4	5								
171) クワロシールド [®] 塩基性硫酸銅 26.9% (銅として14.8%)	1000倍希釈 300L/10a散布 スカッシュ2000倍希釈で加用	I	10	5	67	61	2	2	2	0	0	50.0	9.0	3.6					
		II	10	5	64	56	1	4	3	0	0	50.0	12.5	5.6					
		III	10	6	72	65	1	4	2	0	0	60.0	9.7	4.2					
		Ave.	10.0	5.3	67.7							53.3	10.4	4.5	35.7				
対) ICボルト [®] -66D 塩基性硫酸銅 28.1% (銅として3.7%)	100倍希釈 300L/10a散布 スカッシュ2000倍希釈で加用	I	10	1	83	82	0	0	1	0	0	10.0	1.2	0.7					
		II	10	3	52	45	1	3	3	0	0	30.0	13.5	6.2					
		III	10	3	54	49	1	3	1	0	0	30.0	9.3	3.7					
		Ave.	10.0	2.3	63.0							23.3	8.0	3.5	50.0				
無処理	—	I	10	5	55	49	0	0	2	4	0	50.0	10.9	8.0					
		II	10	8	63	52	2	8	1	0	0	80.0	17.5	6.7					
		III	10	8	91	80	2	4	3	1	1	80.0	12.1	6.2					
		Ave.	10.0	7.0	69.3							70.0	13.5	7.0	—				

対 象 病 害 虫 名・学 名 疫病 *Phytophthora colocalisae*

試験場名

鹿児島県農業開発総合センター

表 3 薬害調査結果

区	処理方法	反復	7月9日	7月17日	7月24日	7月30日	8月6日
			1回目散布7日後	2回目散布8日後	3回目散布7日後	4回目散布6日後	5回目散布6日後
			茎葉				
171) クロシールド	1000倍希釈	I	+	+	+	+	+
塩基性硫酸銅 26.9%	300L/10a散布	II	—	—	—	+	+
(銅として14.8%)	スキャッシュ2000倍希釈で加用	III	—	—	+	+	+
3反復平均							
lot. 38117		10株あたり総出葉数	70.7	85.0	94.0	110.3	63.0
対) ICボールドー66D	100倍希釈	I	—	—	+	+	+
塩基性硫酸銅 28.1%	300L/10a散布	II	+	+	+	+	+
(銅として3.7%)	スキャッシュ2000倍希釈で加用	III	—	—	—	+	+
3反復平均							
		10株あたり総出葉数	64.0	77.7	82.3	95.0	67.7
無処理	—	I	—	—	—	—	—
		II	—	—	—	—	—
		III	—	—	—	—	—
		3反復平均					
		10株あたり総出葉数	62.7	83.0	91.7	87.3	69.3

4. 考 察

サトイモ疫病の自然発生は認められず、6月29日および7月13日の2回、試験区内の緩衝株へサトイモ疫病菌を接種して発病を促した。7月9日に初発を確認したが、降雨量が少なかったことが影響し、疫病の病勢は非常に緩慢であった。5回目散布6日後（8月6日）には無処理の発病株率70.0%、発病葉率13.5%、発病度7.0の少発生条件下での試験となった。

このような条件下で、対照のIC ボルドー66D 100倍希釈散布区は、4回目散布6日後（7月30日）の防除価66.7、5回目散布6日後（8月6日）の防除価50.0とやや低い効果が認め、本試験において薬剤効果の判定は可能であると判断した。

効果の判定は、降水量も一因と考えられる落葉により、7月30日調査から8月6日調査にかけて各区の調査葉数が減少したことから、発病葉率および発病度が疫病の病勢進展以外の要因で増加したことを考慮し、7月30日（4回目散布6日後）および8月6日（5回目散布6日後）の発病度から算出した防除価を用いて評価した。

171) クプロシールド 1,000倍希釈散布 C C C ±

本剤の1,000倍希釈散布は、対照のIC ボルドー66D 100倍希釈散布と比較して、やや劣るが効果が認められた。無処理と比較して効果はやや低い認められ、効果はやや低い実用性はあると考えられる。

一方で、散布により銅剤特有の薬害が葉で認められた。薬害は1回目散布7日後（7月9日）から認められたが、3反復平均の10株あたり総出葉数は7月30日調査まで増加を認めていたことから、サトイモの生育には影響はなく、実用上問題はないと考えられた。



図 クプロシールドの散布による葉の薬害の写真（7月9日撮影，1回目散布7日後）

担当者氏名 濱島朗子

1. 試 験 目 的 防除効果及び被害の検討
2. 試 験 方 法 試験地場所 鹿児島県鹿児島市上福元町
- 対 象 病 害 虫 発 生 状 況 多発生(自然発生, 初発は7月22日)

耕種概要

品種:赤芽大吉 定植日:2024年6月7日 栽植距離:畝間110cm 株間30cm 1条植え 露地栽培 土性:砂壤土
試験期間中の防除薬剤:なし 施肥:鹿児島県のさといもの栽培基準に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1区 6.6 m² (1.1m×6m) 20株/区 3連制



3-Ⅲ	1-Ⅲ	2-Ⅱ		3-Ⅰ	1-Ⅰ
2-Ⅲ		3-Ⅱ	1-Ⅱ	2-Ⅰ	

1:クプロシールド, 2:ジーファイン水和剤, 3:無処理
Ⅰ, Ⅱ, Ⅲは連制を示す

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

- (処理年月日) 2024年7月25日, 8月2日, 8日の計3回
- (処理時の作物のステージ) 生育期(展開葉数6~9枚程度)
- (処理方法) 背負い式電動噴霧器(HG-KBS12L)を用いて, 200L/10aの割合で薬液が滴り落ちる程度を散布した。
- (処理前後の降雨影響) 1回目散布の7月25日の降雨は, 散布から6時間後の降雨であったため影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15
平均気温(℃)	31	30.7	31	30.9	30.7	31.1	31.1	31.5	31.2	31.6	31.5	31.4	31.2	31.3	30.9	31.3	31.1	30.6	31	30.8	30.2	30.1
降水量(mm)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.5	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0

観測地点:アメダス鹿児島 太枠内は散布日を示す

調査月日・方法

- (調査月日) 薬効試験:2024年8月8日(2回目散布6日後), 15日(3回目散布7日後)
- 薬害試験:2024年8月2日, 8日, 15日
- (調査方法) 各区両端を除く全株の展開葉を対象に以下に示す発病指数別に調査し, 発病葉率, 発病度を算出した。防除価は, 発病度の平均値から求めた。
- 発病指数 0:発病なし 1:直径5cm以下の病斑が1~2個 2:葉柄を含む葉全体の発病面積が5%以下 3:葉柄を含む葉全体の発病面積が6~25% 4:葉柄を含む葉全体の発病面積が26~50% 5:葉柄を含む葉全体の発病面積が50%以上, または枯死
- 発病度 = $\Sigma(\text{指数} \times \text{程度別発病葉数}) \times 100 / (\text{調査葉数} \times 5)$ 防除価 = $100 - \text{処理区の発病度} / \text{無処理区の発病度} \times 100$
- 薬害評価にあたっては, 薬効調査時に葉と葉柄を対象に薬害症状を以下の基準により調査した。
- 一:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++:重度の薬害症状を認める。

その他

3. 試験成績

供試薬剤	処理方法 ※	連制	調査 葉数	8/8(2回目散布6日後)								8/15(3回目散布7日後)								薬害			
				程度別発病葉数					発病 葉率	発病 度	調査 葉数	程度別発病葉数					発病 葉率	発病 度	防除 価	8/2	8/8	8/15	
				0	1	2	3	4				5	0	1	2	3							4
171)ケプロシールド 塩基性硫酸銅26.9%(銅として 14.8%)	1000倍 散布	I	161	142	15	2	2	0	0	11.8	3.1	164	121	11	9	9	4	10	26.2	14.9	+	+	+
		II	137	114	10	6	1	2	4	16.8	7.7	147	109	11	10	3	2	12	25.9	14.7	+	+	+
		III	133	99	15	7	4	3	5	25.6	11.7	164	122	20	9	2	1	10	25.6	12.0	+	+	+
		平均								18.1	7.5							25.9	13.8	52.1			
対)ジーファイン水和剤 炭酸水素ナトリウム46.0% 無水硫酸銅30.0%	1000倍 散布	I	128	109	13	4	2	0	0	14.8	4.2	149	117	11	5	4	3	9	21.5	12.1	+	+	+
		II	141	117	11	4	4	1	4	17.0	7.8	159	126	12	3	5	3	10	20.8	11.9	+	+	+
		III	156	149	6	1	0	0	0	4.5	1.0	152	118	13	9	4	3	5	22.4	10.5	+	+	+
		平均								12.1	4.3							21.5	11.5	60.1			
無処理	-	I	182	140	10	4	3	4	21	23.1	16.3	168	98	16	11	3	8	32	41.7	28.5			
		II	142	108	13	5	2	2	12	23.9	13.7	139	72	14	11	4	8	30	48.2	33.1			
		III	139	110	15	2	3	2	7	20.9	10.2	207	124	26	14	4	5	34	40.1	24.7			
		平均								22.6	13.4							43.3	28.8				

※散布日:2024年7月25日, 8月2日, 8日

4. 考察

3 回散布 7 日後には無処理区では発病葉率 43.3%, 発病度 28.8 と多発生条件下での試験となり, 対照のジーファイン水和剤では防除価 60.1 と一定の効果が認められていたため, 本試験による効果の判定は可能であると判断した。効果の判定は, 3 回目散布 7 日後の 8 月 15 日の発病度から算出した防除価で評価した。

171)ケプロシールド 1000 倍 BCC±

本剤の 1000 倍散布は, 対照薬剤のジーファイン水和剤と比較してほぼ同等の効果が認められ, 無処理区と比較して効果は認められるがその程度はやや低い。効果はやや低い実用性はあると考えられる。薬害は, 対照薬剤ともに葉の褐変が認められたが, いずれも軽微なもので実用上問題ないと考えられる。

対象病害虫名・学名 灰色かび病 *Botrytis cinerea*

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 宮崎試験場

担当者氏名 和田倉誠也、福元義人、吉村拓真

1. 試 験 目 的

2. 試 験 方 法 試験地場所 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 11913 日植防宮崎 場内圃場

対象病虫害発生状況 少発生(接種) 4月8日に初発を認めた。

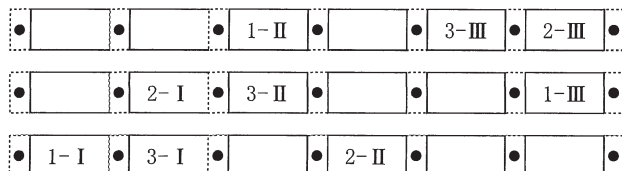
耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:江戸緑 播種:2024年1月15日 施設栽培 栽植距離:畝間160cm×株間15cm 2条播き 条間40cm

土性:壤土 施肥(/10a):くみあい有機入りペレット 888(8-8-8)25kg、CDU 複合燐加安特 S222(12-12-12)17kg

試験期間中の防除薬剤:なし その他一般管理は慣行に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4.6 m²(1.6m×2.85m) 38株 3連制



1:CAF-2001 SC

2:ロブルール水和剤(対照)

3:無処理

I、II、III:連制

空欄:他剤散布区

●:3/28に設置した伝染源

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024 年 3 月 27 日、4 月 4 日、11 日および 19 日の計 4 回

(作物のステージ) 初回散布時:開花終期～さや肥大期(草丈約 40cm)、最終散布時:子実肥大期

(処理方法) 背負式バッテリー動力噴霧機(MSB1510Li 丸山製作所)を用いて220L/10aの割合で散布した。

(処理前後の降雨影響) 施設のため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月 日	3/27	28	29	30	31	4/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
平均気温(℃)	23.2	17.3	25.5	24.7	24.0	26.9	23.0	23.2	22.8	18.7	18.3	20.8	20.2	24.7	23.6	19.5	22.8	23.0

月 日	4/14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	5/1
平均気温(℃)	25.3	21.1	23.5	25.0	24.0	23.3	20.6	23.3	23.6	23.1	25.3	24.2	21.1	21.6	25.3	23.4	27.4	22.6

観測地点: 日植防宮崎試験場内施設 太枠は散布日を示す

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:4月26日(最終散布7日後)、5月1日(最終散布12日後)

薬害試験:4月4日、11日、19日、26日、5月1日

(調査方法) 各区中央の 30 株について、下記の基準に従って発病指数別に調査し、発病株率および発病度を算出した。発病度の平均より無処理に対する防除係を求めた。

発病指数 0:病斑なし 1:莢を主体に株全体の25%未満が発病

2: 莢を主体に株全体の 25～50%未満が発病 3: 莢を主体に株全体の 50～75%未満が発病

4: 莢を主体にほぼ株全体が発病

$$\text{発病度} = \Sigma (\text{発病指数別株数} \times \text{発病指数}) \div (\text{調査株数} \times 4) \times 100$$
$$\text{防除価} = (1 - \text{処理区平均発病度} \div \text{無処理区平均発病度}) \times 100$$

薬害は茎葉および莢を対象に、肉眼により観察し薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

一：薬害を認めない +：軽微な薬害症状を認める ++：中程度の薬害症状を認める

+++：重度の薬害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

(接種) 3月28日(初回散布翌日)、場内他圃場より採取したナス罹病果を網袋に3個ずつ入れ、区境に設定した緩衝株の頭上に吊した。さらに4月20日(4回散布翌日)には、前出の罹病果を網袋に2個ずつ追加した。

3. 試 験 成 績

薬効調査(4月26日:最終散布7日後)

供試薬剤	処理方法	連制	調査株数	発病指数別株数					発病株率 (%)	発病度	防除価
				0	1	2	3	4			
5) CAF-2001SC 新規化合物 75g/L Lot.No. ENBK-176488-070	1000倍 散布	I	30	30	0	0	0	0	0	0	
		II	30	30	0	0	0	0	0	0	
		III	30	30	0	0	0	0	0	0	
		平均							0	0	100
対) ロブラル水和剤 イプロジオン 50.0%	1000倍 散布	I	30	27	3	0	0	0	10.0	2.5	
		II	30	27	3	0	0	0	10.0	2.5	
		III	30	30	0	0	0	0	0	0	
		平均							6.7	1.7	81.5
無処理		I	30	13	17	0	0	0	56.7	14.2	
		II	30	20	8	2	0	0	33.3	10.0	
		III	30	26	4	0	0	0	13.3	3.3	
		平均							34.4	9.2	

薬効調査(5月1日:最終散布12日後)、薬害調査

供試薬剤	処理方法	連制	調査株数	発病指数別株数					発病株率 (%)	発病度	防除価	薬害 ¹⁾
				0	1	2	3	4				
5) CAF-2001SC	1000倍 散布	I	30	30	0	0	0	0	0	0		—
		II	30	30	0	0	0	0	0	0		—
		III	30	30	0	0	0	0	0	0		—
		平均							0	0	100	
対) ロブラル水和剤	1000倍 散布	I	30	27	3	0	0	0	10.0	2.5		—
		II	30	26	4	0	0	0	13.3	3.3		—
		III	30	29	1	0	0	0	3.3	0.8		—
		平均							8.9	2.2	83.5	
無処理		I	30	12	15	3	0	0	60.0	17.5		
		II	30	16	10	4	0	0	46.7	15.0		
		III	30	21	9	0	0	0	30.0	7.5		
		平均							45.6	13.3		

¹⁾ 調査日:4/4,11,19,26,5/1

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

発生前から試験を開始した。初回散布後に接種を行い、初発を接種 11 日後の 4 月 8 日に葉で確認した。その後の病勢進展は緩慢であり、追加接種を行ったものの、最終散布 7 日後と 12 日後のいずれの調査も少発生にとどまった。対照薬剤のロブラル水和剤は高い防除効果が認められた。

防除効果の判定は最終散布 7 日後と 12 日後の両結果をもとにおこなった。

5) CAF-2001SC 1000 倍 散布 AAA-

本剤の 1000 倍散布は、対照薬剤のロブラル水和剤 1000 倍散布と比較し防除効果は優り、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと思われる。

薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 灰色かび病 *Botrytis cinerea*

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 宮崎試験場 担当者氏名 和田倉誠也、福元義人、吉村拓真

1. 試験目的 薬効および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 11913 日植防宮崎 場内圃場

対象病害虫発生状況 少発生(接種) 4月8日に初発を認めた。

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:江戸緑 播種:2024年1月15日 施設栽培 栽植距離:畝間160cm×株間15cm 2条播き 条間40cm

土性:壤土 施肥(/10a):くみあい有機入りペレット888(8-8-8)25kg、CDU 複合燐加安特 S222(12-12-12)17kg

試験期間中の防除薬剤:なし その他一般管理は慣行に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4.6 m²(1.6m×2.85m) 38株 3連制

●	1-I	●	3-I	●		●	2-II	●	5-III	●	4-III	●
●	2-I	●	4-I	●	5-II	●	3-II	●	1-III	●		●
●		●	5-I	●	1-II	●	4-II	●	3-III	●	2-III	●

1:ナディーボフロアブル×1500
2:ナディーボフロアブル×1000 I、II、III:連制
3:ミラビスフロアブル 空欄:他剤散布区
4:ロブテール水和剤(対照) ●:3/28に設置した伝染源
5:無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024年3月27日、4月4日、11日および19日の計4回

(作物のステージ) 初回散布時:開花終期～さや肥大期(草丈約40cm)、最終散布時:子実肥大期

(処理方法) 背負式バッテリー動力噴霧機(MSB1510Li 丸山製作所)を用いて220L/10aの割合で散布した。

(処理前後の降雨影響) 施設のため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	3/27	28	29	30	31	4/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
平均気温(℃)	23.2	17.3	25.5	24.7	24.0	26.9	23.0	23.2	22.8	18.7	18.3	20.8	20.2	24.7	23.6	19.5	22.8	23.0

月日	4/14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	5/1
平均気温(℃)	25.3	21.1	23.5	25.0	24.0	23.3	20.6	23.3	23.6	23.1	25.3	24.2	21.1	21.6	25.3	23.4	27.4	22.6

観測地点:日植防宮崎試験場内施設 太枠は散布日を示す

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:4月26日(最終散布7日後)、5月1日(最終散布12日後)

薬害試験:4月4日、11日、19日、26日、5月1日

(調査方法) 各区中央の30株について、下記の基準に従って発病指数別に調査し、発病株率および発病度を算出した。発病度の平均より無処理に対する防除価を求めた。

発病指数 0:病斑なし 1:莢を主体に株全体の25%未満が発病
2:莢を主体に株全体の25～50%未満が発病 3:莢を主体に株全体の50～75%未満が発病
4:莢を主体にほぼ株全体が発病
発病度 = $\Sigma(\text{発病指数別株数} \times \text{発病指数}) \div (\text{調査株数} \times 4) \times 100$
防除価 = $(1 - \text{処理区平均発病度} \div \text{無処理区平均発病度}) \times 100$

薬害は茎葉および莢を対象に、肉眼により観察し薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

一:薬害を認めない 十:軽微な薬害症状を認める 十十:中程度の薬害症状を認める
十十十:重度の薬害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

(接種) 3月28日(初回散布翌日)、場内他圃場より採取したナス罹病果を網袋に3個ずつ入れ、区境に設定した緩衝株の頭上に吊した。さらに4月20日(4回散布翌日)には、前出の罹病果を網袋に2個ずつ追加した。

3. 試 験 成 績

薬効調査(4月26日:最終散布7日後)

供試薬剤	処理方法	連制	調査株数	発病指数別株数					発病株率 (%)	発病度	防除価
				0	1	2	3	4			
130) ナディーボフロアブル デフ'コナゾール 18.2% トリフロキシストロビン 8.8% Lot.No. PD21B00002 003223	1500倍 散布	I	30	30	0	0	0	0	0	0	
		II	30	30	0	0	0	0	0	0	
		III	30	29	1	0	0	0	3.3	0.8	
		平均	30.0						1.1	0.3	96.7
	1000倍 散布	I	30	30	0	0	0	0	0	0	
		II	30	30	0	0	0	0	0	0	
		III	30	30	0	0	0	0	0	0	
		平均							0	0	100
175) ミラビスフロアブル ビシフルトフェン 18.3% Lot.No. A1L13	2000倍 散布	I	30	30	0	0	0	0	0	0	
		II	30	24	5	1	0	0	20.0	5.8	
		III	30	22	8	0	0	0	26.7	6.7	
		平均							15.6	4.2	54.3
	1000倍 散布	I	30	27	3	0	0	0	10.0	2.5	
		II	30	27	3	0	0	0	10.0	2.5	
		III	30	30	0	0	0	0	0	0	
		平均							6.7	1.7	81.5
無処理		I	30	13	17	0	0	0	56.7	14.2	
		II	30	20	8	2	0	0	33.3	10.0	
		III	30	26	4	0	0	0	13.3	3.3	
		平均							34.4	9.2	

薬効調査(5月1日:最終散布12日後)、薬害調査

供試薬剤	処理方法	連制	調査株数	発病指数別株数					発病株率 (%)	発病度	防除価	薬害 ¹⁾
				0	1	2	3	4				
130) ナディーボフロアブル	1500倍 散布	I	30	30	0	0	0	0	0	0		—
		II	30	29	1	0	0	0	3.3	0.8		—
		III	30	29	1	0	0	0	3.3	0.8		—
		平均							2.2	0.5	96.2	
	1000倍 散布	I	30	30	0	0	0	0	0	0		—
		II	30	30	0	0	0	0	0	0		—
		III	30	29	1	0	0	0	3.3	0.8		—
		平均							1.1	0.3	97.7	
175) ミラビスフロアブル	2000倍 散布	I	30	30	0	0	0	0	0	0		—
		II	30	22	6	2	0	0	26.7	8.3		—
		III	30	20	10	0	0	0	33.3	8.3		—
		平均							20.0	5.5	58.6	
	1000倍 散布	I	30	27	3	0	0	0	10.0	2.5		—
		II	30	26	4	0	0	0	13.3	3.3		—
		III	30	29	1	0	0	0	3.3	0.8		—
		平均							8.9	2.2	83.5	
無処理		I	30	12	15	3	0	0	60.0	17.5		
		II	30	16	10	4	0	0	46.7	15.0		
		III	30	21	9	0	0	0	30.0	7.5		
		平均							45.6	13.3		

¹⁾ 調査日:4/4,11,19,26,5/1

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

発生前から試験を開始した。初回散布後に接種を行い、初発を接種 11 日後の 4 月 8 日に葉で確認した。その後の病勢進展は緩慢であり、追加接種を行ったものの、最終散布 7 日後と 12 日後のいずれの調査も少発生にとどまった。対照薬剤のロブラール水和剤は高い防除効果が認められた。

防除効果の判定は最終散布 7 日後と 12 日後の両結果をもとにおこなった。

130) ナティーボフロアブル 1500 倍 散布 AAA－、1000 倍 散布 AAA－

本剤の 1500 倍散布および 1000 倍散布は、対照薬剤のロブラール水和剤 1000 倍散布と比較し防除効果は優り、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと思われる。

薬害は認められなかった。

175) ミラビスフロアブル 2000 倍 散布 DCC－

本剤の 2000 倍散布は、対照薬剤のロブラール水和剤 1000 倍散布と比較し防除効果は劣り、無処理と比較して防除効果が認められたもののその程度はやや低かった。防除効果はやや低い実用性はあると思われる。

薬害は認められなかった。

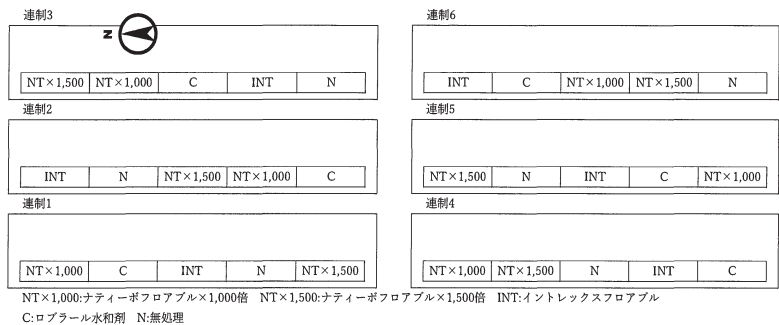
対象病害虫名 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*
試験場名 株式会社Field Styled Lab.

担当者氏名 柿元一樹・濱島朗子

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討
2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県鹿児島市五ヶ別府町社内圃場
対象病害虫発生状況 中発生 2024 年 4 月 10 日に初発を認めた。
耕種概要

品種:フクユタカ 播種日:2024 年 2 月 21 日 栽植距離:畝間 100cm 株間 15cm 1 条植え 施設加温栽培(夜温 15℃)
土性:普通アロフェン黒ボク土 試験期間中の防除薬剤:なし 施肥:なし

区制・面積・試験区の構成 1 区 3 m² (1m×3m) 20 株/区 6 連制

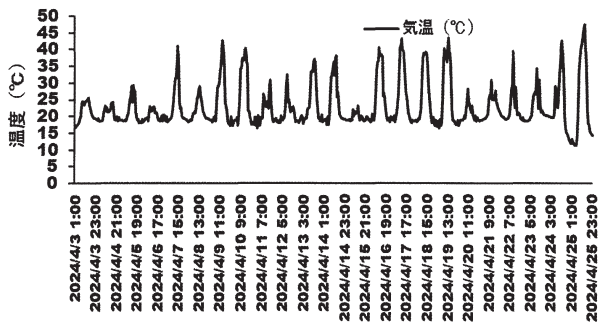


処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

- (処理年月日) 2024 年 4 月 3 日, 4 月 10 日, 4 月 17 日 (3 回)
(処理時の作物のステージ) 開花期(草丈約 40cm)
(処理方法) 試験薬剤および対照薬剤の処理にあたっては, 所定濃度に希釈した薬液を背負い式動力噴霧器により約 93L/10a 相当散布した。
(処理前後の降雨影響) 施設栽培のため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

データロガー計測値;期間中平均 22.9℃



観測地点:試験施設内

調査月日・方法

- (調査月日) 2024 年 4 月 10 日(処理開始 7 日後;2 回目処理前), 4 月 17 日(処理開始 14 日後;最終処理前), 4 月 24 日(処理開始 21 日後;最終処理 7 日後)
(調査方法) 各区全株について, 株全体を観察し下記の基準に基づいて被害程度別の株数を計数した。併せて, 各株の任意の 5 莢について, 被害莢数を計数した。
発病指数
「0」:被害なし, 「1」:莢を主体に株全体の 25%未満が発病, 「2」:莢を主体に株全体の 25%~50%未満が発病,
「3」:莢を主体に株全体の 50%~75%未満が発病, 「4」:莢を主体にほぼ株全体が発病

対象病害虫名 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

試験場名 株式会社Field Styled Lab.

発病度の算出は下記に従った。

$$\text{発病度} = \Sigma (1 \times \text{「1」の株数} + 2 \times \text{「2」の株数} + 3 \times \text{「3」の株数} + 4 \times \text{「4」の株数}) / (4 \times \text{調査株数}) \times 100$$

薬害評価にあたっては、薬効調査時に茎葉、花および莢の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

－:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

3. 試 験 成 績

だいずの菌核病発病程度

		調査項目、処理月日、処理後経過日数※																				薬害													
供試薬剤	処理濃度 処理方法	連制	4月10日								4月17日								4月24日								4月10日								
			処理開始7日：2回目処理前								初回処理14日後：最終処理前								初回処理21日後：最終処理7日後								4月17日								
			調査				発病指数別株数↑				発病				発病度				調査				発病指数別株数↑				発病				発病度				4月24日
			株数	0	1	2	3	4	株率(%)	発病度	株数	0	1	2	3	4	株率(%)	発病度	株数	0	1	2	3	4	株率(%)	発病度									
29) イントレックスフロアブル フルキサピロキサド18.3%	2,000倍 7日間隔3回 散布	1	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		2	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		3	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		4	20	20	0	0	0	0	0	0	20	19	1	0	0	0	0	5.0	1.3	20	17	3	0	0	0	15.0	3.8	－							
		5	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		6	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		平均	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0.8	0.2	20	20	0.5	0	0	0	2.5	0.6								
防除値																				91.4															
190) ナティーボフロアブル テブコナゾール18.2% トリフロキシストロビン8.8% Lot. PD24B00001 006636	1,000倍 7日間隔3回 散布	1	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	19	1	0	0	0	5.0	1.3	－								
		2	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		3	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		4	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		5	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		6	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		平均	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0.2	0	0	0	0.8	0.2									
防除値																				91.1															
190) ナティーボフロアブル テブコナゾール18.2% トリフロキシストロビン8.8% Lot. PD24B00001 006636	1,500倍 7日間隔3回 散布	1	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		2	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		3	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	17	3	0	0	0	15.0	3.8	－								
		4	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		5	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		6	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		平均	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0.5	0	0	0	2.5	0.6									
防除値																				91.4															
対) ロブラルール水和剤 イプロジオン50.0% Lot. PD20H00004	1,000倍 7日間隔3回 散布	1	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		2	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		3	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		4	20	20	0	0	0	0	0	0	20	19	1	0	0	0	0	5.0	1.3	20	17	3	0	0	0	15.0	3.8	－							
		5	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		6	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	－								
		平均	20	20	0	0	0	0	0	0	20	20	0.2	0	0	0	0	0.8	0.2	20	20	0.5	0.0	0	0	2.5	0.6								
防除値																				91.4															
無処理	－	1	20	20	0	0	0	0	0	0	20	17	3	0	0	0	15.0	3.8	20	17	0	3	0	0	15.0	7.5									
		2	20	20	0	0	0	0	0	0	20	17	3	0	0	0	15.0	3.8	20	15	4	1	0	0	25.0	7.5									
		3	20	19	0	1	0	0	5.0	2.5	20	16	3	1	0	0	20.0	6.3	20	15	4	0	1	0	25.0	8.8									
		4	20	20	0	0	0	0	0	0	20	18	2	0	0	0	10.0	2.5	20	17	3	0	0	0	15.0	3.8									
		5	20	20	0	0	0	0	0	0	20	17	3	0	0	0	15.0	3.8	20	15	5	0	0	0	25.0	6.3									
		6	20	19	0	1	0	0	5.0	2.5	20	15	4	1	0	0	25.0	7.5	20	15	3	1	1	0	25.0	10.0									
		平均	20	20	0.0	0	0	0	1.7	0.8	20	17	3.0	0.3	0	0	16.7	4.6	20	16	3.2	0.8	0.3	0	21.7	7.3									
防除値																				91.4															

※薬剤処理日：4月3日，4月10日，4月17日

†発病程度指数 「0」：被害なし，「1」：莢を主体に発病は株全体の25%未満，「2」：莢を主体に発病は株全体の25～50%未満，「3」：莢を主体に発病は株全体の50～75%未満，「4」：莢を主体に発病はほぼ株全体

対象病害虫名 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

試験場名 株式会社Field Styled Lab.

4. 考察

だいずの菌核病に対する試験薬剤の効果は、最終(3回目)処理7日後における発病度から算出した防除価に基づいて判定した。発病は試験開始14日後から進展し、評価時には中程度のレベルであったと考えられる。

29) イントレックスフロアブル 2,000 倍希釈液 7日間隔3回散布 BAA-

本剤;2,000 倍希釈液の7日間隔3回散布の効果は、対照薬剤であるロブラール水和剤;1,000 倍希釈液の7日間隔3回散布の効果と同等であり、無処理区と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。なお、薬害は認められなかった。

190) ナティーボフロアブル 1,000 倍希釈液 7日間隔3回散布 BAA-

本剤;1,000 倍希釈液の7日間隔3回散布の効果は、対照薬剤であるロブラール水和剤;1,000 倍希釈液の7日間隔3回散布の効果と同等であり、無処理区と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。なお、薬害は認められなかった。

190) ナティーボフロアブル 1,500 倍希釈液 7日間隔3回散布 BAA-

本剤;1,500 倍希釈液の7日間隔3回散布の効果は、対照薬剤であるロブラール水和剤;1,000 倍希釈液の7日間隔3回散布の効果と同等であり、無処理区と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。なお、薬害は認められなかった。

対象病害虫名 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

試験場名 株式会社Field Styled Lab.

参考；だいずの菌核病被害英率

調査項目, 処理月日, 処理後経過日数※									薬害
供試薬剤	処理濃度 処理方法	連制	4月17日			4月24日			4/10
			初回処理14日後；最終処理前			初回処理14日後；最終処理7日後			4/17
			調査	被害	発病	調査	被害	発病	4/24
			英数	英数	英率(%)	英数	英数	英率(%)	
29) イントレックスフロアブル フルキサビロキサド18.3%	2,000倍	1	100	0	0	200	0	0	—
	7日間隔3回	2	100	0	0	200	0	0	—
	散布	3	100	0	0	200	0	0	—
		4	100	1	1.0	200	3	1.5	—
		5	100	0	0	200	0	0	—
		6	100	0	0	200	0	0	—
		平均	100	0.2	0.2	200	0.5	0.3	
防除価			93.6						
190) ナティーボフロアブル テブコナゾール18.2% トリフロキシストロビン8.8% Lot. PD24B00001 006636	1,000倍	1	100	0	0	200	1	0.5	—
	7日間隔3回	2	100	0	0	200	0	0	—
	散布	3	100	0	0	200	0	0	—
		4	100	0	0	200	0	0	—
		5	100	0	0	200	0	0	—
		6	100	0	0	200	0	0	—
		平均	100	0	0	200	0.2	0.1	
防除価			97.9						
190) ナティーボフロアブル テブコナゾール18.2% トリフロキシストロビン8.8% Lot. PD24B00001 006636	1,500倍	1	100	0	0	200	0	0	—
	7日間隔3回	2	100	0	0	200	0	0	—
	散布	3	100	0	0	200	3	1.5	—
		4	100	0	0	200	0	0	—
		5	100	0	0	200	0	0	—
		6	100	0	0	200	0	0	—
		平均	100	0	0	200	0.5	0.3	
防除価			93.6						
対) ロブラール水和剤 イプロジオン50.0% Lot. PD20H00004	1,000倍	1	100	0	0	200	0	0	—
	7日間隔3回	2	100	0	0	200	0	0	—
	散布	3	100	1	1.0	200	0	0	—
		4	100	0	0	200	3	1.5	—
		5	100	0	0	200	0	0	—
		6	100	0	0	200	0	0	—
		平均	100	0.2	0.2	200	0.5	0.3	
防除価			93.6						
無処理	—	1	100	3	3.0	200	9	4.5	—
		2	100	4	4.0	200	6	3.0	—
		3	100	6	6.0	200	10	5.0	—
		4	100	2	2.0	200	6	3.0	—
		5	100	3	3.0	200	13	6.5	—
		6	100	9	9.0	200	12	6.0	—
	平均	100	4.5	4.5	200	9.3	4.7		
防除価									

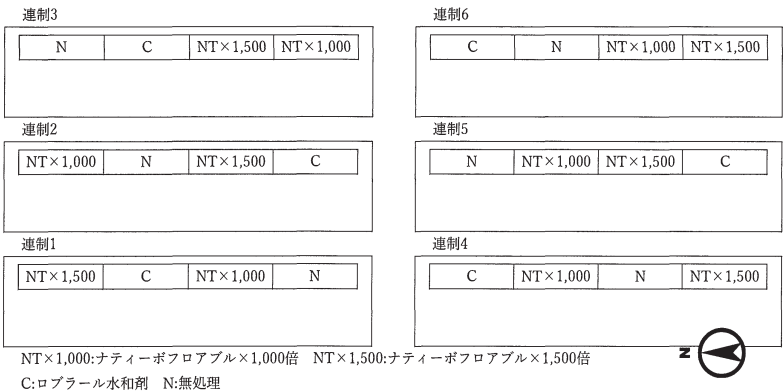
担当者氏名 柿元一樹・濱島朗子

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討
2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県鹿児島市五ヶ別府町社内圃場
- 対象病害虫発生状況 中発生 2024 年 4 月 10 日に初発を認めた。

耕種概要

品種:秋小豆 播種日:2024 年 2 月 21 日 栽植距離:畝間 100cm 株間 20cm 1 条植え 施設加温栽培(夜温 15℃)
土性:普通アロフエン黒ボク土 試験期間中の防除薬剤:なし 施肥:なし

区制・面積・試験区の構成 1 区 3.4 m² (1m×3.4m) 17 株/区 6 連制

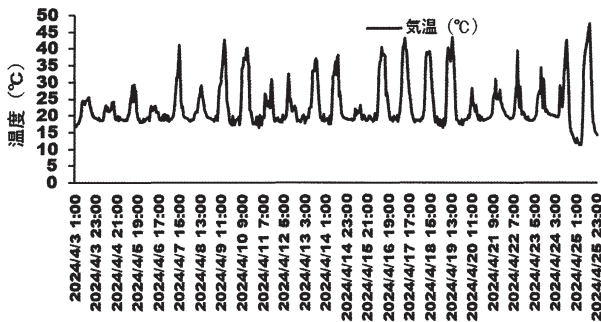


処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024 年 4 月 3 日, 4 月 10 日, 4 月 17 日 (3 回)
(処理時の作物のステージ) 開花期(草丈約 50cm)
(処理方法) 試験薬剤および対照薬剤の処理にあたっては, 所定濃度に希釈した薬液を背負い式動力噴霧器により約 110L/10a 相当散布した。
(処理前後の降雨影響) 施設栽培のため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

データロガー計測値;期間中平均 22.9℃



観測地点:試験施設内

対象病害虫名 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

試験場名 株式会社Field Styled Lab.

調査月日・方法

(調査月日) 2024 年 4 月 10 日 (処理開始 7 日後; 2 回目処理前), 4 月 17 日 (処理開始 14 日後; 最終処理前), 4 月 24 日 (処理開始 21 日後; 最終処理 7 日後)

(調査方法) 各区全株について, 株全体を観察し下記の基準に基づいて被害程度別の株数を計数した。併せて, 各株の任意の 5 莢について, 被害莢数を計数した。

発病指数

「0」:被害なし, 「1」:莢を主体に株全体の 25%未満が発病, 「2」:莢を主体に株全体の 25%~50%未満が発病,

「3」:莢を主体に株全体の 50%~75%未満が発病, 「4」:莢を主体にほぼ株全体が発病

発病度の算出は下記に従った。

発病度 = $\Sigma (1 \times \text{「1」の株数} + 2 \times \text{「2」の株数} + 3 \times \text{「3」の株数} + 4 \times \text{「4」の株数}) / (4 \times \text{調査株数}) \times 100$

薬害評価にあたっては, 薬効調査時に茎葉, 花および莢の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

ー:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

3. 試 験 成 績

あずきの菌核病発病程度

供試薬剤	処理濃度 処理方法	連制	調査項目, 処理月日, 処理後経過日数※																								薬害 4月10日 4月17日 4月24日
			4月10日								4月17日								4月24日								
			処理開始7日：2回目処理前								初回処理14日後：最終処理前								初回処理21日後：最終処理7日後								
			調査				発病指数別株数↑				調査				発病指数別株数↑				調査				発病指数別株数↑				
			株数	0	1	2	3	4	発病率(%)	発病度	株数	0	1	2	3	4	発病率(%)	発病度	株数	0	1	2	3	4	発病率(%)	発病度	
190) ナティーボフロアブル テブコナゾール18.2% トリフロキシストロビン8.8% Lot. PD24B00001 006636	1,000倍 7日間隔3回 散布	1	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	16	1	0	0	0	5.9	1.5	－
		2	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	15	2	0	0	0	11.8	2.9	－
		3	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	15	2	0	0	0	11.8	2.9	－
		4	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	－
		5	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	－
		6	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	－
		平均	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	16	0.8	0	0	0	4.9	1.2	
防除値																								90.6			
190) ナティーボフロアブル テブコナゾール18.2% トリフロキシストロビン8.8% Lot. PD24B00001 006636	1,500倍 7日間隔3回 散布	1	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	13	4	0	0	0	23.5	5.9	－
		2	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	14	3	0	0	0	17.6	4.4	－
		3	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	14	3	0	0	0	17.6	4.4	－
		4	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	16	1	0	0	0	5.9	1.5	－
		5	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	－
		6	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	－
		平均	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	15	1.8	0	0	0	10.8	2.7	
防除値																								79.2			
対) ロブラール水和剤 イプロジオン50.0% Lot. PD20H00004	1,000倍 7日間隔3回 散布	1	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	15	2	0	0	0	11.8	2.9	－
		2	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	－
		3	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	15	2	0	0	0	11.8	2.9	－
		4	17	17	0	0	0	0	0	0	17	16	1	0	0	0	5.9	1.5	17	14	2	1	0	0	17.6	5.9	－
		5	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	－
		6	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0	0	0	0	0	0	－
		平均	17	17	0	0	0	0	0	0	17	17	0.2	0	0	0	1.0	0.25	17	16	1.0	0.2	0	0	6.9	2.0	
防除値																								84.9			
無処理	－	1	17	17	0	0	0	0	0	0	17	16	1	0	0	0	5.9	1.5	17	10	5	2	0	0	41.2	13.2	
		2	17	15	2	0	0	0	11.8	2.9	17	15	2	0	0	0	11.8	2.9	17	8	4	5	0	0	52.9	20.6	
		3	17	17	0	0	0	0	0	0	17	14	2	1	0	0	17.6	5.9	17	10	2	4	1	0	41.2	19.1	
		4	17	17	0	0	0	0	0	0	17	16	1	0	0	0	5.9	1.5	17	14	2	1	0	0	17.6	5.9	
		5	17	17	0	0	0	0	0	0	17	15	2	0	0	0	11.8	2.9	17	12	4	1	0	0	29.4	8.8	
		6	17	17	0	0	0	0	0	0	17	16	0	1	0	0	5.9	2.9	17	12	4	0	1	0	29.4	10.3	
		平均	17	17	0.3	0	0	0	2.0	0.5	17	15	1.3	0.3	0	0	9.8	2.9	17	11	3.5	2.2	0.3	0	35.3	13.0	
防除値																											

※薬剤処理日: 4月3日, 4月10日, 4月17日

† 発病程度指数 「0」:被害なし, 「1」:莢を主体に発病は株全体の25%未満, 「2」:莢を主体に発病は株全体の

25%~50%未満, 「3」:莢を主体に発病は株全体の50%~75%未満, 「4」:莢を主体に発病はほぼ株全体

対象病害虫名 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

試験場名 株式会社Field Styled Lab.

4. 考察

あずきの菌核病に対する試験薬剤の効果は、最終(3回目)処理7日後における発病度から算出した防除価に基づいて判定した。発病は試験開始14日後から進展し、評価時には中程度のレベルであったと考えられる。

190) ナティーボフロアブル 1,000 倍希釈液 7 日間隔 3 回散布 AAA-

本剤;1,000 倍希釈液の 7 日間隔 3 回散布の効果は、対照薬剤であるロブラール水和剤;1,000 倍希釈液の 7 日間隔 3 回散布の効果より優れ、無処理区と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。なお、薬害は認められなかった。

190) ナティーボフロアブル 1,500 倍希釈液 7 日間隔 3 回散布 BBB-

本剤;1,500 倍希釈液の 7 日間隔 3 回散布の効果は、対照薬剤であるロブラール水和剤;1,000 倍希釈液の 7 日間隔 3 回散布の効果とほぼ同等で、無処理区と比較して効果はあった。実用性はあると考えられる。なお、薬害は認められなかった。

参考：あずきの菌核病被害率

供試薬剤	処理濃度 処理方法	連制	調査項目、処理月日、処理後経過日数※						薬害
			4月17日			4月24日			4月10日
			初回処理14日後；最終処理前			初回処理14日後；最終処理7日後			4月17日
			調査 莢数	被害 莢数	発病 莢率(%)	調査 莢数	被害 莢数	発病 莢率(%)	4月24日
190) ナティーボフロアブル	1,000倍	1	170	0	0	170	2	1.2	－
テブコナゾール18.2%	7日間隔3回	2	170	0	0	170	2	1.2	－
トリフロキシストロビン8.8%	散布	3	170	0	0	170	0	0	－
Lot.		4	170	0	0	170	0	0	－
PD24B00001 006636		5	170	0	0	170	0	0	－
		6	170	0	0	170	0	0	－
		平均	170	0	0	170	0.7	0.4	
		防除価						96.0	
190) ナティーボフロアブル	1,500倍	1	170	0	0	170	5	2.9	－
テブコナゾール18.2%	7日間隔3回	2	170	0	0	170	3	1.8	－
トリフロキシストロビン8.8%	散布	3	170	0	0	170	3	1.8	－
Lot.		4	170	0	0	170	1	0.6	－
PD24B00001 006636		5	170	0	0	170	0	0	－
		6	170	0	0	170	0	0	－
		平均	170	0	0	170	2.0	1.2	
		防除価						87.9	
対) ロブラール水和剤	1,000倍	1	170	0	0	170	3	1.8	－
イプロジオン50.0%	7日間隔3回	2	170	0	0	170	0	0	－
Lot.	散布	3	170	0	0	170	1	0.6	－
PD20H00004		4	170	2	1.2	170	10	5.9	－
		5	170	0	0	170	0	0	－
		6	170	0	0	170	0	0	－
		平均	170	0.3	0.2	170	2.3	1.4	
		防除価						85.9	
無処理	－	1	170	2	1.2	170	15	8.8	－
		2	170	3	1.8	170	9	5.3	－
		3	170	5	2.9	170	20	11.8	－
		4	170	2	1.2	170	6	3.5	－
		5	170	2	1.2	170	7	4.1	－
		6	170	4	2.4	170	42	24.7	－
		平均	170	3.0	1.8	170	16.5	9.7	
		防除価							

対象病害虫名・学名 灰色かび病 *Botrytis cinerea*

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 宮崎試験場 担当者氏名 和田倉誠也、福元義人、吉村拓真

1. 試験目的 薬効および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 11913 日植防宮崎 場内圃場

対象病害虫発生状況 中発生 4月8日に初発を認めた。

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:新江戸川 播種:2024年2月22日 1穴3粒播き 施設栽培 栽植距離:畝間160cm×株間25cm 2条播き
条間40cm 土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:なし 施肥、その他一般管理は慣行に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4.4 m² (1.6m×2.75m) 22株 3連制

1-I	3-II	2-III	1:ナティーボフロアブル 2:セイビアーフロアブル20(対照) 3:無処理 I、II、IIIは連制を示す
2-I	1-II	3-III	
3-I	2-II	1-III	

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024年4月2日、9日および16日の計3回
(作物のステージ) 初回散布時:開花初期(草丈約70cm)
(処理方法) 背負式バッテリー動力噴霧機(MSB1510Li 丸山製作所)を用いて250L/10aの割合で散布した。
(処理前後の降雨影響) 施設のため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	4/2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均気温(℃)	23.0	23.2	22.8	18.7	18.3	20.8	20.2	24.7	23.6	19.5	22.8
月日	4/13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
平均気温(℃)	23.0	25.3	21.1	23.5	25.0	24.0	23.3	20.6	23.3	23.6	23.1

観測地点:日植防宮崎試験場内施設 太枠は散布日を示す

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:4月23日(最終散布7日後)
薬害試験:4月9日、16日、23日
(調査方法) 各区全株について、発病の有無を調査し発病株率を算出した。また、出芽した全茎について下記の基準に従って発病指数別に調査し、発病茎率および発病度を算出した。発病度の平均より無処理に対する防除価を求めた。

発病指数 0:病斑なし 1:莢を主体に茎全体の25%未満が発病
2:莢を主体に茎全体の25~50%未満が発病 3:莢を主体に茎全体の50~75%未満が発病
4:莢を主体にほぼ茎全体が発病
発病度 = Σ(発病指数別茎数×発病指数)÷(調査茎数×4)×100
防除価 = (1-処理区平均発病度÷無処理区平均発病度)×100

薬害は茎葉および莢を対象に、肉眼により観察し薬害症状の有無を以下の内容で評価した。
-:薬害を認めない +:軽微な薬害症状を認める ++:中程度の薬害症状を認める
+++ :重度の薬害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3. 試 験 成 績

薬効薬害調査

供試薬剤	処理方法	連制	調査 株数	発病 株数	発病株 率(%)	調査 茎数 ¹⁾	発病指数別茎数					発病茎 率(%)	発病度	防除価	薬害 ²⁾
							0	1	2	3	4				
190) ナティーボフロアブル テブコナゾール 18.2% トリフロキシストロビン 8.8% Lot.No. PD21B00002 003223	1500倍 散布	I	22	8	36.4	65	54	11	0	0	0	16.9	4.2		—
		II	22	9	40.9	66	56	10	0	0	0	15.2	3.8		—
		III	22	3	13.6	65	62	3	0	0	0	4.6	1.2		—
		平均	22.0		30.3	65.3						12.2	3.1	85.8	
対) セイビアーフロアブル20 フルジ・オキシニル 20.0%	1500倍 散布	I	22	7	31.8	61	49	12	0	0	0	19.7	4.9		—
		II	22	7	31.8	65	57	8	0	0	0	12.3	3.1		—
		III	21 ³⁾	3	14.3	62	59	3	0	0	0	4.8	1.2		—
		平均	21.7		26.0	62.7						12.3	3.1	85.8	
無処理		I	22	20	90.9	64	21	33	9	1	0	67.2	21.1		
		II	22	22	100	65	5	48	12	0	0	92.3	27.7		
		III	22	18	81.8	64	25	35	4	0	0	60.9	16.8		
		平均	22.0		90.9	64.3						73.5	21.9		

¹⁾ 1株当たり茎数は2～3茎であったため、調査茎数にばらつきがある。²⁾ 調査日: 4/9, 16, 23³⁾ 出芽不良により欠株が生じた。

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

自然発生で試験を実施した。初発を4月8日(初回散布6日後)に葉で確認した。その後は茎葉、莢で発病が広がり、調査時には無処理区において中発生となった。対照薬剤のセイビアーフロアブル20は高い防除効果が認められた。

190) ナティーボフロアブル 1500倍 散布 BAAー

本剤の1500倍散布は、対照薬剤のセイビアーフロアブル20 1500倍散布と比較し防除効果はほぼ同等、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと思われる。

薬害は認められなかった。

対象病虫害名・学名 うどんこ病 *Oidium* 属菌

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

担当者氏名 本田 傑

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県南さつま市金峰町大野 2200 農業開発総合センター場内露地畑

対象病虫害発生状況 中発生（自然発生、10月19日初発確認）

耕種概要

品種：まめこぞう，播種：2023 年 9 月 14 日，栽植距離：畝間 150cm×株間 17cm，施肥：オール 14（N：P：K=14:14:14）120kg/10a，苦土重焼燐 120kg/10a，土壤消毒：なし，土性：淡色アロフェン質黒ボク土，その他の一般管理は慣行に従った。試験期間中のその他防除薬剤：トルネードエース DF 2,000 倍希釈 300L/10a 10 月 26 日散布

区制・面積 1区 8.16 m² (5.44m×1.5m)、32株、3反復

株間17cm×32株

保間17cm×52保								
無処理 III			試 II			対 I		1.5m
対 III			無処理 II			試 I		1.5m
試 III			対 II			無処理 I		1.5m
0.34m	5.44m	0.34m	0.34m	5.44m	0.34m	0.34m	5.44m	0.34m

試: KIF-28FL 500 倍希釈, 対: ハーモメイト水和剤 800 倍希釈, 無処理

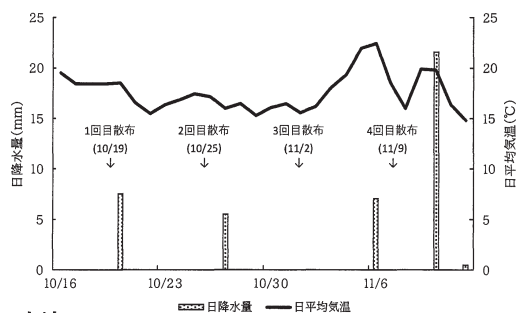
I, II, IIIは反復を示す。

処理年月日, 量, 方法, 処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2023 年 10 月 19 日、25 日、11 月 2 日、9 日 (計 4 回)

(処理方法) 所定濃度の各薬剤を 2 回目散布までは 200L/10a、3 回目散布以降は 300L/10a 相当量を背負い式電動噴霧器により散布した。なお、対照薬剤のハーモメイト水和剤のみ展着剤「クミテン」を 3,300 倍希釈になるように加用して散布した。

(処理前後の降雨) 薬剤散布日に降雨はなく、影響はなかったと考えられる。



観測地点: 鹿児島県加世田アメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 薬効調査：2023 年 10 月 19 日（1 回目散布前）、25 日（1 回目散布 6 日後、2 回目散布前）、
11 月 1 日（2 回目散布 7 日後、3 回目散布前日）、9 日（3 回目散布 7 日後、4 回目散布前）、
15 日（4 回目散布 6 日後）（計 5 回）

葉害調査：2023年10月25日（1回目散布6日後）、11月1日（2回目散布7日後）、
9日（3回目散布7日後）、15日（4回目散布6日後）（計4回）

(調査方法) 葉効調査: 各区任意の上位葉 100 葉 (最終調査では 120 葉) を発病指数別に調査し、発病葉率、発病度を算出した。なお、100 葉に満たない場合には全葉調査を行った。防除価は 11 月 15 日調査の発病度を用いて算出した。

発病指数 0:発病を認めない 1:病斑面積率が葉面積の5%未満 2:病斑面積率が葉面積の5～25%未満
3:病斑面積率が葉面積の25～50%未満 4:病斑面積率が葉面積の50%以上

$$\text{発病度} = \{ \Sigma (\text{各発病指数} \times \text{発病程度別葉数}) / (\text{調査葉数} \times 4) \} \times 100$$
$$\text{防除価} = 100 \times \{ 1 - (\text{処理区での発病度} / \text{無処理区での発病度}) \}$$

薬害調査：茅葉について調査時に肉眼観察し、症状の有無を以下の内容で調査した。

一:薬害症状を認めない +:軽微な薬害症状を認める ++:中程度の薬害症状を認める
+++ :重度の薬害症状を認める

その他 調査基準の葉数 100 葉を満たす前にうどんこ病の初発を認めたため、調査葉 100 葉未満より試験を開始した。

作物名

(2023) 年度委託

(実えんどう)

対象病害虫名・学名 うどんこ病 *Oidium* 属菌

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

3. 試験成績

表1 薬効調査結果

供試薬剤		処理方法	反復	10月19日 (1回目散布前)							10月25日 (1回目散布6日後、2回目散布前)									
				調査 葉数	指数別発病葉数				発病 葉率 (%)	発病度	調査 葉数	指数別発病葉数				発病 葉率 (%)	発病度			
					0	1	2	3				4	0	1	2			3	4	
27) KIF-28FL	12.5% 硫黄 塩基性塩化銅 Lot. 23-026F	500倍希釈 200L/10a 散布	I	67	67	0	0	0	0	0.0	0.0	71	71	0	0	0	0	0.0	0.0	
II			100	99	1	0	0	0	0	1.0	0.3	100	100	0	0	0	0	0.0	0.0	
III			100	88	12	0	0	0	0	12.0	3.0	100	100	0	0	0	0	0.0	0.0	
				Ave.	89.0						4.3	1.1	90.3						0.0	0.0
対) ハーモメイト水和剤	80.0% 炭酸水素ナトリウム	800倍希釈 200L/10a 散布	I	65	64	1	0	0	0	1.5	0.4	93	93	0	0	0	0	0.0	0.0	
II			60	59	1	0	0	0	0	1.7	0.4	77	77	0	0	0	0	0.0	0.0	
III			100	88	12	0	0	0	0	12.0	3.0	100	100	0	0	0	0	0.0	0.0	
				Ave.	75.0					5.1	1.3	90.0						0.0	0.0	
無処理	-		I	54	54	0	0	0	0	0.0	0.0	58	52	6	0	0	0	10.3	2.6	
II			80	80	0	0	0	0	0	0.0	0.0	100	75	25	0	0	0	25.0	6.3	
III			88	86	2	0	0	0	0	2.3	0.6	100	70	30	0	0	0	30.0	7.5	
				Ave.	74.0					0.8	0.2	86.0						21.8	5.5	

供試薬剤		処理方法	反復	11月1日 (2回目散布7日後、3回目散布前日)							11月9日 (3回目散布7日後、4回目散布前)								
				調査 葉数	指数別発病葉数				発病 葉率 (%)	発病度	調査 葉数	指数別発病葉数				発病 葉率 (%)	発病度		
					0	1	2	3				4	0	1	2			3	4
27) KIF-28FL	12.5% 硫黄 塩基性塩化銅 Lot. 23-026F	500倍希釈 300L/10a 散布	I	86	86	0	0	0	0	0.0	0.0	100	100	0	0	0	0	0.0	0.0
II			100	100	0	0	0	0	0	0.0	0.0	100	100	0	0	0	0	0.0	0.0
III			100	99	1	0	0	0	0	1.0	0.3	100	100	0	0	0	0	0.0	0.0
				Ave.	95.3					0.3	0.1	100.0						0.0	0.0
対) ハーモメイト水和剤	80.0% 炭酸水素ナトリウム	800倍希釈 300L/10a 散布	I	100	100	0	0	0	0	0.0	0.0	100	100	0	0	0	0	0.0	0.0
II			84	84	0	0	0	0	0	0.0	0.0	100	100	0	0	0	0	0.0	0.0
III			100	100	0	0	0	0	0	0.0	0.0	100	92	3	5	0	0	8.0	3.3
				Ave.	94.7					0.0	0.0	100.0						2.7	1.1
無処理	-		I	72	72	0	0	0	0	0.0	0.0	94	80	2	5	6	1	14.9	9.0
II			96	79	10	2	1	4	17.7	8.6	100	65	4	10	11	10	35.0	24.3	
III			100	81	6	3	2	8	19.0	12.5	100	51	15	22	12	0	49.0	23.8	
				Ave.	89.3					12.2	7.0	98.0						33.0	19.0

供試薬剤		処理方法	反復	調査 葉数	11月15日 (4回目散布6日後)					発病 葉率 (%)	発病度	防除価
					0	1	2	3	4			
				調査 葉数	0	1	2	3	4	葉率 (%)	発病度	防除価
27) KIF-28FL	12.5% 硫黄 塩基性塩化銅 Lot. 23-026F	500倍希釈 300L/10a 散布	I	120	120	0	0	0	0	0.0	0.0	
II			120	120	0	0	0	0	0.0	0.0		
III			120	120	0	0	0	0	0.0	0.0		
				Ave.	120.0					0.0	0.0	100
対) ハーモメイト水和剤	80.0% 炭酸水素ナトリウム	800倍希釈 300L/10a 散布	I	120	120	0	0	0	0	0.0	0.0	
II			120	110	2	8	0	0	8.3	3.8		
III			120	108	6	6	0	0	10.0	3.8		
				Ave.	120.0					6.1	2.5	90.3
無処理	-		I	120	79	13	10	11	7	34.2	19.7	
II			120	79	3	3	7	28	34.2	29.6		
III			120	77	1	11	11	20	35.8	28.3		
				Ave.	120.0					34.7	25.8	-

表2 薬害調査結果

供試薬剤	処理方法	反復	調査 株数	10月25日 (1回目散布6日後)	11月1日 (2回目散布7日後)	11月9日 (3回目散布7日後)	11月15日 (4回目散布6日後)
				葉・茎	葉・茎	葉・茎	葉・茎
27) KIF-28FL	500倍希釈	I	32	—	—	+	+
硫黄	12.5% 200~300L/10a	II	32	—	—	+	+
塩基性塩化銅	30.5% 散布	III	32	—	—	+	+
対) ハーモメイト水和剤	800倍希釈	I	32	—	—	—	—
炭酸水素ナトリウム	80.0% 200~300L/10a	II	32	—	—	—	—
	散布	III	32	—	—	—	—
無処理	-	I	32	—	—	—	—
		II	32	—	—	—	—
		III	32	—	—	—	—

4. 考 察

10月19日に初発を確認し、4回目散布6日後の11月15日には無処理の発病株率34.7%、発病度25.8の中発生条件下での試験となった。

このような条件下で、対照剤のハーモメイト水和剤処理区は、4回目散布6日後において防除価90.3と高い防除効果が認められた。

効果の判定は4回目散布6日後(11月15日)の発病度より算出した防除価を用いた。

試験薬剤 KIF-28FL 処理区では、3回目散布7日後および4回目散布6日後に茎および葉に軽微な葉害が認められた(図1)。なお、本葉害は実えんどうの生育への影響は認めなかった。

27) KIF-28FL 500倍希釈 AAA±

本剤の500倍希釈溶液の散布は、対照薬剤のハーモメイト水和剤500倍希釈溶液の散布と比較して優る防除効果を示し、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

葉害は3回目散布7日後および4回目散布6日後に茎および葉に軽微な葉害が認められたが、生育への影響はなかった。開花時期に試験が終了したため莢での葉害は確認できなかった。



図1 KIF-28FL 処理区における茎および葉の葉害(11月9日:3回目散布7日後)

対 象 病 害 虫 名・学 名 褐紋病 *Mycosphaerella pinides*

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

担当者氏名 本田 傑, 福元 智博

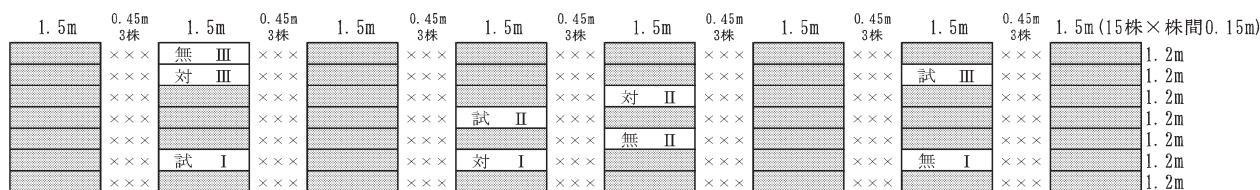
1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県南さつま市金峰町大野 2200 農業開発総合センター 場内露地畑

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 中発生, 4 月 27 日に初発確認。

耕種概要

品種 : ニムラサダスナップ, 播種 : 2024 年 2 月 21 日, 定植 : 2024 年 3 月 11 日, 栽植距離 : 畝間 120 cm × 株間 15 cm, 1 穴 2 粒植え, 施肥 : オール 14 (N:P:K=14:14:14) 80kg/10a, 苦土石灰 120kg/10a, 苦土重焼りん (N:P:K=0:35:0) 40kg, 土壌消毒 : なし, 土性 : 淡色アロフェン質黒ボク土, 試験期間中の防除薬剤 : 4 月 3 日アニキ乳剤 2,000 倍希釈 200L/10a, 4 月 16 日ディアナSC 2,500 倍希釈 200L/10a, 5 月 2 日グレーシア乳剤 2,500 倍希釈 300L/10a, その他の一般管理は慣行に従った。

区制・面積 1 区 1.8 m² (1.2m × 1.5m), 10 株 3 反復

試 : ZMF-2101 乳剤 1,500 倍希釈散布, 対 : スクレアフロアブル 2,000 倍希釈散布,

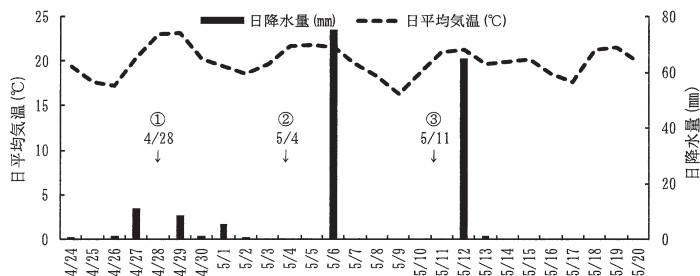
無 : 無処理, クミテン 3,300 倍希釈散布, × : 緩衝株, I, II, III は反復を示す

処理年月日, 量, 方法, 処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024 年 4 月 28 日, 5 月 4 日, 5 月 11 日 (計 3 回)

(処理方法) 所定濃度の各薬剤を 300L/10a 相当量, 背負い式電動噴霧器により散布した。なお, 各処理には展着剤「クミテン」を 3,300 倍希釈になるよう加用した。

(処理前後の降雨) 薬剤散布日に降雨はなく, 各薬剤処理に対する降雨の影響はなかったと考えられる。



観測地点: 鹿児島県加世田アメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 薬効調査 : 2024 年 4 月 27 日 (1 回目散布前日), 5 月 3 日 (1 回目散布 5 日後, 2 回目散布前日), 5 月 10 日 (2 回目散布 6 日後, 3 回目散布前日), 5 月 18 日 (3 回目散布 7 日後) (計 4 回)

被害調査 : 2024 年 5 月 3 日 (1 回目散布 5 日後), 5 月 10 日 (2 回目散布 6 日後), 5 月 18 日 (3 回目散布 7 日後) (計 3 回)

(調査方法) 薬効調査 : 各区 15 株の任意の上位葉 100 葉について発病指数別に調査し, 発病葉率, 発病度, 防除価を算出した。

発病指数 0: 発病を認めない 1: 病斑面積率が葉面積の 5% 未満

2: 病斑面積率が葉面積の 5~20% 未満 3: 病斑面積率が葉面積の 20~50% 未満

4: 病斑面積率が葉面積の 50% 以上

発病度 = {Σ (各発病指数 × 発病程度別葉数) / (調査葉数 × 4)} × 100

防除価 = 100 × {1 - (処理区での発病度 / 無処理区での発病度)}

茎葉および莢について調査時に肉眼観察し、症状の有無を以下の内容で調査した。

－：薬害症状を認めない ＋：軽微な薬害症状を認める ＋＋：中程度の薬害症状を認める

＋＋＋：重度の薬害症状を認める

その他

(1) 試験期間中、一部ナモグリバエ類による被害を確認したが、試験に影響を及ぼす害虫発生は認められなかった。

3. 試 験 成 績

表 1 薬効調査結果

区	処理方法	反復	調査 葉数	調査日5月18日（3回目散布7日後）							
				発病程度別葉数					発病 率率	発病度	防除価
				0	1	2	3	4			
25) ZMF-2101乳剤 トリホリン 18.0%	1500倍	I	100	65	22	13	0	0	35.0	12.0	
	希釈散布	II	100	74	21	5	0	0	26.0	7.8	
	300L/10a	III	100	84	15	1	0	0	16.0	4.3	
lot. 23Z11	クミテン3, 300倍希釈で加用	Ave.	100.0						25.7	8.0	42.0
対) スクレアフロアブル マンデ ストロビン 40.0%	2000倍	I	100	73	19	8	0	0	27.0	8.8	
	希釈散布	II	100	78	17	5	0	0	22.0	6.8	
	300L/10a	III	100	77	17	6	0	0	23.0	7.3	
	クミテン3, 300倍希釈で加用	Ave.	100.0						24.0	7.6	44.9
無処理	クミテン3, 300倍希釈水	I	100	65	14	21	0	0	35.0	14.0	
	300L/10a散布	II	100	61	20	19	0	0	39.0	14.5	
		III	100	57	34	9	0	0	43.0	13.0	
		Ave.	100.0						39.0	13.8	—

表 2 薬害調査結果

区	処理方法	反復	5月3日	5月10日	5月18日
			1回目散布5日後	2回目散布6日後	3回目散布7日後
			茎葉・莢		
25) ZMF-2101乳剤 トリホリン 18.0 %	1500倍	I	—	—	—
	希釈散布	II	—	—	—
	300L/10a	III	—	—	—
対) スクレアフロアブル マンデ' ストロビ' ン 40.0 %	2000倍	I	—	—	—
	希釈散布	II	—	—	—
	300L/10a	III	—	—	—
無処理	クミテン3, 300倍希釈水	I	—	—	—
	300L/10a散布	II	—	—	—
		III	—	—	—

4. 考 察

褐紋病の初発生を4月27日に各区で認めた (ZMF-2101 乳剤：発病葉率 3.0 % , スクレアフロアブル：発病葉率 1.3 % , 無処理：発病葉率 1.7 %) 。その後、褐紋病の病勢は進展し、3回目散布7日後の5月18日には無処理の発病株率 39.0 % , 発病度 13.8 の中発生条件下での試験となった。

そのような条件下で、対照剤のスクレアフロアブル 2,000 倍希釈散布区は、5月18日 (3回目散布7日後) 調査において防除価 44.9 とやや低い防除効果が認められ、本試験における効果の判定は可能であると判断した。

効果の判定は、5月18日 (3回目散布7日後) 調査における発病度から算出した防除価を用いて評価した。

25) ZMF-2101 乳剤 1,500 倍希釈散布 B C C -

本剤の 1,500 倍希釈散布は、対照のスクレアフロアブル 2,000 倍希釈散布と比較して同等の効果が認められた。

無処理と比較してやや低い効果が認められ、効果はやや低い実用性はあると考えられる。

本処理による薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 宮崎試験場

担当者氏名 吉村拓真 和田倉誠也 福元義人

1. 試験目的 薬効および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 11913 一般社団法人日本植物防疫協会宮崎試験場

対象病害虫発生状況 中発生(接種) 12 月 11 日初発を確認。

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:ニムラサラダスナップ 播種:2023 年 10 月 3 日 施設栽培 土性:壤土 栽植距離:畝間 120 cm 株間 15 cm 1 条植え

施肥(10a 当たり):堆肥 3000kg 苦土石灰 160kg くみあい有機入りペレット 888(8-8-8) 63kg CDU 複合燐加安特 S222(12-12-12) 42kg 試験期間中の防除薬剤:なし その他一般管理は慣行に従った。

区制・面積・試験区の構成 1 区 3.6 m²(1.2m×3.0m) 20 株 4 連制

		1-I	2-I	3-I
	×		×	×
		2-II	3-II	1-II
	●		●	●
3-III	1-III			2-III
×	×		×	×
1-IV		2-IV	3-IV	

1:ファンタジスタフロアブル

I,II,III,IVは連制を示す。

2:アミスター20フロアブル

空欄は他剤散布区を示す。

3:無処理

× は11/25に設置した感染源を示す。

● は12/4に追加で設置した感染源を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2023 年 11 月 24 日、12 月 1 日、9 日および 20 日の計 4 回。

(作物のステージ) 初回処理時:開花期、草丈 80~90cm 最終処理時:収穫期、草丈 110~130cm

(処理方法) 背負式バッテリー噴霧機(MSB1510Li 丸山製作所)を使用して、130~210L/10a の割合で散布した。薬液には展着剤(クミテン 4000 倍)を加用した。

(処理前後の降雨影響) 施設のため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	11/24	25	26	27	28	29	30	12/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
平均気温(℃)	21.1	21.2	20.3	20.7	19.9	19.5	20.2	19.6	20.4	20.7	20.2	16.3	19.9	20.4	19.1	17.0	20.3
月日	12/11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
平均気温(℃)	17.7	20.9	19.0	19.7	22.0	17.7	17.3	16.8	11.3	16.1	16.9	17.5	17.7	16.0	17.7	18.0	18.1

観測地点:日植防宮崎試験場内施設 太枠は散布日を示す

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:12 月 1 日(初回処理 7 日後)、8 日、15 日、19 日、22 日および 27 日(最終処理 7 日後)

薬害試験:12 月 1 日、8 日、15 日、19 日、22 日および 27 日

(調査方法) 各試験区全株の着生莢について、発病莢および収穫に達した莢を数え(調査莢は除去)、最終調査時には幼莢を含む全着生莢について発病の有無および発病箇所数を調査し、発病率を算出した。発病率および発病箇所数の平均値より無処理に対する防除価を求めた。

防除価 = (1-処理区平均発病率および発病箇所数÷無処理区平均発病率および発病箇所数)×100

薬害は茎葉、花および莢を対象に、処理時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

-:薬害を認めない +:軽微な薬害症状を認める ++:中程度の薬害症状を認める

+++ :重度の薬害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

11 月 25 日(初回処理翌日)に感染源を圃場内に均等に 6 個設置した。12 月 4 日(2 回目処理 3 日後)に追加で 3 個設置した。感染源は、土壌を充填した素焼き鉢に菌核を浅く埋没させ子囊盤を形成させたものを使用した。菌核の作製には、場内保存株 (MSS0204)を使用した。

3. 試 験 成 績

薬効調査結果

供試薬剤	処理方法	連制	調査 莢数	調査日毎の発病莢数						発病莢数 合計	発病率 (%)	防除価	発病 箇所数	防除価
				12/1	12/8	12/15	12/19	12/22	12/27					
147) ファンタジスタフロアブル ピリベンカルブ 18.7%	1000倍 散布	I	522	0	0	0	0	1	1	2	0.4		3	
		II	463	0	0	0	1	0	0	1	0.2		0	
		III	482	0	0	0	0	0	0	0	0		4	
		IV	417	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
		平均	489.0								0.2	97.8	1.8	98.3
Lot.No. E2G05 対) アミスター20フロアブル アゾキシストロビン 20.0%	2000倍 散布	I	481	0	0	0	1	0	1	2	0.4		6	
		II	492	0	0	0	2	0	2	4	0.8		22	
		III	391	0	0	0	1	2	2	5	1.3		22	
		IV	447	0	0	0	1	2	6	9	2.0		33	
		平均	454.7								1.1	88.0	20.8	80.3
無処理		I	502	0	0	0	5	5	13	23	4.6		42	
		II	437	0	0	1	17	11	25	54	12.4		114	
		III	483	0	0	4	18	10	11	43	8.9		98	
		IV	422	0	0	0	15	17	13	45	10.7		169	
		平均	474.0								9.2		105.8	

薬害調査結果

供試薬剤	処理方法	連制	調査日											
			12/1		12/8		12/15		12/19		12/22		12/27	
			茎葉	花・莢	茎葉	花・莢	茎葉	花・莢	茎葉	花・莢	茎葉	花・莢	茎葉	花・莢
147) ファンタジスタフロアブル	1000倍 散布	I	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		II	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		III	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		IV	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
対) アミスター20フロアブル	2000倍 散布	I	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		II	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		III	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		IV	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無処理		I												
		II												
		III												
		IV												

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

初回処理翌日に感染源を設置したものの発病が認められず、12 月 4 日に感染源を追加し発病を促したところ、7 日後の 12 月 11 日に葉で初発を確認した。その後、12 月 15 日に莢における初発を認めた。以降、ゆるやかに発病が進展し、12 月 27 日の最終調査時には無処理区の発病程度は中発生となった。以上のような条件において、対照薬剤のアミスター20フロアブルは高い防除効果を示した。効果の判定は発病率および発病箇所数より行った。

147) ファンタジスタフロアブル 1000 倍散布 AAA-

本剤の 1000 倍散布は、対照薬剤のアミスター20フロアブル 2000 倍散布と比較して防除効果が優り、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと思われる。本剤散布による薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 宮崎試験場

担当者氏名 吉村拓真 和田倉誠也 福元義人

1. 試験目的 薬効および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 11913 一般社団法人日本植物防疫協会宮崎試験場

対象病害虫発生状況 中発生(接種) 12月11日初発を確認。

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:ニムラサラダスナップ 播種:2023年10月3日 施設栽培 土性:壤土 栽植距離:畝間120cm 株間15cm 1条植え

施肥(10a当たり):堆肥3000kg 苦土石灰160kg くみあい有機入りペレット888(8-8-8) 63kg CDU 複合燐加安特 S222 (12-

12-12) 42kg 試験期間中の防除薬剤:なし その他一般管理は慣行に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区3.6㎡(1.2m×3.0m) 20株 4連制

1-I	2-I		3-I	4-I
2-II	3-II	4-II	1-II	
4-III		1-III	2-III	3-III
	1-IV	3-IV	4-IV	2-IV

1:ケンジャフロアブル

I,II,III,IVは連制を示す。

2:ミギワ10フロアブル

空欄は他剤散布区を示す。

3:アミスター20フロアブル

✕は11/25に設置した感染源を示す。

4:無処理

●は12/4に追加で設置した感染源を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2023年11月24日、12月1日、9日および20日の計4回。

(作物のステージ) 初回処理時:開花期、草丈80~90cm 最終処理時:収穫期、草丈110~130cm

(処理方法) 背負式バッテリー噴霧機(MSB1510Li 丸山製作所)を使用して、130~210L/10aの割合で散布した。薬液には展着剤(クミテン 4000倍)を加用した。

(処理前後の降雨影響) 施設のため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	11/24	25	26	27	28	29	30	12/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
平均気温(℃)	21.1	21.2	20.3	20.7	19.9	19.5	20.2	19.6	20.4	20.7	20.2	16.3	19.9	20.4	19.1	17.0	20.3
月日	12/11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
平均気温(℃)	17.7	20.9	19.0	19.7	22.0	17.7	17.3	16.8	11.3	16.1	16.9	17.5	17.7	16.0	17.7	18.0	18.1

観測地点:日植防宮崎試験場内施設 太枠は散布日を示す

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:12月1日(初回処理7日後)、8日、15日、19日、22日および27日(最終処理7日後)

薬害試験:12月1日、8日、15日、19日、22日および27日

(調査方法) 各試験区全株の着生莢について、発病莢および収穫に達した莢を数え(調査莢は除去)、最終調査時には幼莢を含む全着生莢について発病の有無および発病箇所数を調査し、発病莢率を算出した。発病莢率および発病箇所数の平均値より無処理に対する防除価を求めた。

$$\text{防除価} = (1 - \text{処理区平均発病莢率または発病箇所数} \div \text{無処理区平均発病莢率または発病箇所数}) \times 100$$

薬害は茎葉、花および莢を対象に、処理時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

- :薬害を認めない + :軽微な薬害症状を認める ++ :中程度の薬害症状を認める

+++ :重度の薬害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

11月25日(初回処理翌日)に感染源を圃場内に均等に6個設置した。12月4日(2回目処理3日後)に追加で3個設置した。感染源は、土壌を充填した素焼き鉢に菌核を浅く埋没させ子嚢盤を形成させたものを使用した。菌核の作製には、場内保存株(MSS0204)を使用した。

3. 試 験 成 績

薬効調査結果

供試薬剤	処理方法	連制	調査 英数	調査日毎の発病英数						発病英数 合計	発病英率 (%)	防除価	発病 箇所数	防除価
				12/1	12/8	12/15	12/19	12/22	12/27					
90) ケンジャフロアブル イソフエタミド 36.0%	3000倍 散布	I	546	0	0	0	0	1	1	2	0.4		2	
		II	450	0	0	0	1	2	0	3	0.7		7	
		III	428	0	0	0	0	2	0	2	0.5		13	
		IV	450	0	0	0	0	1	0	1	0.2		7	
		平均	468.5								0.5	94.6	7.3	93.1
Lot.No. 27910	1000倍 散布	I	584	0	0	0	0	0	0	0	0		5	
		II	478	0	0	0	1	0	1	2	0.4		12	
		III	392	0	0	0	0	0	2	2	0.5		23	
		IV	490	0	0	0	1	0	1	2	0.4		8	
		平均	484.7								0.3	96.7	12.0	88.7
Lot.No. T22-009	2000倍 散布	I	481	0	0	0	1	0	1	2	0.4		6	
		II	492	0	0	0	2	0	2	4	0.8		22	
		III	391	0	0	0	1	2	2	5	1.3		22	
		IV	447	0	0	0	1	2	6	9	2.0		33	
		平均	454.7								1.1	88.0	20.8	80.7
対) アミスター20フロアブル アゾキシストロビン 20.0%	無処理	I	502	0	0	0	5	5	13	23	4.6		42	
		II	437	0	0	1	17	11	25	54	12.4		114	
		III	483	0	0	4	18	10	11	43	8.9		98	
		IV	422	0	0	0	15	17	13	45	10.7		169	
		平均	474.0								9.2		105.8	

薬害調査結果

供試薬剤		処理方法	連制	調査日											
				12/1		12/8		12/15		12/19		12/22		12/27	
				茎葉	花・莢	茎葉	花・莢	茎葉	花・莢	茎葉	花・莢	茎葉	花・莢	茎葉	花・莢
90)	ケンジャフロアブル	3000倍 散布	I	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			II	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			III	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			IV	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
177)	ミギワ10フロアブル	1000倍 散布	I	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			II	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			III	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			IV	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
対)	アミスター20フロアブル	2000倍 散布	I	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			II	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			III	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			IV	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無処理		I	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			II	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			III	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			IV	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

初回処理翌日に感染源を設置したものの発病が認められず、12月4日に感染源を追加し発病を促したところ、7日後の12月11日に葉で初発を確認した。その後、12月15日に莢における初発を認めた。以降、ゆるやかに発病が進展し、12月27日の最終調査時には無処理区の発病程度は中発生となった。以上のような条件において、対照薬剤のアミスター20フロアブルは高い防除効果を示した。効果の判定は発病英率および発病箇所数より行った。

90) ケンジャフロアブル 3000倍散布 BAA-

本剤の3000倍散布は、対照薬剤のアミスター20フロアブル2000倍散布と比較して防除効果がほぼ同等、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと思われる。本剤散布による薬害は認められなかった。

177) ミギワ10フロアブル 1000倍散布 BAA-

本剤の1000倍散布は、対照薬剤のアミスター20フロアブル2000倍散布と比較して防除効果がほぼ同等、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと思われる。本剤散布による薬害は認められなかった。